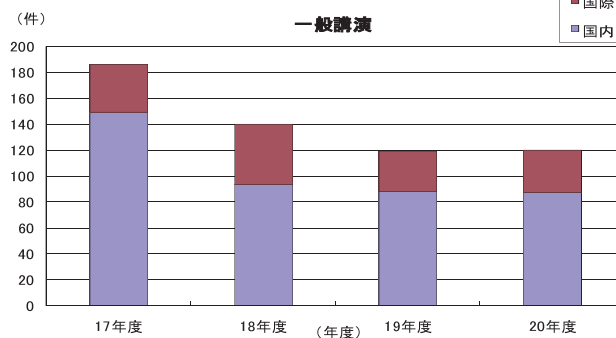
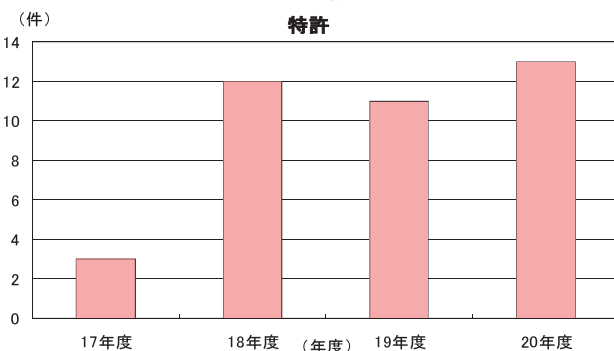
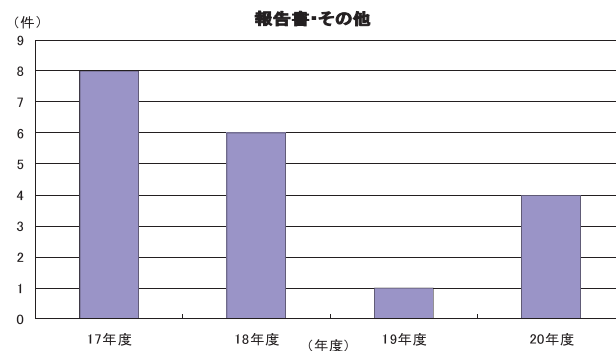
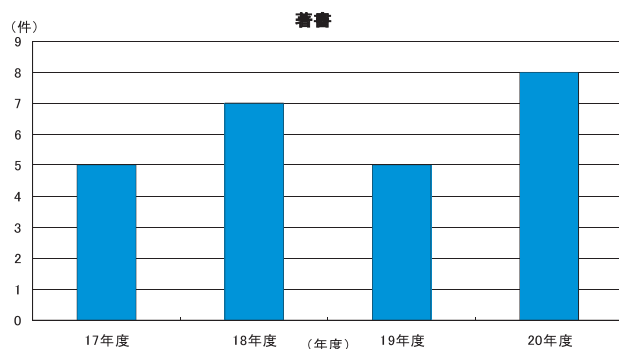
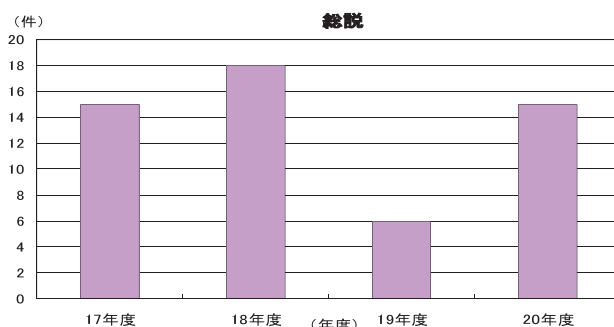
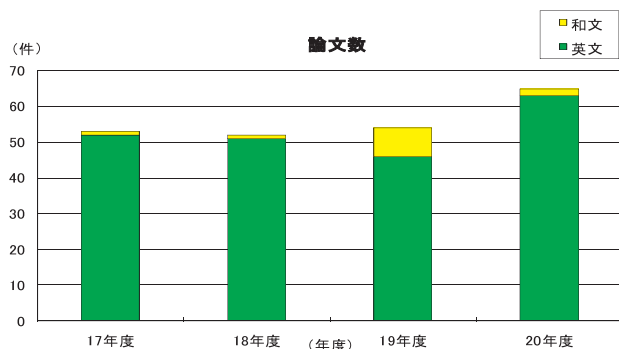
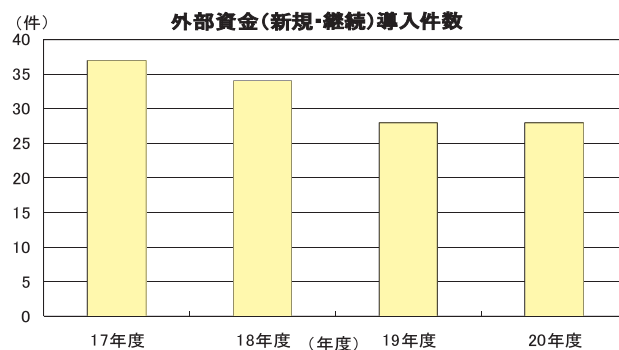
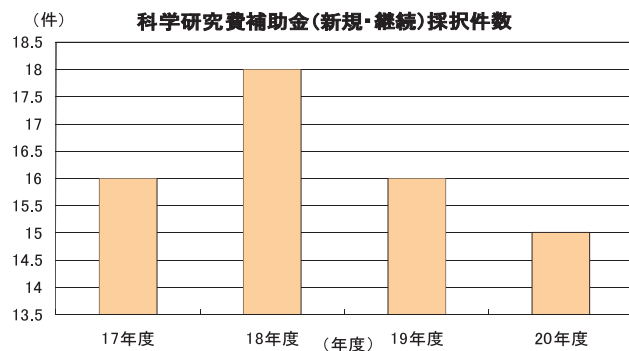
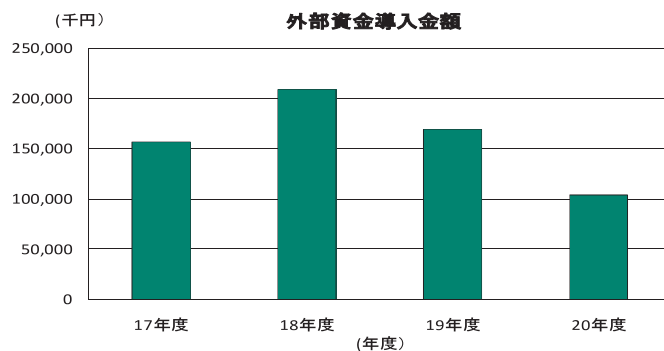
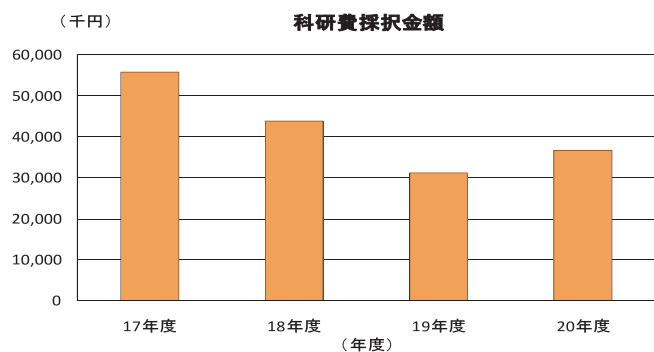




Graph



Research Funds

MEXT

物質循環／資源再生研究部門

1. 水上正勝（代表）、臼井 朗（分担），“二酸化炭素の深地層・深海底処分に関する実験的研究”，**基盤研究C**，平成17～18年度，2,000千円。
2. 川寄智佑（代表・愛媛大学）、石塚英男（分担），“超高温超高压変成相鉱物の相平衡再現実験と変成プロセスの精密解析”，**基盤研究B**，平成20～24年度，19,750千円。
3. 伊藤 孝（代表）、臼井 朗（分担），“新生代を通じた太平洋の溶存酸素極小層の消長”，**基盤研究C**，平成20～22年度，3,000千円。
4. 谷口雅基（代表）、蒲生啓司（分担），“異文化理解マインドの創出と国際的教員養成研究”，**萌芽研究**，平成20～22年度，3,300千円。

物質変換／物質創成研究部門

1. 隈本康司（小槻日吉三），“超高压反応を基軸とする環境調和型有機合成反応の開発”，**特別研究員奨励費**，平成16～17年度，1,800千円。
2. 小槻日吉三（代表）、市川善康（分担）、上田忠治（分担），“超高压反応を基軸とする高効率官能基変換プロセスの開発”，**特定領域研究**，平成18年度，2,300千円。
3. 小槻日吉三（代表）、市川善康（分担）、上田忠治（分担），“超高压反応を基軸とする高効率官能基変換プロセスの開発”，**特定領域研究**，平成19～20年度，4,400千円。
4. 市川善康（代表）、小槻日吉三（分担），“シグマトロピー反応をもちいた生体機能分子の実用的合成”，**特定領域研究**，平成17年度，3,400千円。
5. 市川善康（代表）、小槻日吉三（分担），“特異な構造をもつ含窒素天然物の合成研究”，**基盤研究B**，平成17～20年度，15,300千円。
6. 市川善康（代表）、小槻日吉三（分担），“アリルシアナートの転位反応を活用した生体機能分子の実用的合成”，**特定領域研究**，平成18～19年度，5,800千円。
7. 上田忠治，“電気分析化学的アプローチによる生体内微量金属の生理活性作用発現機構の解明”，**若手研究B**，平成15～17年度，3,700千円。
8. 上田忠治（代表）、小槻日吉三（分担），“有機ハロゲン化物の電気化学的高感度検出法の開発”，**基盤研究C**，平成20～22年度，4,650千円。
9. 米村俊昭（代表）、上田忠治（分担），“環境志向型多機能ハイブリッド錯体の機能発現メカニズムの解明と応用”，**基盤研究C**，平成20～22年度，4,030千円。

機能開拓／機能評価研究部門

1. 宇高恵子，“HLA結合性ペプチド予想システム構築とワクチン開発”，**基盤研究C**，平成19～21年度，3,500千円。
2. 本家孝一，“硫酸化糖脂質の役割と欠損による病態”，**特定領域研究**，平成14～18年度，総額49,000千円。
3. 桃 秀人，“記憶痕跡の動的変化の分子メカニズム”，**基盤研究B**，平成16～18年度，14,900千円。
4. 桃 秀人，“匂いの絆：その刷り込みのメカニズム”，**特定領域研究**，平成17年度，4,100千円。
5. 奥谷文乃（代表）、桃 秀人（分担），“主嗅球神経回路における可塑性の多角的解析”，**特定領域研究**，平成17年度，2,400千円。

6. 桃 秀人，“匂い環境適応における細胞接着分子OCAMの役割”，**特定領域研究**，平成19～20年度，6,300千円。
7. 奥谷文乃（代表）、桃 秀人（分担），“新生仔による母の匂いの記憶成立におけるエピジェネティックメカニズム”，**基盤研究C**，平成19～20年度，3,500千円。
8. 桃 秀人，“匂いの絆：その刷り込みのメカニズム”，**基盤研究B**，平成20～22年度，16,110千円。
9. 吉田勝平，“発光性ハイブリッド錯体を活用した波長変換用光機能資材の開発と応用”，**基盤研究B**，平成18～20年度，15,000千円。
10. Laskar R. Inamur（渡辺 茂），“金／半導体ナノ粒子を利用した高感度化学センサーの研究開発”，**萌芽研究**，平成18～19年度，2,400千円。
11. 彌田智一（代表）、渡辺 茂（分担），“超異方性ナノシリンドラー構造形成・転写過程のX線散乱一分光同評価とダイナミクス”，**特定領域研究**，平成18～22年度，84,500千円。

環境共生／生命環境研究部門

1. 松崎茂展（代表）、今井章介（分担），“新規黄色ブドウ球菌特異的溶菌因子によるMRSA/VRSA除菌・治療法の開発”，**萌芽研究**，平成16～17年度，3,300千円。
2. 遠藤文香（代表）、今井章介（分担），“新規黄色ブドウ球菌特異的溶菌因子によるMRSA/VRSA除菌・治療法の開発”，**萌芽研究**，平成16～17年度，3,300千円。
3. 脇口 宏（代表）、今井章介（分担），“慢性活動性EBウイルス感染症の新規治療法に関する研究”，**基盤研究C**，平成16～17年度，3,600千円。
4. 今井章介，“EBウイルス依存症に発現変化する細胞遺伝子群の網羅的解析”，**基盤研究C**，平成16～17年度，3,600千円。
5. 細川卓利（代表）、今井章介（分担），“小児の難治性EBウイルス感染症に対する効率的ペプチドワクチンの新規開発”，**萌芽研究**，平成16～17年度，2,800千円。
6. 大畑雅典（代表）、今井章介（分担），“ウイルス関連造血器腫瘍におけるメチル遺伝子の解析および新規治療法に関する研究”，**基盤研究C**，平成18～19年度，3,000千円。
7. 脇口 宏（代表）、今井章介（分担），“慢性活動性EBウイルス感染症に対する包括的新規治療戦略に関する研究”，**基盤研究C**，平成18～19年度，3,400千円。
8. 松崎茂展（代表）、今井章介（分担），“ファージ由来溶菌酵素を利用する黄色ブドウ球菌眼感染症に対する新規治療法の開発研究”，**萌芽研究**，平成18～19年度，3,300千円。
9. 小林道也（代表）、今井章介（分担），“手術部位の薬剤耐性黄色ブドウ球菌感染症に対するファージ溶菌因子を活用した新制御法”，**萌芽研究**，平成18～19年度，3,300千円。
10. 今井章介，“EBウイルス依存的に発現変化する細胞悪性化関連遺伝子群の同定とその機構”，**基盤研究C**，平成19～20年度，3,500千円。
11. 松崎茂展，“バクテリオファージの溶菌活性を利用する新規ピロリ菌除菌法の開発研究”，**基盤研究C**，平成20～22年度，4,140千円。
12. 川合研兒（代表）、大嶋俊一郎（分担），“魚類エドワジウラ症原因菌のGAPDHの抗原構造と免疫賦活能に関する研究”，**基盤研究B**，平成17～19年度，16,000千円。
13. 中村裕之，“環境中物質と好酸球関連蛋白遺伝子の相互作用解明によるアレルギー疾患の予防”，**基盤研究B**，平成17～19年度，13,500千円。

Other Funds

物質循環／資源再生研究部門

1. 柳澤和道，“水熱法による新規機能性酸化物の合成（共同研究）”，住友化学工業（株），平成17年度（16年度からの継続），1,000千円。
2. 柳澤和道，“水熱合成法による単結晶材料の創生に関する基礎研究（共同研究）”，トヨタ自動車（株），平成17年度（16年度からの継続），1,960千円。
3. 柳澤和道（分担），“高知県地域結集型共同研究事業「次世代情報デバイス用薄膜ナノ技術の開発」にかかる冷陰極光源技術の開発（共同研究）”，高知県産業振興センター，平成17年度，2,000千円。
4. 柳澤和道，“石炭灰等発泡剤創製に関する研究”，東海コンクリート工業（株），平成17年度，500千円。
5. 柳澤和道，“柳澤教授研究助成金”，堺化学工業（株），平成17年度，200千円。
6. 柳澤和道，“奨学寄付金”，吉野石膏（株），平成17度，2,000千円。
7. 柳澤和道，“柳澤教授研究助成金”，ニチアス（株），平成17年度，1,000千円。
8. 柳澤和道，“水熱合成法による単結晶材料の創生に関する基礎研究（共同研究）”，平成18年度，5,775千円。
9. 柳澤和道，奨学寄附金，柳澤教授研究助成金，平成18年度，1,000千円。
10. 柳澤和道，奨学寄附金，平成18年度，1,000千円。
11. 柳澤和道（代表）・恩田歩武，“水熱合成法による単結晶材料の創生に関する基礎研究”，共同研究（トヨタ自動車），平成19年4月1日～平成20年3月31日，6,300千円。
12. 柳澤和道（代表）・恩田歩武，“低温過熱蒸気によるアスベストの無害化技術の開発／パイロット規模装置による無害化処理条件の決定”，共同研究（大旺建設），平成19年10月7日～平成20年3月20日，1,000千円。
13. 柳澤和道，奨学寄附金（ニチアス），柳澤教授研究助成金，2007年度，2,000千円。
14. 柳澤和道（代表），恩田歩武，“水熱合成法による単結晶材料の創生に関する基礎研究”，トヨタ自動車，平成20年度，8,400千円。
15. 柳澤和道，“ソルボサーマル反応による酸素還元触媒用硫化物の合成”，受託研究（平成20年度JSTシーズ発掘試験，科学技術振興機構），2,000千円。
16. 柳澤和道，“カルサイト双晶を利用した岩石・コンクリート応用計実用化のためのカルサイト結晶成長技術研究”，受託研究（海洋研究開発機構），平成20年度，5,500千円。
17. 柳澤和道，“低温過熱蒸気によるアスベストの無害化技術の開発／パイロット規模装置による無害化処理条件の決定”，共同研究（大旺建設株式会社），平成20年度，501千円。
18. 柳澤和道，“柳澤教授研究助成金”，奨学寄付金（ニチアス株式会社），平成20年度，2,000千円。
19. 石塚英男（代表），“東南極ナピア岩体の地球化学とその初期地球史解明における意義”，国立極地研究所共同研究費（一般研究），平成17～19年度，134千円／単年度。
20. 渋谷和雄（代表・極地研），石塚英男（分担），“南極氷床・南大洋変動史の復元と地球環境変動システムの解明：地形・地質学的手法による第四紀の変動”，国立極地研究所共同研究費（プロジェクト研究），平成16～21年度，3,000千円／単年度。
21. 石塚英男（代表），“東南極ナピア岩体の原岩構成からみた太古代大陸地殻の形成と進化”，国立極地研究所共同研究費（一般研究），平成20～22年度，210千円／単年度。
22. 臼井 朗，“コバルトリッチクラスト中の白金属元素の濃集機構（共同研究）”，石油天然ガス・金属鉱物資源機構，平成17.9～19.2，2,330千円。
23. 臼井 朗，奨学寄附金，三菱マテリアル資源開発 KK，平成19年度，2,220千円。
24. 臼井 朗，“コバルトリッチクラスト中の白金属元素の

濃集機構（共同研究），石油天然ガス・金属鉱物資源機構，平成19.10～20.2，2,330千円。

25. 臼井朗，“資源地学”，寄附金，三菱テクノマテリアル KK，平成20年度，1,400千円。
26. 蒲生啓司，“歯科有機材料の溶出挙動について（共同研究，分担）”，山本貴金属地金（株），平成17年度，440千円。
27. 蒲生啓司，“オゾン分解による廃液処理（共同研究，分担）”，（株）タスカルズ，平成18年度，110千円。

物質変換／物質創成研究部門

1. 小槻日吉三，“合成医・農業資源の探索に関する研究”，住友化学（株）農業化学品研究所，平成17度，392千円。
2. 小槻日吉三，“環境調和型合成技術の確立による有用医薬資源の開発”，JST シーズ発掘試験，平成18年度，2,000千円。
3. 小槻日吉三，“不斉ピロリジン試薬の合成”，和光純薬工業株式会社，平成18年度，650千円。
4. 上田忠治，“無機高分子錯体および酵素を含有した新規ポリマーによるガスセンシング”，（株）日本油脂，平成18年度，200千円。
5. 小槻日吉三，“超高压／多成分連結反応を基軸とする多官能性化合物の効率的合成”，旭硝子財団研究助成，平成18～19年度，5,000千円。
6. 小槻日吉三，“新規有機不斉触媒の開発と利用”，JST シーズ発掘試験，平成19年度，2,000千円。
7. 小槻日吉三，Jacques Maddaluno，“Study on Green Chemical Organic Synthesis Using High-Pressure Techniques”，日仏交流促進事業<SAKURA>共同研究／日本学術振興会，平成19～20年度，2,000千円。
8. 市川 善康，“歪みをもつ環状カルバメート分子の反応を活用した，水溶液中における人工糖質複合体の合成研究”，平成19年度基礎科学研究助成 住友財団，800千円。
9. 市川善康，“シグマトロピー反応をもちいた含窒素生物活性物質の合成研究”，第22回 ノバルティス研究奨励金，平成20年度，1,000千円。
10. 上田忠治，“無機高分子錯体を含有した新規ポリマーの合成に関する研究”，（株）日本油脂，平成17年度，50千円。
11. 上田忠治，“無機質高分子錯体／機能性ポリマー複合材料に関する基礎的研究”，（株）日油，平成20年度，1,000千円。
12. 上田忠治，“無機高分子錯体を用いた有機－無機ハイブリッド分子の合成”，高銀地域経済振興財団，平成20年度，300千円。

機能開拓／機能評価研究部門

1. 宇高恵子，“人獣共通感染症克服のための包括的研究開発”，文部科学省・新興・再興感染症研究拠点プログラム（分担），平成17～21年度，19,800千円。
2. 宇高恵子，“能動学習法を活用したヒトHLA分子結合ペプチド予測と実証研究（共同研究）”，日本電気（株），平成17年度，4,000千円。
3. 宇高恵子，“個人のHLA型に合わせたペプチド免疫療法の開発”，科学技術振興機構重点地域研究開発推進事業・研究成果活用プラザおよびサテライト，独創的研究成果の育成，研究成果実用化検討（FS），平成17年度，2,000千円。
4. 宇高恵子，“WT1 癌抗原ペプチドを用いた癌の免疫療法の開発”，厚生労働科学研究費補助金による基礎研究成果の臨床応用推進研究事業（分担），平成18年度，800千円。
5. 宇高恵子，“個人のHLA型に合わせた免疫標的治療の開発”，JST シーズ発掘試験，平成18年度，2,000千円。
6. 宇高恵子，“能動学習法を活用したヒトHLA分子結合ペプチド予測と実証研究（共同研究）”，日本電気（株），平成18年度，4,000千円。
7. 宇高恵子（代表），“個人のHLA型に合わせたテラー

メードのT細胞ワクチン開発”，重点地域研究開発推進プログラム育成研究／（独）科学技術振興機構，平成19～21年度，90,000千円。

8. 本家孝一，“病態における膜マイクロドメイン糖鎖機能の解明”，科学技術振興機構JST 戦略的創造研究推進事業CREST，平成17～20年度，100,685千円。
9. 本家孝一，“キレーター脂質を用いる薬物輸送系の開発”，JST シーズ発掘試験，平成19年度，2,000千円。
10. 梶 秀人，“絆の神経基盤の解明”，公益信託高知新聞社・高知放送生命（いのち）の基金，平成19年度，500千円。
11. 吉田勝平，“波長選択光吸収・発光性色素の創出と農園芸フィルム開発への応用”，RSP事業／（独）科学技術振興機構，平成16～17年度，6,200千円。
12. 吉田勝平，“固体発光性色素の創出と農園芸用光調節フィルムの開発”，RSP事業／（独）科学技術振興機構，平成17年度，2,500千円。
13. 吉田勝平，“有機EL用ディスプレイ用色素の研究（共同研究）”，富士電気AT（株），平成17年度，1,500千円。
14. 吉田勝平，“蛍光体のフッ素コーティング剤への応用に関する研究（共同研究）”，（株）NIマテリアル，平成17～18年度，2,200千円。
15. 吉田勝平（代表），“個体発光性色素を活用した農園芸用波長変換被覆資材の開発”，重点地域研究開発推進事業／（独）科学技術振興機構，平成18～20年度，90,000千円。
16. 吉田勝平，“有機エレクトロルミネッセンス用発光体の開発研究”，株式会社ハリソン光技術研究所，平成20年度，1,500千円。
17. 吉田勝平，“青紫半導体レーザ対応情報記録材料の研究”，協和発酵ケミカル株式会社，平成20年度，2,000千円。
18. 渡辺 茂，“機能性ナノ粒子の設計・合成（受託研究）”，科学技術振興事業団，平成17～19年度，9,302千円。
19. 彌田智一（代表），渡辺 茂（分担），“高信頼性ナノ相分離構造テンプレートの創製”，戦略的創造研究推進事業／（独）科学技術振興機構（CREST），（平成14～20年度），総額130,000千円。
20. 渡辺 茂，“糖集積化ナノ粒子を利用したナノバイオ診断薬の研究開発”，JST シーズ発掘試験，平成18～19年度，2,400千円。

環境共生／生命環境研究部門

1. 藤原成悦（代表），今井章介（分担），“ヘルペスウイルス感染の胎児・小児期における実態把握と発症機構に関する研究”，分担研究課題“Dominant-negative EBNA1変異体によるEBV感染細胞の増殖制御”，成育委託研究事業，2005～2006年度，4,500千円。
2. 今井章介，“黄色ブドウ球菌バクテリオファージφMR11保有部位特異的DNA組換え酵素およびその認識配列を利用する新規DNA組換え系の構築”，科学技術振興機構，平成17年度，3,500千円。
3. 今井章介，“病原細菌に対する海洋深層水の影響に関する研究”，赤穂化成（株），平成17年度，225千円。
4. 今井章介，“EBウイルス陽性腫瘍性疾患に対する新しい特異的遺伝子治療の開発”，乳酸菌研究会研究助成，平成17年度，300千円。
5. 今井章介，“EBV感染と発がんに関する研究”，グラクソ・スミスクライン（株），平成17年度，300千円。
6. 今井章介，“EBV関連ヒト癌の発生機構と治療に関する研究”，（株）ツムラ，平成17年度，200千円。
7. 今井章介，“新しいEBウイルス抗体検出システムの診断学的有用性に関する研究”，受託研究，デンカ生研，平成17～18年度，1,500千円。
8. 今井章介，“ファージφMR11保有DNA組換え酵素及びその認識配列を利用する新規部位特異的DNA組換えシステム”，JSTシーズ発掘試験，平成18年度，2,000千円。
9. 津田正史，奨学寄附金，日本水産株式会社，平成19

年度，1,000千円。

10. 津田正史，共同研究，ヤンマー株式会社，平成19年度，500千円。
11. 津田正史，“微細藻類の分離・培養・生理活性物質の探索に関する研究（共同研究）”，メルシャン株式会社，平成20年度，1,000千円。
12. 津田正史，“海底微生物からの抗腫瘍性物質の探索と開発”，上原記念生命科学財団（研究助成受賞），平成20年3月11日，5,000千円。
13. 津田正史，共同研究，株式会社ヤクルト本社，平成20年度1000千円。
14. 津田正史，共同研究，ヤマサ醤油，平成20年度200千円。
15. 津田正史，共同研究，ヤンマー株式会社，平成20年度500千円。
16. 津田正史，奨学寄附金，日本水産株式会社，平成20年度1,000千円。
17. 大嶋俊一郎，“魚類冷水病のワクチン開発に関する研究”，RSP事業／（独）科学技術振興機構，平成15～17年度，6,400千円。
18. 大嶋俊一郎，“魚類の冷水病に対するワクチンの開発”，経済産業省（NEDO）・大学発事業創出，平成15～17年度，15,120千円。
19. 大嶋俊一郎，“魚類冷水病ワクチン”，科学技術振興機構独創的シーズ展開事業委託開発，平成17～20年度，200,000千円。
20. 大嶋俊一郎，“魚類類結節症ワクチンの開発に関する研究”，川崎三鷹製薬（株），平成17年度，1,000千円。
21. 大嶋俊一郎，“プリワクチン用アジュバント開発に関する研究”，共立製薬（株），平成17年度，1,500千円。
22. 大嶋俊一郎，“魚類新型ワクチンの開発に関する研究”，日本水産株式会社，平成17～20年度，2,000千円。
23. 大嶋俊一郎，“細菌性類結節症に対する実用的なワクチンの開発”，実証試験／（独）科学技術振興機構，平成18年度，5,000千円。
24. 大嶋俊一郎，“魚類感染症対策研究”，共同研究（高知県，川崎三鷹製薬（株）），平成18年度，2,440千円。
25. 大嶋俊一郎，“魚類感染症に対する薬剤開発”，ダイセル化学工業（株），平成18年度，700千円。
26. 大嶋俊一郎，“魚類感染症に対する予防法の確立”，日本水産（株），平成18年度，3,700千円。
27. 大嶋俊一郎，“魚類感染症ワクチンの開発”，共立製薬（株），平成18年度，1,500千円。
28. 大嶋俊一郎，“魚類新型飼料開発に関する研究”，日本水産株式会社，平成18年度，4,300千円。
29. 大嶋俊一郎，“主要海産魚に感染するイリドウイルスワクチンの開発”，JST シーズ発掘試験，平成19年度，2,000千円。
30. 大嶋俊一郎，“化学物質を用いた魚類感染症制御に関する研究”，ダイセル化学工業株式会社，平成19年度，1,700千円。
31. 大嶋俊一郎，“魚類細菌感染症の予防と治療に関する研究”，ダイセル化学工業株式会社，平成20年度，1,700千円。
32. 大嶋俊一郎，“魚類新規飼料開発に関する研究”，日本水産株式会社，平成20年度，1,900千円。
33. 中村裕之，“気管支喘息の有病率・罹患率およびQOLに関する全年齢階級別全国調査（免疫アレルギー疾患予防・治療・研究事業）”，厚生労働科学研究費補助金，平成16～18年度，6,700千円。
34. 中村裕之，秋丸国広，弘田量二，“アレルギー発症予防用環境中化学物質除去特殊フィルターの開発”，独立行政法人科学技術振興機構サテライト高知，平成18年度研究成果実用化検討研究，平成18年10月1日～平成19年2月28日，1,900千円。
35. 中村裕之，秋丸国広，弘田量二，櫻井克年，康峪梅（高知大学），竹之内渉（金星製紙株式会社），“アレルギー発症予防用特殊フィルターの開発”，松本章独立行政法人科学技術振興機構，平成18年度産学共同シーズイノベーション事業（顕在化ステージ），平成18年11月1日～平成19年10月31日，8,000千円。

Achievements

Journal Publications

物質循環／資源再生研究部門

- Mehta, B. K.; Kumamoto, K.; YANAGISAWA, K.; KOTSUKI, H., "A Novel Aromatic Alkylation of Anilines with Cyclic and Acyclic Ketones under Hydrothermal Conditions", *Tetrahedron Lett.*, **46**, 6953-6956 (2005).
- Feng, Q.; Hirasawa, M.; Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K., "Hydrothermal Soft Chemical Synthesis and Particle Morphology Control of BaTiO₃ in Surfactant Solutions", *J. Am. Ceram. Soc.*, **88**, 1415-1420 (2005).
- Zhang, W.; YANAGISAWA, K., "Hydrothermal Synthesis of ZnO Long Fibers", *Chem. Lett.*, **34**, 1170-1171 (2005).
- Rendón-Angeles, J.C.; Rangel-Hernández, Y.M.; López-Cuevas, J.; Pech-Canul M.I.; Matamoros-Veloza, Z.; YANAGISAWA, K., "Pseudomorphic Conversion of Mineral SrSO₄ to SrCrO₄ under Hydrothermal Conditions", *Proceedings of Joint 20th AIRAPT-43rd EHPRG Conference on Science and Technology of High Pressure*, **2005**, T13-0144.
- Matamoros-Veloza, Z.; Rendón-Angeles, J. C.; YANAGISAWA, K.; Cisneros-Guerrero, M. M.; Cisneros-Guerrero, M. A., "Preparation of Low-density Porous Glass-Ceramics under Hydrothermal Hot Pressing", *Proceedings of Joint 20th AIRAPT-43rd EHPRG Conference on Science and Technology of High Pressure*, **2005**, T13-P112.
- Zhu, Y.; YANAGISAWA, K.; Onda, A.; Kajiyoshi, K., "The Preparation of Nano-Crystallized Cristobalite under Hydrothermal Conditions", *J. Mater. Sci.*, **40**, 3829-3831 (2005).
- YANAGISAWA, K.; Zhu, K.; Shimanouchi, R.; Onda, A.; Kajiyoshi, K., "Hydrothermal Preparation of Hydroxyapatite Solid Solutions with Metal Ions", *Phosphorus Res. Bull.*, **19**, 99-105 (2005).
- YANAGISAWA, K.; Zhu, K.; Fijino, T.; Onda, A.; Kajiyoshi, K.; Ioku, K., "Preparation of Hydroxyapatite Ceramics by Hydrothermal Hot-Pressing Technique", *Key Eng. Mater. (Bioceramics vol. 18)*, **309-311**, 57-60 (2006).
- Rivas-Vázquez, L. P.; Rendón-Angeles, J. C.; Rodríguez-Galicia, J. L.; Gutiérrez-Chavarria, C. A.; Zhu, K. J.; YANAGISAWA, K., "Preparation of Calcium Doped LaCrO₃ Fine Powders by Hydrothermal Method and Its Sintering", *J. Euro. Ceram. Soc.*, **26**, 81-88 (2006).
- Hu, X.; YANAGISAWA, K.; Onda, A.; Kajiyoshi, K., "Effects of Hydrothermal Process on Formation of Calcium Silicate Hydrates at 250 °C", *J. Soc. Inorg. Mater. Jpn.*, **13**, 32-39 (2006).
- Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K.; Yoshimura, M., "Hydrothermal and Electrochemical Growth of Complex Oxide Thin Films for Electronic Devices", *J. Euro. Ceram. Soc.*, **26**, 605-611 (2006).
- YANAGISAWA, K.; Bao, N.; Shen, L.; Onda, A.; Kajiyoshi, K., "Development of a Technique to Prepare Porous Materials from Glasses", *J. Euro. Ceram. Soc.*, **26**, 761-765 (2006).
- Zhu, K.; YANAGISAWA, K.; Shimanouchi, R.; Onda, A.; Kajiyoshi, K., "Preferential Occupancy of Metal Ions in the Hydroxyapatite Solid Solutions Synthesized by Hydrothermal Method", *J. Euro. Ceram. Soc.*, **26**, 509-513 (2006).
- YANAGISAWA, K.; Zhu, K.; Fijino, T.; Onda, A.; Kajiyoshi, K.; Ioku, K., "Preparation of Hydroxyapatite Ceramics by Hydrothermal Hot-Pressing Technique", *Key Eng. Mater. (Bioceramics Vol.18)*, **309-311**, 57-60 (2006).
- Hu, X.; YANAGISAWA, K.; Onda, A.; Kajiyoshi, K., "Stability and Phase Relations of Dicalcium Silicate Hydrates under Hydrothermal Conditions", *J. Ceram. Soc. Japan*, **114**, 174-179 (2006).
- Hu, X.; YANAGISAWA, K.; Onda, A.; Kajiyoshi, K., "Effects of Hydrothermal Process on Formation of Calcium Silicate Hydrates at 250 °C", *J. Soc. Inorg. Mater. Jpn.*, **13**, 32-39 (2006).
- Yuan, J. L.; Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K.; Sasaoka, H.; Nishimura, K., "Fabrication of Silica Nanocoatings on ZnS-Type Phosphors via a Sol-Gel Route Using Cetyltrimethylammonium Chloride Dispersant", *Materials Letters*, **60**, 1284-1286 (2006).
- YANAGISAWA, K.; Hu, X.; Onda, A.; Kajiyoshi, K., "Hydration of β-Dicalcium Silicate at High Temperatures under Hydrothermal Conditions", *Cement and Concrete Research*, **36**, 810-816 (2006).
- Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K.; Feng, Q.; Yoshimura, M., "Preparation of Complex Oxide Thin Films under Hydrothermal and Hydrothermal-Electrochemical Conditions", *J. Mater. Sci.*, **41**, 1535-1540 (2006).
- Shen, L.; Bao, N.; YANAGISAWA, K.; Domen, K.; Gupta, A.; Grimes, C., "Direct Synthesis of ZnO Nanoparticles by a Solution-free Mechanochemical Reaction", *Nanotechnology*, **17**, 5117-5123 (2006).
- Onda, A.; Suzuki, Y.; Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K., "Catalytic Performance of Autoclave Liners in the Wet Oxidation of Naphthalene", *Ind. Eng. Chem. Res.*, **45**, 2194-2198 (2006).
- YANAGISAWA, K.; Bao, N.; Kariya, M.; Onda, A.; Kajiyoshi, K.; Matamoros-Veloza, Z.; Rendón-Angeles, J. C., "Development of a Recycling Technique of Used Glass by Conversion to Porous Materials", *Waste Management and the Environment III*, WIT Press, 95-100 (2006).
- Takahashi, Y.; Manceau, A.; Geoffroy, A.; Marcus, M.; USUI, A., "Chemical and Structural Control of the Partitioning of Co, Ce, and Pb in Marine Ferromanganese Oxides", *Geochimica Cosmochimica Acta*, **71**, 984-1008 (2007).
- Nakao, C.; GAMOH, K.; Hishida, K.; Wada, H., "Ligand Exchange Liquid Chromatography/Mass Spectrometry of Mono- and Oligosaccharides", *J. Mass Spectr. Jpn.*, **54**, 49-56 (2006).
- 平田沙織, 蒲生啓司, "2-ニトロフェニルヒドロキシド誘導体化による中鎖脂肪酸の高速液体クロマトグラフィー/質量分析法", *分析化学*, **55**, 223-228 (2006).
- YANAGISAWA, K.; Bao, N.; Kariya, M.; Onda, A.; Kajiyoshi, K.; Matamoros-Veloza, M.; Rendón-Angeles, J. C., "Conversion of Used Glass Bottles to Porous Materials by Using Hydrothermal Technique", *Materials Science Forum*, **544-545**, 537-540 (2007).
- Feng, Q.; Hirasawa, M.; Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K., "Hydrothermal Soft Chemical Synthesis of BaTiO₃ and Titanium Oxide with Cocoon-like Particle Morphology", *J. Mater. Sci.*, **42**, 640-645 (2007).
- Shen, L.; Bao, N.; YANAGISAWA, K.; Zheng, Y.; Domene, K.; Gupta, A.; Grimes, C. A., "Direct growth of comet-like superstructures of Au-ZnO submicron rod arrays by solvothermal soft chemistry process", *J. Solid State Chem.*, **180**, 213-220 (2007).
- Zhang, W.; YANAGISAWA, K., "Hydrothermal Synthesis of Zinc Hydroxide Chloride Sheets and Their Conversion to ZnO", *Chemistry of Materials*, **19**, 2329-2334 (2007).
- Onda, A.; Hara, S.; Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K., "Synthesis of Manganese Oxide Octahedral Molecular Sieves Containing Cobalt, Nickel, or Magnesium, and the Catalytic Properties for Hydration of Acrylonitrile", *Applied Catalysis, A: General*, **321**, 71-78 (2007).
- Suarez-Orduna, R.; Rendón-Angeles, J. C.; YANAGISAWA, K., "Kinetic study of the conversion of mineral celestite to strontianite under alkaline hydrothermal conditions", *Int. J. Mineral Processing*, **83**, 12-18 (2007).

40. Shen, L.; Bao, N.; YANAGISAWA, K.; Domen, K.; Gupta, A. "Organic Molecule-Assisted Hydrothermal Self-Assembly of Size-Controlled Tubular ZnO Nanostructures", *J. Phys. Chem. C*, **111**, 7280-7287 (2007).
41. Kozawa, T.; Onda, A.; Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K.; Shinohara, J.; Takanami, T.; Shiraishi, M.; Kanazawa, M. "Low Temperature Decomposition of Chrysotile Asbestos by Freon-Decomposed Acidic Gas", *Proceeding of International Symposium on EcoTopia Science* **2007**, 830-832 (2007).
42. 金澤正澄, 柳澤和道, 白石雅嗣, 高浪哲郎, 前 尚樹, "過熱蒸気によるアスベストの無害化・再資源化の低コスト・大量処理技術", *環境衛生工学研究*, **21**(3), 151-154 (2007).
43. Bao, N.; Shen, L.; Takata, T.; Domen, K.; Gupta, S.; YANAGISAWA, K.; Grimes, C. A. "Facile Cd-Thiourea Complex Thermolysis Synthesis of Phase-Controlled CdS Nanocrystals for Photocatalytic Hydrogen Production under Visible Light", *J. Phys. Chem. C*, **111**, 17527-17534 (2007).
44. Zhu, K.; YANAGISAWA, K.; Shimanouchi, R.; Onda, A.; Kajiyoshi, K.; Qiu, J. "Hydrothermal Synthesis and Crystallographic Study of Sr-Pb Hydroxyapatite Solid Solutions", *J. Ceram. Soc. Japan*, **115**, 873-876 (2007).
45. YANAGISAWA, K.; Gushi, D.; Onda, A.; Kajiyoshi, K. "Hydrothermal Synthesis of Boehmite Plate Crystals", *J. Ceram. Soc. Japan*, **115**, 894-897 (2007).
46. USUI, A.; Graham, I.; Ditchburn, R.; Zondrevan, A. et al. "Growth history and formation environments of hydrogenetic ferromanganese crusts on the Philippine Sea Plate, NW Pacific Ocean", *Island Arc*, **16**(3), 420-430 (2007).
47. 蒲生啓司, 中尾千予視, 菱田勝巳, 和田啓男, "糖類の液体クロマトグラフィー/質量分析に用いる Pb 型配位子交換カラムの開発", *分析化学 (Bunseki Kagaku)*, **56**, 863-870 (2007).
48. Matamoros-Veloza, Z.; Rendón-Angeles, J. C.; YANAGISAWA, K.; Cisneros-Cuerrero, M. C.; Cisneros-Guerreo, M. M.; Aguirre, L. "Preparation of Foamed Glasses from CRT TV Glass by Means of Hydrothermal Hot-pressing Technique", *J. Euro. Ceram. Soc.*, **28**, 739-745 (2008).
49. Onda, A.; Ochi, T.; Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K. "Lactic acid production from glucose over activated hydrotalcites as solid base catalysts in water", *Catal. Commun.*, **9**, 1050-1053 (2008).
50. Onda, A.; Ogo, S.; Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K. "Hydrothermal synthesis of vanadate/phosphate hydroxyapatite solid solutions", *Materials Lett.*, **62**, 1406-1409 (2008).
51. Bao, N.; Shen, L.; YANAGISAWA, K.; Domen, K.; Grimes, C.A.; Gupta, A. "Self-Assembly of Nanostructured [MoS₄]²⁻-Copolymer Hybrids by Solvent Evaporation Induction", *Materials Lett.*, **62**, 648-650 (2008).
52. Rendón-Angeles, J. C.; Matamoros-Veloza, Z.; López-Cuevas, J.; Pech-Canul, M. I.; YANAGISAWA, K. "Stability and direct conversion of mineral barite crystals in carbonated hydrothermal fluids", *J. Mater. Sci.*, **43**, 2189-2197 (2008).
53. Okuda, K.; Oka, K.; Onda, A.; Kajiyoshi, K.; Hiraoka, M.; YANAGISAWA, K. "Hydrothermal fractional pretreatment of sea algae and its enhanced enzymatic hydrolysis", *J. Chem. Technology and Biotechnology*, **83**, 836-841 (2008).
54. Li, N.; YANAGISAWA, K. "Controlling the morphology of yttrium oxide through different precursors synthesized by hydrothermal method", *J. Solid State Chem.*, **181**, 1738-1743 (2008).
55. Onda, A.; Ochi, T.; Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K. "A new chemical process for catalytic conversion of d-glucose into lactic acid and gluconic acid", *Applied Catal. A, General*, **343**, 49-54 (2008).
56. Ogo, S.; Onda, A.; YANAGISAWA, K. "Hydrothermal synthesis of vanadate-substituted hydroxyapatites, and catalytic properties for conversion of 2-propanol", *Applied Catal., A: General*, **348**, 129-134 (2008).
57. Zhu, K.; Qiu, J.; Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K. "Hydrothermal synthesis of Na(Nb_{1-x}Tax)O₃ powder for fabrication of lead-free piezoelectric ceramics", *Key Engineering Materials*, **368-372** (Pt. 2, High-Performance Ceramics V), 1899-1901 (2008).
58. Shen, L.; Bao, N.; Zheng, Y.; Gupta, A.; An, T.; YANAGISAWA, K. "Hydrothermal Splitting of Titanate Fibers to Single-Crystalline TiO₂ Nanostructures with Controllable Crystalline Phase, Morphology, Microstructure, and Photocatalytic Activity", *J. Phys. Chem. C*, **112**, 8809-8818 (2008).
59. Bao, N.; Shen, L.; Srinivasan, G.; YANAGISAWA, K.; Gupta, A. "Shape-controlled monocrystalline ferroelectric barium titanate nanostructures: from nanotubes and nanowires to ordered nanostructures", *J. Phys. Chem. C*, **112**, 8634-8642 (2008).
60. Onda, A.; Ochi, T.; YANAGISAWA, K. "Selective hydrolysis of cellulose into glucose over solid acid catalysts", *Green Chemistry*, **10**, 1033-1037 (2008).
61. Onda, A.; Suzuki, Y.; Takemasa, S.; Kajiyoshi, K.; YANAGISAWA, K. "Catalytic wet oxidations of aromatic compounds over supported copper oxides", *J. Mater. Sci.*, **43**, 4230-4235 (2008).
62. Sakaguchi, M.; ISHIZUKA, H. "Subdivision of the Sanbagawa pumpellyite-actinolite facies region in central Shikoku, SW Japan", *The Island Arc*, **17**, 305-321 (2008).
63. ISHIZUKA, H. "Protoliths of the Napier Complex in Enderby Land, East Antarctica; an overview and implication for crustal evolution of Archaean continents", *J. Mineralogical and Petrological Sciences*, **103**, 218-225 (2008).
64. Kawasaki, T.; ISHIZUKA, H. "Experimental study of Fe³⁺ solubility in tridymite and its application to a metamorphosed quartz-magnetite rock from Mt. Riiser-Larsen area, Napier Complex, East Antarctica", *J. Mineralogical and Petrological Sciences*, **103**, 255-265 (2008).
65. ISHIZUKA, H. "An overview of geological studies of JARE in the Napier Complex, Enderby Land, East Antarctica", In *Geodynamic Evolution of East Antarctica: a Key to the East-West Gondwana Connection* (Satish-Kumar, M., Motoyoshi, Y., Osanai, Y., Hiroi, Y. and Shiraishi, K. Eds.), Geological Society of London, Special Publications, London, **308**, 121-138 (2008).
66. Suzuki, S.; ISHIZUKA, H.; Kagami, H. "Early to Middle Proterozoic dykes in the Mt. Riiser-Larsen area of the Napier Complex, East Antarctica: Tectonic implications as deduced from geochemical studies", In *Geodynamic Evolution of East Antarctica: a Key to the East-West Gondwana Connection* (Satish-Kumar, M., Motoyoshi, Y., Osanai, Y., Hiroi, Y. and Shiraishi, K. Eds.), Geological Society of London, Special Publications, London, **308**, 195-210 (2008).
67. Hokada, T.; Motoyoshi, Y.; Suzuki, S.; Ishikawa, M.; ISHIZUKA, H. "Mount Riiser-Larsen; key area for UHT metamorphism and Archaean-Proterozoic evolution of the Napier Complex, East Antarctica", In *Geodynamic Evolution of East Antarctica: a Key to the East-West Gondwana Connection* (Satish-Kumar, M., Motoyoshi, Y., Osanai, Y., Hiroi, Y. and Shiraishi, K. Eds.), Geological Society of London, Special Publications, London, **308**, 253-282 (2008).
68. Zhu, K.; YANAGISAWA, K.; Onda, A.; Kajiyoshi, K.; Qiu, J. "Morphology variation of cadmium hydroxyapatite synthesized by high temperature mixing method under hydrothermal conditions", *Materials Chem. Phys.*, **113**, 239-243 (2009).

69. Zhang, W.; YANAGISAWA, K.; Kamiya, S.; Shou, T. "Solvothetral Preparation and Control of Phase Composition of Nanosized Rhodium Sulfide Particles", *Chem. Lett.*, **38**, 210-211 (2009).
70. YANAGISAWA, K.; Kozawa, T.; Onda, A.; Kanazawa, M.; Shinohara, J.; Takanami, T.; Shiraishi, M. "A novel decomposition technique of friable asbestos by CHClF_2 -decomposed acidic gas", *J. Hazardous Materials*, **163**, 593-599 (2009).
71. Li, N.; YANAGISAWA, K.; Kumada, N. "Facile hydrothermal synthesis of yttrium hydroxide nanowires", *J. Crystal Growth & Design*, **9**, 978-981 (2009).
72. 生田梨沙, 笹部衣里, 植田栄作, Rendón-Angeles J. C., 柳澤和道, 山本哲也, "水熱ホットプレス法により作製したアパタイト系固化体上における MC3T3-E1 骨芽細胞様細胞の接着, 増殖および分化", *口腔組織培養学会誌*, **18**, 33-34 (2009).
73. Zhu, K.; YANAGISAWA, K.; Shimanouchi, R.; Onda, A.; Kajiyoshi, K.; Qiu, J. "Synthesis and crystallographic study of Pb-Sr hydroxyapatite solid solutions by high temperature mixing method under hydrothermal conditions", *Materials Research Bulletin*, **44**, 1392-1396 (2009).
74. Zhu, K.; YANAGISAWA, K.; Shimanouchi, R.; Onda, A.; Kajiyoshi, K.; Qiu, J. "Synthesis and structural characterization of Ca-Pb hydroxyapatite solid solutions", *Guisuanyan Xuebao*, **37**, 420-425 (2009).
75. Kozawa T.; Onda A.; YANAGISAWA, K. "Accelerated formation of β -dicalcium silicate in water vapor Atmosphere", *Chem. Lett.*, **38**, 476-477 (2009).
76. Zhu, K.; Qiu, J.; Kajiyoshi, K.; Takai, M.; YANAGISAWA, K. "Effect of washing of barium titanate powders synthesized by hydrothermal method on their sinterability and piezoelectric properties", *Ceramics International*, in press.
8. ICHIKAWA, Y.; Yamauchi, E.; Isobe, M., "Allyl Cyanate-to-isocyanate Rearrangement for the Synthesis of Quaternary Stereocenter with Nitrogen Substituent", *Biosci. Biotech. Biochem.*, **69**, 939- 943 (2005).
9. Matsukawa, Y.; Isobe, K.; KOTSUKI, H.; ICHIKAWA, Y., "Synthesis of (+)-Conagenin", *J. Org. Chem.*, **70**, 5339-5341 (2005).
10. Nishiyama, T.; ICHIKAWA, Y.; Isobe, M., "Total Synthesis of Glycocinnamoylsperimicin D", *Angew. Chem. Int. Ed.*, **44**, 4372-4375 (2005).
11. Himeno, S.; Takamoto, M.; UEDA, T., "Formation of α - and β -Keggin-Type $[\text{PW}_{12}\text{O}_{40}]^{3-}$ Complexes in Aqueous Media", *Bull. Chem. Soc. Jpn.*, **78**, 1463-1468 (2005).
12. Nose, A.; Myojin, M.; Hojo, M.; UEDA, T.; Okuda, T., "Proton NMR and Raman Spectroscopic Studies of Japanese Sake, an Alcoholic Beverage", *J. Biosci. Bioeng.*, **99**, 493-501 (2005).
13. Nose, A.; Hamasaki, T.; Hojo, M.; Kato, R.; Uehara, K.; UEDA, T., "Hydrogen Bonding in Alcoholic Beverages (Distilled Spirits) and Water-Ethanol Mixtures", *J. Agric. Food Chem.*, **53**, 7074-7081 (2005).
14. Kumamoto, K.; Nakano, K.; ICHIKAWA, Y.; KOTSUKI, H. "High Pressure-Promoted Uncatalyzed Cyanation of Acetals Using Trimethylsilyl Cyanide as a Cyanide Source in Nitromethane", *Synlett*, **2006**, 1968-1970.
15. ICHIKAWA, Y.; Ohara, F.; KOTSUKI, H.; Nakano, K. "A New Approach to the Neoglycopeptides: Synthesis of Urea- and Carbamate-tethered *N*-Acetyl-D-glucosamine Amino Acid Conjugates", *Org. Lett.*, **8**, 5009-5012 (2006).
16. ICHIKAWA, Y.; Matsukawa, Y.; Tamura, M.; Ohara, F.; Isobe, M.; KOTSUKI, H. "Synthesis of Urea-tethered Disaccharides in Water", *Asian J. Chem.*, **1**, 717-723 (2006).
17. ICHIKAWA, Y.; Egawa, H.; Ito, T.; Isobe, M.; Nakano, K.; KOTSUKI, H. "A Stereocontrolled Route to Vicinal Diamines by Allyl Cyanate-to-isocyanate Rearrangement: Asymmetric Synthesis of *anti* (2*R*,3*R*)- and *syn* (2*R*,3*S*)-2,3-Diaminobutanoic Acids", *Org. Lett.*, **2006**, 5737-5740.
18. Sasaoka, A.; Uddin, M-I.; Shimomoto, A.; ICHIKAWA, Y.; Shiro, M.; KOTSUKI, H. "A Novel Design of Roof-shaped Anthracene-fused Chiral Prolines as Organocatalysts for Asymmetric Mannich Reactions", *Tetrahedron: Asymmetry*, **17**, 2963-2969 (2006).
19. ICHIKAWA, Y.; Matsukawa, Y.; Isobe, M. "Synthesis of Urea-tethered Neoglycoconjugates and Pseudo-oligosaccharides in Water", *J. Am. Chem. Soc.*, **128**, 3934-3938 (2006).
20. Hojo, M.; UEDA, T.; Daike, C.; Takezaki, F.; Furuya, Y.; Miyamoto, K. "Great Enhancement in the Oxidation Ability of Dilute Nitric Acid in Nanoscale Water-Droplets of Reverse Micelle Systems", A. Narutaki, R. Kato, *Bull. Chem. Soc. Jpn.*, **79**, 1215-1222 (2006).
21. Hojo, M.; UEDA, T.; Ueno, E.; Hamasaki, T.; Fujimura, D. "Elucidation of Concentrated Salt Effects on the Solvolysis Reactions of Typical $\text{S}_{\text{N}}1$ and $\text{S}_{\text{N}}2$ Substrates in Sulfolane-water Mixed Solvent", *Bull. Chem. Soc. Jpn.*, **79**, 751-760 (2006).
22. Yamamoto, K.; Takada, Y.; Kida, A.; Akematsu, T.; KOTSUKI, H.; Matsukawa, T. "Effects of Scavengers for Active Oxygen Species on Photoresponse and Photodynamic Damages to a Pigmented Protozoan, *Blepharisma*", *J. Protozool. Res.*, **1**, 1-8 (2007).
23. ICHIKAWA, Y.; Yamaoka, T.; Nakano, K.; KOTSUKI, H. "Synthesis of (—)-Agelastatin A by [3.3] Sigmatropic Rearrangement of Allyl Cyanate", *Org. Lett.*, **9**, 2989-2992 (2007).
24. Hojo, M.; UEDA, T.; Inoue, T.; Ike, M.; Kobayashi, M.; Nakai H. "UV-Visible and ^1H or ^{13}C NMR Spectroscopic Studies on the Specific Interaction between Lithium Ions and the Anion from Tropolone or 4-Isopropyltropolone

物質変換／物質創成研究部門

1. Matsumoto, K.; Kim, J. C.; Iida, H.; Hamana, H.; Kumamoto, K.; KOTSUKI, H., "Multicomponent Strecker Reaction under High Pressure", *Helv. Chim. Acta*, **88**, 1734-1753 (2005).
2. Kumamoto, K.; ICHIKAWA, Y.; KOTSUKI, H., "High-Pressure-Promoted Uncatalyzed Ketalization of Ketones and Oxy-Michael/Ketalization of Conjugated Enones", *Synlett*, **2005**, 2254-2256.
3. Mehta, B. K.; Kumamoto, K.; YANAGISAWA, K.; KOTSUKI, H., "A Novel Aromatic Alkylation of Anilines with Cyclic and Acyclic Ketones under Hydrothermal Conditions", *Tetrahedron Lett.*, **46**, 6953-6956 (2005).
4. Kumamoto, K.; Iida, H.; Hamana, H.; KOTSUKI, H.; Matsumoto, K., "Are Multicomponent Strecker Reactions of Ketones with Diamines under High Pressure Amenable to Heterocyclic Synthesis?", *Heterocycles*, **66**, 675-681 (2005).
5. Ikishima, H.; Sekiguchi, Y.; ICHIKAWA, Y.; KOTSUKI, H., "Synthesis of (—)-(5*R*,6*S*)-6-Acetoxy- hexadecanolide Based on L-Proline-Catalyzed Asymmetric Aldol Reactions", *Tetrahedron*, **62**, 311-316 (2006).
6. Azad, S.; Kumamoto, K.; Uegaki, K.; ICHIKAWA, Y.; KOTSUKI, H., "A New Practical Method for the Synthesis of Unsymmetrical Ureas via High-Pressure-Promoted Condensation of 2,2,2-Trichloroethyl Carbamates (Troc-carbamates) with Amines", *Tetrahedron Lett.*, **47**, 587-590 (2006).
7. ICHIKAWA, Y.; Ito, T.; Isobe, M., "Stereoselective Allyl Amine Synthesis via Enantioselective Addition of Diethylzinc and [1,3]-Chirality Transfer; Synthesis of Lentiginosine and Polyoxamic Acid Derivative", *Eur. J. Chem.*, **2005**, 1949-1957.

- (Hinokitiol) and on the Formation of Protonated Tropolones in Acetonitrile or Other Solvents”, *J. Phys. Chem. B*, **111**, 1759-1768 (2007).
25. UEDA, T.; Yonemura, T.; Shiro, M.; Fukudome, M.; Hojo, M. “Synthesis of Molybdo-methylphosphate and -ethylphosphate with Inverted-Keggin Structure”, *Inorg. Chim. Commun.*, **10**, 1301-1303 (2007).
 26. Uddin, Md. I.; Nakano, K.; ICHIKAWA, Y.; KOTSUKI, H. “A Novel Method for the High-Pressure-Promoted, Uncatalyzed Aza-Michael Reaction of Nitrogen Heterocycles with Enones in Water”, *Synlett* **2008**, (9), 1402-1406.
 27. Uddin, Md. I.; Mimoto, A.; Nakano, K.; ICHIKAWA, Y.; KOTSUKI, H. “Microwave-Assisted and $\text{Ln}(\text{OTf})_3$ -Catalyzed Homo-conjugate Addition of *N*-Heteroaromatics to Activated Cyclopropane Derivatives”, *Tetrahedron Lett.*, **49**(41), 5867-5870 (2008).
 28. ICHIKAWA, Y.; Matsunaga, K.; Masuda, T.; KOTSUKI, H.; Nakano, K. “Stereocontrolled Synthesis of Cytotoxic Anhydrosphingosine Pachastrissamine by Using [3,3] Sigmatropic Rearrangement of Allyl Cyanate”, *Tetrahedron*, **64**, 11313-11318 (2008).
 29. Azad, S.; Kobayashi, T.; Nakano, K.; ICHIKAWA, Y.; KOTSUKI, H. “Efficient Brønsted Acid-catalyzed Aza-Michael Reaction of Amides and Ureas with α,β -Unsaturated Enones under High-pressure Conditions”, *Tetrahedron Lett.*, **50**(1), 48-50 (2009).
 30. Ko, K.; Nakano, K.; Watanabe, S.; ICHIKAWA, Y.; KOTSUKI, H. “Development of New DMAP-related Organocatalysts for Use in the Michael Addition Reaction of β -Ketoesters in Water”, *Tetrahedron Lett.* in press.
 31. UEDA, T.; Nambu, J.-i.; Yokota, H.; Hojo, M. “The effect of water-miscible organic solvents on the substitution reaction of Keggin-type heteropolysilicates and -germanates with vanadium(V) ion”, *Polyhedron*, **28**, 43-48 (2009).
 32. Hojo, M.; UEDA, T.; Ike, M.; Kobayashi, M.; Nakai, H. “UV-visible, ^1H and ^{13}C NMR spectroscopic studies on the interaction between protons or alkaline earth metal ions and the benzoate ion in acetonitrile”, *J. Mol. Liq.*, **145**, 152-157 (2009).
 33. Hojo, M.; UEDA, T.; Hamada, H.; Chen, Z.; Umetani, S. “Conductometric studies on higher ion-aggregation from lithium fluoroalkanoates in propylene carbonate and *N,N*-dimethylformamide.”, *J. Mol. Liq.*, **145**, 24-32 (2009).
- 機能開拓／機能評価研究部門**
1. Umitsu, M.; Morishita, H.; Murata, Y.; UDAKA, K.; Akutsu, H.; Yagi, T.; Ikegami, T., “ ^1H , ^{13}C and ^{15}N Resonance Assignments of the First Cadherin Domain of Cadherin-related Neuronal Receptor (CNR)/Protocadherin Alpha”, *J. Biomol. NMR*, **31**, 365-366 (2005).
 2. Fukushima, A.; Yamaguchi, T.; Ishida, W.; Fukata, K.; UDAKA, K.; Ueno, H., “Mice Lacking the IFN- γ Receptor or Fyn Develop Severe Experimental Autoimmune Uveoretinitis Characterized by Different Immune Responses”, *Immunogenetics*, **57**, 337-343 (2005).
 3. Fukushima, A.; Yamaguchi, T.; Ozaki, A.; Taniguchi, T.; UDAKA, K.; Ueno, H., “Fyn Regulated Cosinophil Infiltration into the Conjunctiva by Downregulating the Th2 Response”, *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol.*, **243**, 1043-1049 (2005).
 4. Li, Z.; Oka, Y.; Tsuboi, A.; Masuda, T.; Tatsumi, N.; Kawakami, M.; Fujioka, T.; Sakaguchi, N.; Nakajima, H.; Fujiki, F.; UDAKA, K.; Oji, Y.; Kawase, I.; Sugiyama, H., “WT 1₂₃₅, a Ninemer Peptide Derived from Wilms’ Tumor Gene Product, Is a Candidate Peptide for the Vaccination of HLA-A*0201-Positive Patients with Hematopoietic Malignancies”, *Int. J. Hematol.*, **82**, 458-459 (2005).
 5. Zhang, Y.; Hayashi, Y.; Cheng, X.; Watanabe, T.; Wang, X.; Taniguchi, N.; HONKE, K., “Testis-specific Sulfoglycolipid, Seminolipid, is Essential for Germ Cell Function in Spermatogenesis”, *Glycobiology*, **15**, 649-654 (2005).
 6. Cheng, X.; Zhang, Y.; Kotani, N.; Watanabe, T.; Lee, S.; Wang, X.; Kawashima, I.; Tai, T.; Taniguchi, N.; HONKE, K., “Production of a Recombinant Single-chain Variable-fragment (scFv) Antibody against Sulfoglycolipid”, *J. Biochem.*, **137**, 415-421 (2005).
 7. Gao, C. X.; Miyoshi, E.; Uozumi, N.; Takamiya, R.; Wang, X.; Noda, K.; Gu, J.; HONKE, K.; Wada, Y.; Taniguchi, N., “Bisecting GlcNAc Mediates the Binding of Annexin V to Hsp47”, *Glycobiology*, **15**, 1067-1075 (2005).
 8. Eguchi, H.; Ikeda, Y.; Ookawara, T.; Koyota, S.; Fujiwara, N.; HONKE, K.; Wang, P. G.; Taniguchi, N.; Suzuki, K., “Modification of Oligosaccharides by Reactive Oxygen Species Decreases Sialyl Lewis X-Mediated Cell Adhesion”, *Glycobiology*, **15**, 1094-1101 (2005).
 9. Wang, X.; Inoue, S.; Gu, J.; Miyoshi, E.; Noda, K.; Li, W.; Mizuno-Horikawa, Y.; Nakano, M.; Asahi, M.; Takahashi, M.; Uozumi, N.; Ihara, S.; Lee, S. H.; Ikeda, Y.; Yamaguchi, Y.; Aze, Y.; Tomiyama, Y.; Fujii, J.; Suzuki, K.; Kondo, A.; Shapiro, S. D.; Lopez-Otin, C.; Kuwaki, T.; Okabe, M.; HONKE, K.; Taniguchi, N., “Dysregulation of TGF- β 1 Receptor Activation Leads to Abnormal Lung Development and Emphysema-like Phenotype in Core Fucose-deficient Mice”, *Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A.*, **102**, 15791-15796 (2005).
 10. Ooyama, Y.; Nakamura, T.; YOSHIDA, K., “Heterocyclicquinol-type Fluorophores. Part 3. Synthesis of Novel Imidazoanthraquinonol Derivatives and Their Photophysical Properties in Benzene and in the Crystalline State”, *New J. Chem.*, **29**, 447-456 (2005).
 11. Ooyama, Y.; YOSHIDA, K., “Heterocyclicquinol-type Fluorophores. Part 4. Dramatic Solid-state Fluorescence Enhancement Behaviour of Imidazoanthraquinol-type Clathrate Hosts upon Inclusion of Various Kinds of Organic Solvent Molecules”, *New J. Chem.*, **29**, 1204-1212 (2005).
 12. WATANABE, S.; Seguchi, H.; YOSHIDA, K.; Kifune, K.; Tadaki, T.; Shiozaki, H., “Colorimetric Detection of Fluoride Ion in an Aqueous Solution Using a Thioglucose-Capped Gold Nanoparticle”, *Tetrahedron Lett.*, **46**, 8827-8829 (2005).
 13. Zhu, S.; UDAKA, K.; Sidney, J.; Sette, A.; Aoki-Kinoshita K. F.; Mamitsuka, H. “Improving MHC Binding Peptide Prediction by Incorporating Binding Data of Auxiliary MHC Molecules”, *Bioinformatics*, **22**, 1648-1655 (2006).
 14. Morita, S.; Oka, Y.; Tsuboi, A.; Kawakami, M.; Maruno, M.; Izumoto, S.; Osaki, T.; Taguchi, T.; Ueda, T.; Myoui, A.; Nishida, S.; Shirakawa, T.; Ohno, S.; Oji, Y.; Aozasa, K.; Hatazawa, J.; UDAKA, K.; Yoshikawa, H.; Yoshimine, T.; Noguchi, S.; Kawase, I.; Nakatsuka, S.; Sugiyama, H.; Sakamoto, J. “A Phase I/II Trial of a WT1(Wilms’ Tumor Gene) Peptide Vaccine in Patients with Solid Malignancy: Safety Assessment Based on the Phase I Data”, *Jpn. J. Clin. Oncol.*, **36**, 231-236 (2006).
 15. Morishita, H.; Umitsu, M.; Murata, Y.; Shibata, N.; UDAKA, K.; Higuchi, Y.; Akutsu, H.; Yamaguchi, T.; Yagi, T.; Ikegami, T. “Structure of the Cadherin-related Neuronal Receptor/protocadherin- α First Cadherin Domain Reveals Diversity across Cadherin Families”, *J. Biol. Chem.*, **281**, 33650-33663 (2006).
 16. Marcus, J.; Honigbaum, S.; Shroff, S.; HONKE, K.; Rosenbluth, J.; Dupree, J. L. “Sulfatide is Essential for the Maintenance of CNS Myelin and Axon Structure”, *Glia*, **53**, 372-381 (2006).
 17. Wang, X.; Gu, J.; Ihara, H.; Miyoshi, E.; HONKE, K.; Taniguchi, N. “Core Fucosylation Regulates Epidermal Growth Factor Receptor-mediated Intracellular Signaling”,

- J. Biol. Chem.*, **281**, 2572-2577 (2006).
18. Watanabe, T.; Ihara, H.; Miyoshi, E.; HONKE, K.; Taniguchi, N.; Taguchi, T. "A Specific Detection of GlcNAc β 1-6Man α 1 Branches in N-Linked Glycoproteins Based on the Specificity of N-Acetylglucosaminyl-transferase VI", *Glycobiology*, **16**, 431-439 (2006).
 19. Yamamoto, K.; Higashi, S.; Kioi, M.; Tsunozumi, J.; HONKE, K.; Miyazaki, K. "Binding of Active Matrilysin to Cell Surface Cholesterol Sulfate is Essential for Its Membrane-associated Proteolytic Action and Induction of Homotypic Cell Adhesion", *J. Biol. Chem.*, **281**, 9170-9180 (2006).
 20. Greimel, P.; Jabs, S.; Storch, S.; Cherif, S.; HONKE, K.; Braulke, T.; Thiem, J. "In vitro Sulfation of N-Acetyllactosaminide by Soluble Recombinant Human β -Gal-3'-sulfotransferase", *Carbohydr. Res.*, **341**, 918-924 (2006).
 21. Lee, S. H.; Takahashi, M.; HONKE, K.; Miyoshi, E.; Osumi, D.; Sakiyama, H.; Ekuni, A.; Wang, X.; Inoue, S.; Gu, J.; Kadomatsu, K.; Taniguchi, N. "Loss of Core Fucosylation of Low-density Lipoprotein Receptor-related Protein-1 Impairs Its Function, Leading to the Upregulation of Serum Levels of Insulin-like Growth Factor-binding Protein 3 in Fut8^{-/-} Mice", *J. Biochem.*, **139**, 391-398 (2006).
 22. Li, W.; Nakagawa, T.; Koyama, N.; Wang, X.; Jin, J.; Mizuno-Horikawa, Y.; Gu, J.; Miyoshi, E.; Kato, I.; HONKE, K.; Taniguchi, N.; Kondo, A. "Down-regulation of Trypsinogen Expression is Associated with Growth Retardation in Alpha1,6-fucosyltransferase-deficient Mice: Attenuation of Proteinase-activated Receptor 2 Activity", *Glycobiology*, **16**, 1007-1019 (2006).
 23. Muramoto, K.; Huang, G.-Z.; Taniguchi, M.; KABA, H. "Functional Synapse Formation between Cultured Rat Accessory Olfactory Bulb Neurons and Vomeronasal Pockets", *Neuroscience*, **141**, 475-486 (2006).
 24. Ooyama, Y.; Okamoto, T.; Yamaguchi, T.; Suzuki, T.; Hayashi, A.; YOSHIDA, K. "Heterocyclic Quinol-Type Fluorophores: Synthesis, X-ray Crystal Structures, and Solid-State Photophysical Properties of Novel 5-Hydroxy-5-substituent-benzo[b]naphtho[1,2-d]furan-6-one and 3-Hydroxy-3-substituent-benzo[kl]xanthen-2-one Derivatives", *Chem. Eur. J.*, **12**, 7827-7838 (2006).
 25. Ooyama, Y.; Yoshikawa, S.; WATANABE, S.; YOSHIDA, K. "Molecular Design of Novel Non-planar Heteropolycyclic Fluorophores with Bulky Substituents: Convenient Synthesis and Solid-state Fluorescence Characterization", *Org. Biomol. Chem.*, **4**, 3406-3409 (2006).
 26. Mashiba, T.; UDAKA, K.; Hirachi, Y.; Hiasa, Y.; Miyakawa, T.; Satta, Y.; Osada, T.; Kataoka, S.; Kohara, M.; Onji, M. "Identification of CTL Epitopes in Hepatitis C Virus by a Genome-wide Computational Scanning and a Rational Design of Peptide Vaccine", *Immunogenetics*, **59**, 197-209 (2007).
 27. Fujiki, F.; Oka, Y.; Tsuboi, A.; Kawakami, M.; Kawakatsu, M.; Nakajima, H.; Elisseeva, O. A.; Harada, Y.; Ito, K.; Li, Z.; Tatsumi, N.; Sakaguchi, N.; Fujioka, T.; Masuda, T.; Yasukawa, M.; UDAKA, K.; Kawase, I.; Oji, Y.; Sugiyama, H. "Identification and characterization of a WT1(Wilms'tumor gene) protein-derived HLA-DRB1*0405-restricted 16-mer helper peptide that promotes the induction and activation of WT1-Specific cytotoxic T lymphocytes", *J. Immunotherapy*, **30**, 282-293 (2007).
 28. Iiyama, T.; Takeda, S.; UDAKA, K.; Takeuchi, T.; Adachi, Y. C.; Shuin, T.; Ohtsuki, Y.; Oka, Y.; Tsuboi, A.; Nakatsuka, S.; Elisseeva, O. A.; Oji, Y.; Nakajima, H.; Kawakami, M.; Nishida, S.; Shirakata, T.; Sugiyama, H. "WT1 (Wilms'tumor 1) peptide immunotherapy for renal cell carcinoma", *Microbiol. Immunol.*, **51**, 519-530 (2007).
 29. Yano, A.; Komatsu, T.; Ishibashi, M.; UDAKA, K. "Potent CTL induction by a whole cell Pertussis vaccine in anti-tumor peptide immunotherapy", *Microbiol. Immunol.*, **51**, 685-699 (2007).
 30. Tsuboi, A.; Oka, Y.; Nakajima, H.; Fukuda, Y.; Elisseeva, O. A.; Yoshihara, S.; Hosen, N.; Ogata, A.; Kito, K.; Fujiki, F.; Nishida, S.; Shirakata, T.; Ohno, S.; Yasukawa, M.; Oji, Y.; Kawakami, M.; Morita, S.; Sakamoto, J.; UDAKA, K.; Kawase, I.; Sugiyama, H. "Wilms tumor gene WT1 peptide-based immunotherapy induced a minimal response in a patient with advanced therapy-resistant multiple myeloma", *Int. J. Hematol.*, **86**, 414-417 (2007).
 31. Ihara, H.; Ikeda, Y.; Toma, S.; Wang, X.; Suzuki, T.; Gu, J.; Miyoshi, E.; Tsukihara, T.; HONKE, K.; Matsumoto, A.; Nakagawa, A.; Taniguchi, N. "Crystal structure of mammalian α 1,6-fucosyltransferase, FUT8", *Glycobiology*, **17**, 455-466 (2007).
 32. Li, W.; Takahashi, M.; Shibukawa, Y.; Yokoe, S.; Gu, J.; Miyoshi, E.; HONKE, K.; Ikeda, Y.; Taniguchi, N. "Introduction of bisecting GlcNAc in N-glycans of adenyl cyclase III enhances its activity", *Glycobiology*, **17**, 655-662 (2007).
 33. Rashel, M.; Uchiyama, J.; Ujihara, T.; Uehara, Y.; Kuramoto, S.; Sugihara, S.; Yagyu, K.; Muraoka, A.; Sugai, M.; Hiramatsu, K.; HONKE, K.; Matsuzaki, S. "Efficient elimination of multidrug-resistant *Staphylococcus aureus* by cloned lysin derived from bacteriophage ϕ MR11", *J. Infect. Dis.*, **196**, 1237-1247 (2007).
 34. Muramoto, K.; Hashimoto, M.; KABA, H. "Target regulation of V2R expression and functional maturation in vomeronasal sensory neurons in vitro", *Eur. J. Neurosci.*, **26**, 3382-3394 (2007).
 35. Murata, Y.; Okutani, F.; Nakahira, M.; Ushida, T.; Ikemoto, T.; Yokoe, I.; Takeda, T.; KABA, H.; Tani, T. Ogawa, Y. "Effects of olfactory stimulation with isovaleric acid on brain activation in informed and naive conditions: A functional MRI study", *Auris Nasus Larynx*, **34**, 465-469 (2007).
 36. 奥谷文乃, 川久保真衣, 村田和子, 中平光彦, 牛田享宏, 柁秀人, "嫌いなにおいの情報処理過程", 日本味と匂学会誌, **14**, 255-258 (2007).
 37. 権蓉丹, 村本和世, 柁秀人, "主要尿タンパク質(MUP)はマウス鋤鼻細胞培養系においてネスチン陽性細胞数を増加させる", 日本味と匂学会誌, **14**, 527-530 (2007).
 38. 方龍雲, 柁秀人, "フェロモン記憶を支える新たな分子: オキシトシン", 日本味と匂学会誌, **14**, 531-534 (2007).
 39. Ooyama, Y.; Yoshikawa, S.; WATANABE, S.; YOSHIDA, K. "Solid-emissive Fluorophores Constructed by a Non-planar Heteropolycyclic Structure with Bulky Substituents: Synthesis, and X-ray Crystal Structures", *Org. Biomol. Chem.*, **5**, 1260-1269 (2007).
 40. Ooyama, Y.; Mamura, T.; YOSHIDA, K. "A facile synthesis of solid-emissive fluorescent dyes: dialkyl-benzo[b]naphtho[2,1-d]furan-6-one-type fluorophores with strong blue and green fluorescence emission properties", *Tetrahedron Lett.*, **48**, 5791-5793 (2007).
 41. Ooyama, Y.; Mamura, T.; YOSHIDA, K. "Synthesis, X-ray Crystal Structures and Solid-State Fluorescence Properties of 3-Dibutylamino-6-alkoxy-6-phenylnaphtho-[2,3-b]benzofuran-11(6H)-one Derivatives", *Eur. J. Org. Chem.*, 5010-5019 (2007).
 42. Sera, T.; Hiasa, Y.; Mashiba, T.; Tokumoto, Y.; Hirooka, M.; Konishi, I.; Matsuura, B.; Michitaka, K.; UDAKA, K.; Onji, M. "Wilms'tumor 1 gene expression is increased in hepatocellular carcinoma and associated with poor prognosis", *Eur. J. Cancer*, **44**, 600-608(2008).
 43. Ooyama, Y.; Nonami, K.; WATANABE, S.; YOSHIDA, K. "The effect of the inclusion of guest molecules on the solid-state fluorescence of naphthooxazole-type fluorophores", *Dyes and Pigments*, **77**, 315-322 (2008).

44. Li, J.; Kamata, K.; WATANABE, S.; Tomokazu, I. "Template- and Vacuum-Ultraviolet-Assisted Fabrication of a Ag-Nanoparticle Array on Flexible and Rigid Substrates", *Adv. Mater.*, **19**, 1267-1271 (2007).
45. WATANABE, S.; Fujiwara, R.; Hada, M.; Okazaki, Y.; Iyoda, T. "Site-Specific Recognition of Nanophase-Separated Surfaces of Amphiphilic Block Copolymers by Hydrophilic and Hydrophobic Gold Nanoparticles", *Angew. Chem. Int. Ed.*, **46**, 1120-1123 (2007).
46. Kawashima, M.; Maeda, N.; Adachi, Y.; Takeuchi, T.; Yamamoto, Y.; Izumiya, C.; Hayashi, K.; Furihata, M.; UDAKA, K.; Fukaya, T. "Human leukocyte antigen-G, a ligand for the natural killer receptor KIR2DL4, is expressed by eutopic endometrium only in the menstrual phase", *Fertil Steril*, [Epub ahead of print] (2008).
47. Komaniwa, S.; Hayashi, H.; Kawamoto, H.; Sato, S. B.; Ikawa, T.; Katsura, Y.; UDAKA, K. "Lipid-mediated presentation of MHC class II molecules guides thymocytes to the CD4 lineage", *Eur. J. Immunol.*, **39**, 1-7 (2009).
48. Li, Z.; Oka, Y.; Tsuboi, A.; Fujiki, F.; Harada, Y.; Nakajima, H.; Masuda, T.; Fukuda, Y.; Kawakatsu, M.; Morimoto, S.; Katagiri, T.; Tatsumi, N.; Hosen, N.; Shirakata, T.; Nishida, S.; Kawakami, Y.; UDAKA, K.; Kawase, I.; Oji, Y.; Sugiyama, H. "Identification of a WT1 protein-derived peptide, WT1₁₈₇ as an HLA-A*0206- restricted, WT1-specific CTL epitope", *Microbiology and Immunology*, **52**, 551-558 (2008).
49. Guchhait, P.; Shrimpton, C. N.; HONKE, K.; Rumbaut, R. E.; Lopez, J. A.; Thiagarajan, P. "Effect of an anti-sulfatide ScFv on platelet function", *Thrombosis and Haemostasis*, **9**, 552-557 (2008).
50. Takahashi, T.; Murakami, K.; Nagakura, M.; Kishita, H.; Watanabe, S.; HONKE, K.; Ogura, K.; Tai, T.; Kawasaki, K.; Miyamoto, D.; Hidari, K. I.; Guo, C.; Suzuki, Y.; Suzuki, T. "Sulfatide is required for efficient replication of influenza A virus", *J. Virol.*, **82**, 5940-5950 (2008).
51. Rashel, M.; Uchiyama, J.; Takemura, I.; Hoshiba, H.; Ujihara, T.; Takatsuki, H.; HONKE, K.; Matsuzaki, S. "Tail-associated structural protein gp61 of Staphylococcus aureus phage φMR11 has bifunctional lytic activity", *FEMS Microbiol. Lett.*, **284**, 9-16 (2008).
52. Kotani, N.; Gu, J.; Isaji, T.; UDAKA, K.; Taniguchi, N.; HONKE, K. "Biochemical visualization of cell surface molecular clustering in living cells", *Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A.*, **105**, 7405-7409 (2008).
53. Fang, L.-Y.; Quan, R.-D.; KABA, H. "Oxytocin facilitates the induction of long-term potentiation in the accessory olfactory bulb", *Neurosci Lett.*, **438**, 133-137 (2008).
54. Ooyama, Y.; Egawa, H.; Mamura, T.; YOSHIDA, K. "Synthesis, X-ray crystal structure, and solid-state blue fluorescence of dialkylbenzo[b]naphtho[2,1-d]furan-6-one-type fluorophores", *Tetrahedron*, **64**, 7219-7224 (2008).
55. Ooyama, Y.; YOSHIDA, K. "Heterocyclic Quinol-Type Fluorophores. Part 7. Solid-State Fluorescence Change in Crystals of Benzo[b]naphtho[1,2-d]furan-6-one-Type Fluorophore upon Inclusion of Organic Solvent Molecules", *Eur. J. Org. Chem.*, **2008**, 2564-2570.
56. Ooyama, Y.; Hayashi, A.; Okamoto, T.; Egawa, H.; Mamura, T.; YOSHIDA, K. "Heterocyclic Quinol-Type Fluorophores. Part 8. Synthesis, X-ray Crystal Structures, and Solid-State Fluorescence Properties of 5,5-Dialkyl-9-dibutylamino-5H-benzo[b]naphtho[1,2-d]furan-6-one and 3,3-Dialkyl-9-dibutylamino-3H-benzo-[kl]xanthen-2-one", *Eur. J. Org. Chem.*, **2008**, 3085-3094.
57. Ooyama, Y.; Egawa, H.; YOSHIDA, K. "A New Class of Fluorescent Dyes for Sensing Water in Organic Solvents by Photo-Induced Electron Transfer — A (Phenylamino)-naphtho[1,2-d]oxazol-2-yl-Type Fluorophore with both Proton-Binding and Proton-Donating Sites", *Eur. J. Org. Chem.*, **2008**, 5239-5243.
58. Ooyama, Y.; Nagano, S.; Okamura, M.; YOSHIDA, K. "Solid-state Fluorescence Changes of 2-(4-Cyanophenyl)-5-[4-(diethylamino)phenyl]-3H-imidazo[4,5-a]naphthalene upon Inclusion of Organic Solvent Molecules", *Eur. J. Org. Chem.*, **2008**, 5899-5906.
59. Hidaka, K.; YOSHIDA, K.; Shimasaki, K.; Murakami, K.; Yasutake, D.; Kitano, M. "Spectrum Conversion Film for Regulation of Plant Growth", *J. Fac. Agr., Kyushu Univ.*, **53**(2), 549-552 (2008).
60. 浜田和俊, 島崎一彦, 江川晴香, 吉田勝平 "波長変換フィルムがシンビジウム (Cymbidium finlaysonianum Lindl.) のプロトコーム様球体 (PLB) の増殖および器官形成に及ぼす影響", 農業生産技術管理学会誌, **15** 別 1, 9-10 (2008).
61. 浜田和俊, 中村果林, 島崎一彦, 江川晴香, 吉田勝平 "波長変換フィルムと植物生長調節物質がシンビジウムのプロトコーム様球体 (PLB) の増殖および器官形成に及ぼす影響", 農業生産技術管理学会誌, **15** 別 1, 11-12 (2008).
62. Kondo, Y.; Tokuda, N.; Fan, X.; Yamashita, T.; HONKE, K.; Takematsu, H.; Nogayachi, A.; Ohta, M.; Kotzsumi, Y.; Narimatsu, H.; Tajima, O.; Furukawa, K.; Furukawa, K. "Glycosphingolipids are not pivotal receptors for Subtilase cytotoxin in vivo: Sensitivity analysis with glycosylation-defective mutant mice", *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **378**, 179-181 (2009).
63. Ooyama, Y.; Nagano, S.; YOSHIDA, K. "Drastic solid-state fluorescence enhancement behavior of imidazo-[4,5-a]naphthalene-type fluorescent hosts upon inclusion of polyethers and tert-butyl alcohol", *Tetrahedron*, **65**, 1467-1474 (2009).
64. Laskar, I. R.; WATANABE, S.; Hada, M.; Yoshida, H.; Li, J.; Iyoda, T. "Tuning surface interactions to control shape and array behavior of diblock copolymer micelles on a silicon substrate", *Surf. Sci.*, **603**, 625-6931 (2009).
65. Ko, K.; Nakano, K.; WATANABE, S.; Ichikawa, Y.; Kotsuki, H. "Development of New DMAP - related Organocatalysts for Use in the Michael Addition Reaction of β-Ketoesters in Water", *Tetrahedron Lett.* in press.

環境共生／生命環境研究部門

1. Kataoka, M.; NAKAMURA, H., "What Affects the General Health Questionnaire Score in Hansen's Disease Patients? -Results on Discriminant and Logistic Regression Analyses", *J. Phys. Fit. Nutr. Immunol.*, **15**(2), 69-81 (2005).
2. Hattori, K.; Sasahara, S.; NAKAMURA, H.; Ozasa, K.; Endo, T.; Imai, T.; Ide, T.; Honda, Y.; Hatta, K.; Motohashi, Y.; Eboshida, A.; Matsuzaki, I., "A Study on The Mechanisms of Depressive Tendency in Patients with Cedar Pollinosis Focusing on The Sense of Coherence (SOC) as a Stress-Coping Skill", *J. Phys. Fit. Nutr. Immunol.*, **14**(3), 188-194 (2004).
3. Nasimuzzaman, M.; Kuroda, M.; Dohno, S.; Yamamoto, T.; Iwatsuki, K.; Mizuguchi, H.; Hayakawa, T.; Kumita, W.; Matsuzaki, S.; Rashel, M.; NAKAMURA, H.; Wakiguchi, H.; IMAI, S., "Eradication of Epstein-Barr Virus Episome and Associated Inhibition of Infected Tumor Cell Growth by Adenovirus Vector-Mediated Transduction of Dominant-Negative EBNA1", *Mol. Ther.*, **11**, 578-590 (2005).
4. Daibata, M.; Bandobashi, K.; Kuroda, M.; IMAI, S.; Miyoshi, I.; Taguchi, H., "Induction of Lytic Epstein-Barr Virus (EBV) Infection by Synergistic Action of Rituximab and Dexamethasone Renders EBV-Positive Lymphoma Cells More Susceptible to Ganciclovir Cytotoxicity in Vitro and in Vivo", *J. Virol.*, **79**, 5875-5879 (2005).
5. Okano, M.; Kawa, K.; Kimura, H.; Yachie, A.; Wakiguchi, H.; Maeda, A.; IMAI, S.; Ohga, S.; Kanegane, H.; Tsuchiya, S.; Morio, T.; Mori, M.; Yokota, S.; Imashuku,

- S., "Proposed Guidelines for Diagnosing Chronic Active Epstein-Barr Virus Infection", *Am. J. Hematol.*, **80**, 64-69 (2005).
6. Kataoka, M.; NAKAMURA, H., "Psychological Well-Being and Associated Factors among Elderly Hansen's Disease Patients in Leprosaria", *Environ. Health Prevent. Med.*, **10**, 201-207 (2005).
7. Kaneko, Y.; Motohashi, Y.; NAKAMURA, H.; Endo, T.; Eboshida, A., "Increasing Prevalence of Japanese Cedar Pollinosis: a Meta-Regression Analysis", *Int. Arch. Allergy Immunol.*, **136**, 365-371 (2005).
8. Hirayama, T.; Imajoh, M.; OSHIMA, S., "Quantification by Real-Time RT-PCR of Aquabirnaviruses Isolated from Different Host Species", *Microbiol. Immunol.*, **49**, 361-371 (2005).
9. Aoki, M.; Kondo, M.; Kawai, K.; OSHIMA, S., "Experimental Bath Infection with *Flavobacterium psychrophilum*, Inducing Typical Signs of Rainbow Trout *Oncorhynchus mykiss* Fry Syndrome", *Dis. Aqua. Org.*, **67**, 73-79 (2005).
10. Liu, Y.; OSHIMA, S.; Kurohara, K.; Ohnishi, K.; Kawai, K., "Vaccine Efficacy of Recombinant GAPDH of *Edwardsiella tarda* Against *Edwardsiella*", *Microbiol. Immunol.*, **49**, 605-612 (2005).
11. Daibata, M.; Nemoto, Y.; Togitani, K.; Fukushima, A.; Ueno, H.; Ouchi, K.; Fukushi, H.; IMAI, S.; Taguchi, H., "Absence of *Chlamydia psittaci* in Ocular Adnexal Lymphoma from Japanese Patients", *Brit. J. Haematol.*, **132**, 651-652 (2006).
12. Uehara, Y.; Agematsu, K.; Kikuchi, K.; Matsuzaki, S.; IMAI, S.; Takamoto, K.; Sugane, K.; Sugiura, T.; Konishi, Y.; Yoshino, N.; Takeuchi, S.; Seo, H.; Kuramoto, S.; Sugai, M., "Secretory IgA, Peroxidase, and Catalase-mediated Microbicidal Activity during H₂O₂ Catabolism in Viridans Streptococci Pathogen Co-aggregation", *J. Infect. Dis.*, **194**, 98-107 (2006).
13. Fukushima, A.; Yamaguchi, T.; Fukuda, K.; Sumi, T.; Kumagai, N.; Nishida, T.; IMAI, S.; Ueno, H., "CD8+ T Cells Play Disparate Roles in the Induction and the Effector Phases of Murine Experimental Allergic Conjunctivitis", *Microbiol. Immunol.*, **50**, 719-728 (2006).
14. Kamakura, M.; Morisawa, K.; Komi, H.; Tomatani, A.; Saito, F.; Konishi, Y.; Jin, Y.; Manabe, T.; Kuroda, M.; IMAI, S.; Mizuguchi, H.; Taniguchi, T., "Regulation of IL-27p28 Gene by Lipopolysaccharide in Dendritic DC2.4", *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **349**, 1372-1377 (2006).
15. Sekizuka, N.; NAKAMURA, H.; Shimada, K.; Tabuchi, N.; Kameda, Y.; Sasano, K.; Sakai, A., "Relationship between Sense of Coherence in the Final Stage of Pregnancy and Post-partum Stress Reactions", *Environ. Health Prevent. Med.*, **11**(4), 99-205 (2006).
16. Yoshitomi, B.; Aoki, M.; OSHIMA, S.; Hata, K., "Evaluation of Krill (*Euphausia superba*) Meal as a Partial Replacement for Fish Meal in Rainbow Trout (*Oncorhynchus mykiss*) Diet", *Aquaculture*, **261**, 440-446 (2006).
17. NAKAMURA, H.; Higashikawa, F.; Nobukuni, Y.; Miyagawa, K.; Endo, T.; Imai, T.; Hatta, K.; Ozasa, K.; Motohashi, Y.; Matsuzaki, I.; Sasahara, S.; Ogino, K.; Akimaru, K.; Eboshida, A., "Genotypes and Haplotypes of CCR2 and CCR3 Genes in Japanese Cedar Pollinosis", *Int. Arch. Allergy Immunol.*, **142**, 329-334 (2007).
18. Matsuzaki, I.; Sagara, T.; Ohshita, Y.; Nagase, H.; Ogino, K.; Eboshida, A.; Sasahara, S.; NAKAMURA, H., "Psychological Factors Including Sense of Coherence and Some Lifestyles are Related to General Health Questionnaire-12 (GHQ-12) in Elderly Workers in Japan", *Environ. Health Prev. Med.*, **12**(2), 71-77 (2007).
19. Aoki, M.; Kondo, M.; Nakatsuka, Y.; Kawai, K.; OSHIMA, S., "Stationary Phase Culture Supernatant Containing Membrane Vesicles Induced Immunity to Rainbow Trout *Oncorhynchus mykiss* Fry Syndrome", *Vaccine*, **25**: 561-569 (2007).
20. Imajoh, M.; Goto, T.; OSHIMA, S., "Characterization of Cleavage Sites and Protease Activity in the Polyprotein Precursor of Japanese Marine Aquabirnavirus and Expression Analysis of Generated Protein by VP4 Protease Activity in Four Distinct Cell Lines", *Archives of Virology*, **152**(6), 1103-1114 (2007).
21. Yoshitomi, B.; Aoki, M.; OSHIMA, S., "Effect of Total Replacement of Dietary Fish Meal by Low Fluoride Krill (*Euphausia superba*) Meal on Growth Performance of Rainbow Trout (*Oncorhynchus mykiss*) in Fresh Water", *Aquaculture*, **266**, 219-225 (2007).
22. Rashel, M.; Uchiyama, J.; Ujihara, T.; Uehara, Y.; Kuramoto, S.; Sugihara, S.; Yagyu, K.; Muraoka, A.; Sugai, M.; Hiramatsu, K.; Honke, K.; MATSUZAKI, S., "Efficient elimination of multidrug-resistant *Staphylococcus aureus* by cloned lysin derived from bacteriophage ϕ MR11", *J. Infect. Dis.*, **196**, 1237-1247 (2007).
23. Watanabe, R.; Matsumoto, T.; Sano, G.; Ishii, Y.; Tateda, K.; Sumiyama, Y.; Uchiyama, J.; Sakurai, S.; Matsuzaki, S.; IMAI, S.; Yamaguchi, K., "Efficacy of Bacteriophage Therapy against Gut-derived Sepsis Caused by *Pseudomonas aeruginosa* in Mice", *Antimicrob. Agents Chemother.*, **51**, 446-452 (2007).
24. Endo, T.; TSUDA, M.; Fromont, J.; Kobayashi, J., "Hyrinadine A, a Bis-Indole Alkaloid from Marine Sponge", *J. Nat. Prod.*, **70**, 423-424 (2007).
25. TSUDA, M.; Oguchi, K.; Iwamoto, R.; Okamoto, Y.; Kobayashi, J.; Fukushi, E.; Kawabata, J.; Ozawa, T.; Masuda, A.; Kitaya, Y.; Omasa, K., "Iriomoteolide-1a, a Potent Cytotoxic 20-Membered Macrolide from a Benthic Dinoflagellate *Amphidinium* Species", *J. Org. Chem.*, **72**, 4469-4474 (2007).
26. Araki, A.; TSUDA, M.; Kubota, T.; Mikami, Y.; Fromont, J.; Kobayashi, J., "Nagelamide J, a Novel Dimeric Bromopyrrole Alkaloid from a Sponge *Agelas* Species", *Org. Lett.*, **9**, 2369-2371 (2007).
27. 小西充洋, 大政謙次, 林正雄, 増田篤稔, 小澤知子, 津田正史, "蛍光計測を用いた *Amphidinium* sp. の濃度測定—培養時の光質が増殖速度に及ぼす影響—", *Eco-Engineering*, **19**, 89-94, (2007).
28. TSUDA, M.; Oguchi, K.; Iwamoto, R.; Okamoto, Y.; Fukushi, E.; Kawabata, J.; Ozawa, T.; Masuda, A., "Iriomoteolides-1b and 1c, 20-Membered Macrolides from a Marine Dinoflagellate *Amphidinium* Species", *J. Nat. Prod.*, **70**, 1661-1663 (2007).
29. Oguchi, K.; TSUDA, M.; Iwamoto, R.; Okamoto, Y.; Kobayashi, J.; Ozawa, T.; Masuda, A., "Amphidinolides B6 and B7, Cytotoxic Macrolides from a Symbiotic Dinoflagellate *Amphidinium* Species", *J. Nat. Prod.*, **70**, 1676-1679 (2007).
30. 津田正史, 岡本由美子, 寫田智, "北海道沿岸海藻類の抗ウイルス活性評価", 高知大学海洋生物研究報告, **25**, 1-4 (2007).
31. 小西充洋, 大政謙次, 林正雄, 増田篤稔, 小澤知子, 津田正史, "励起-蛍光マトリックスによる *Amphidinium* sp. の生育過程のモニタリング", *Eco-Engineering*, **19**, 217-222 (2007).
32. Oguchi, K.; TSUDA, M.; Iwamoto, R.; Okamoto, Y.; Kobayashi, J.; Fukushi, E.; Kawabata, J.; Ozawa, T.; Masuda, A.; Kitaya, Y.; Omasa, K., "Iriomoteolide-3a, a Cytotoxic 15-Membered Macrolide from a Marine Dinoflagellate *Amphidinium* Species", *J. Org. Chem.*, **73**, 1567-1570 (2008).
33. 小西充洋, 大政謙次, 林正雄, 遠藤良輔, 増田篤稔, 小澤知子, 津田正史, "クロロフィル蛍光画像を用いた *Amphidinium* sp. の藻体濃度および光合成電子伝達収率の評価", *Eco-Engineering*, **20**, 27-31 (2008).

34. Yoshitomi, B.; OSHIMA, S.; Mac Takahashi, M. "Multi-dimensional utilization of marine biomass resource: Antarctic krill (*Euphausia superba* Dana)", *Kuroshio Science*, **1**, 56-71 (2007).
35. Imajoh, M.; Ikawa, T.; OSHIMA, S. "Characterization of a new fibroblast cell line from a tail fin of red sea bream and phylogenetic relationships of a recent RSIV isolate in Japan", *Virus Research*, **126**(1-2), 45-52 (2007).
36. Liu, Y.; OSHIMA, S.; Kawai, K. "Glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase of *Edwardsiella tarda* has protective antigenicity against infection of *Vibrio anguillarum* in Japanese flounder", *Diseases of Aquatic Organisms*, **75**(3), 217-20 (2007).
37. Hirayama, T.; Nagano, I.; Shinmoto, H.; Yagyu, K.; OSHIMA, S. "Isolation and characterization of virulent yellowtail ascite virus", *Microbiology and Immunology*, **126**(1-2), 45-52 (2007).
38. Kitaya, Y.; Xiao, L.; Masuda, A.; Ozawa, T.; TSUDA, M.; Omasa, K. "Effects of temperature, photosynthetic photon flux density, photoperiod and O₂ and CO₂ concentrations on growth rates of the symbiotic dinoflagellate *Amphidinium* sp.", *J. Appl. Phycol.*, **20**, 737-742 (2008).
39. Uchiyama, J.; Rashel, M.; Maeda, Y.; Takemura, I.; Sugihara, S.; Akechi, K.; Muraoka, A.; Wakiguchi, H.; MATSUZAKI, S. "Isolation and characterization of a novel *Enterococcus faecalis* phage ϕ EF24C as therapeutic candidate", *FEMS Microbiol. Lett.*, **278**, 200-206 (2008).
40. Nishikawa, H.; Yasuda, M.; Uchiyama, J.; Rashel, M.; Maeda, Y.; Takemura, I.; Sugihara, S.; Ujihara, T.; Shimizu, Y.; Shuin, T.; MATSUZAKI, S. "T-even-related bacteriophages as candidates for treatment of *Escherichia coli* urinary tract infections", *Arch. Virol.*, **153**, 507-515 (2008).
41. Rashel, M.; Uchiyama, J.; Ujihara, T.; Takemura, I.; Hoshiba, H.; MATSUZAKI, S. "A novel site-specific recombination system derived from bacteriophage ϕ MR11", *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **368**, 192-198 (2008).
42. Uchiyama, J.; Rashel, M.; Takemura, I.; Wakiguchi, H.; MATSUZAKI, S. "In silico and in vivo evaluation of bacteriophage ϕ EF24C, a candidate for treatment of *Enterococcus faecalis* infections", *Appl. Environ. Microbiol.*, **74**, 4149-4163 (2008).
43. Rashel, M.; Uchiyama, J.; Takemura, I.; Hoshiba, H.; Ujihara, T.; Takatsuji, H.; Honke, K.; MATSUZAKI, S. "Tail-associated structural protein gp61 of *Staphylococcus aureus* phage ϕ MR11 has bifunctional lytic activity", *FEMS Microbiol. Lett.*, **284**, 9-16 (2008).
44. Uchiyama, J.; Rashel, M.; Matsumoto, T.; Sumiyama, Y.; Wakiguchi, H.; MATSUZAKI, S. "Characteristics of a novel *Pseudomonas aeruginosa* bacteriophage, PAJU2, which is genetically related to bacteriophage D3", *Virus Res.*, **139**, 131-134 (2009).
45. Matsushita, K.; Uchiyama, J.; Kato, S.; Ujihara, T.; Hoshiba, H.; Sugihara, S.; Muraoka, A.; Wakiguchi, H.; MATSUZAKI, S. "Morphological and genetic analysis of three bacteriophages of *Serratia marcescens* isolated from environmental water", *FEMS Microbiol. Lett.*, **291**, 201-208 (2009).
46. Uchiyama, J.; Maeda, Y.; Takemura, I.; Chess-Williams, R.; Wakiguchi, H.; MATSUZAKI, S. "Blood Kinetics of four intraperitoneally administered therapeutic candidate bacteriophages in healthy and neutropenic mice", *Microbiol. Immunol.* in press.
47. Nagano, I.; Inoue, S.; Kawai, K.; OSHIMA, S. "Repeatable immersion infection with *Photobacterium damsela* subsp. *piscicida* reproducing clinical signs and moderate mortality", *Fisheries Science*, in press (2009).
48. Shinmoto, H.; Taniguchi, K.; Ikawa, T.; Kawai, K.; OSHIMA, S. "Phenotypic Diversification of Infectious Red Sea Bream Iridovirus-Characterization of Pathogenic RSIV

Isolated from Cultured Fish in Japan", *Applied and Environmental Microbiology*, in press (2009).

Reviews

物質循環／資源再生研究部門

1. 柳澤和道, "水熱法によるセラミックス粉末の合成", *J. Soc. Inorg. Mater., Jpn.*, **12**, 486-491 (2005).
2. YANAGISAWA, K., "Preparation of Single Crystals under Hydrothermal Conditions", *J. Ceram. Soc. Japan*, **113**, 565-572 (2005).
3. 柳澤和道, "形態制御セラミックス粉末の水熱合成", *Taikabutsu*, **58**, 469-475 (2006).
4. 柳澤和道, "水熱ホットプレス法によるセラミックスの作製", *化学工業*, **59**(5), 329-336 (2008).

物質変換／物質創成研究部門

1. 小槻日吉三, 隈本康司, "超高压有機合成化学における最近の進歩", *有機合成化学協会誌*, **63**, 770-779 (2005).
2. 市川善康, アリルシアナートの転位反応を活用した含窒素生理活性物質の合成, *有機合成化学協会誌*, **64**, 96-108 (2006).
3. カーボンナノチューブを用いた電気化学バイオセンサー, 上田忠治, *ぶんせき*, 134 (2006).
4. 「光学活性ピロリジン-ピリジン共役 (PYMP) 型有機触媒の開発」, 小槻日吉三, *和光純薬時報*, **75**(2), 2-4 (2007).
5. ICHIKAWA, Y. "Evolution, Development and Personal Experience of [3.3] Sigmatropic Rearrangement of Allyl Cyanate", *Synlett*, **2007**, 2927-2936.
6. Nakano, K.; KOTSUKI, H.; ICHIKAWA, Y. "Synthesis of Conagenin and α -Methylserine. A Review", *Org. Prep. Proc. Int.*, **40**, 67-91 (2008).
7. KOTSUKI, H.; Ikishima, H.; Okuyama, A. "Organocatalytic Asymmetric Synthesis Using Proline and Related Molecules. Part 1", *Heterocycles*, **75**, 493-529 (2008).
8. KOTSUKI, H.; Ikishima, H.; Okuyama, A. "Organocatalytic Asymmetric Synthesis Using Proline and Related Molecules. Part 2", *Heterocycles*, **75**, 757-797 (2008).
9. UEDA, T.; KOTSUKI, H. "Heteropoly Acids: Green Chemical Catalysts in Organic Synthesis", *Heterocycles* (Prof. Noyori's Special Issue), **76**(1), 73-97 (2008).
10. 小松巧征, 生島英明, 奥山敦史, 中村睦美, 小槻日吉三, "プロリン触媒不斉アルドール反応を基軸とする生理活性天然物の合成", *有機合成化学協会誌*, **67**(1), 65-75 (2009).

機能開拓／機能評価研究部門

1. 本家孝一, "硫酸化糖鎖の生合成と機能", *生化学*, **77**, 1382-1395 (2005).
2. 谷口睦男, 梶 秀人, "副嗅球におけるフェロモンの情報処理・学習機構—グルタミン酸受容体の果たす役割—", *日本味と匂学会誌*, **12**, 29-38 (2005).
3. Oka, Y.; Tsuboi, A.; Kawakami, M.; Elisseeva, O. A.; Nakajima, H.; UDAKA, K.; Kawase, I.; Oji, Y.; Sugiyama, H. "Development of WT1 Peptide Cancer Vaccine against Hematopoietic Malignancies and Solid Cancers", *Current Med. Chem.*, **13**, 2345-2352 (2006).
4. Taniguchi, N.; Miyoshi, E.; Gu, J.; HONKE, K.; Matsumoto, A. "Decoding Sugar Functions by Identifying Target Glycoproteins", *Curr. Opin. Struct. Biol.*, **16**, 561-566 (2006).

5. Wang, X.; Gu, J.; Miyoshi, E.; HONKE, K.; Taniguchi, N. "Phenotype Changes of Fut8 Knockout Mouse: Core Fucosylation is Crucial for the Function of Growth Factor Receptor(s)", *Methods Enzymol.*, **417**, 11-22 (2006).
6. 本家孝一, "硫酸化糖鎖の生物学的機能", *硫酸と工業*, **59**, 191-201 (2006).
7. 梶 秀人, "絆はどのように生まれるのか", *日経サイエンス*, **36**, 27 (2006).
8. 梶 秀人, "絆の分子メカニズムを探る", *化学と生物*, **44**, 382-390 (2006).
9. 梶 秀人, "絆はどのように生まれるのか", 別冊日経サイエンス 154「脳から見た心の世界 part 2」, p. 98 (2006).
10. 渡辺 茂, 彌田智一, "アドレッサブル高分子ナノ構造テンプレートを利用したナノ粒子の精密配列への挑戦", *未来材料*, **10**, 10-17 (2006).
11. 宇高恵子, 飯山達雄, 宮川知也 "悪性腫瘍のペプチド免疫療法", *THE LUNG perspectives*, **15**, 490-496 (2007).
12. 本家孝一, "不妊症と糖鎖異常", *実験医学*, **25**, 1060-1065 (2007).
13. 梶秀人, "鋤鼻器: フェロモン受容", *生体の科学*, **58**, 308-313 (2007).
14. 本家孝一, 山下竜幸 "膜マイクロドメインにおける硫酸化糖脂質の機能", *蛋白質・核酸・酵素*, **53**(12), 1542-1546 (2008).
15. 本家孝一, 小谷典弘, 山下竜幸 "膜マイクロドメイン糖鎖機能の解明をめざして", 遺伝子医学 MOOK11 臨床糖鎖バイオマーカーの開発—糖鎖機能の解明とその応用 (成松 久編集) pp. 81-85, メディカルドゥ, 大阪, 2008.
16. 小谷典弘, 本家孝一 "生細胞膜上分子間相互作用の生化学的可視化技術", *細胞工学*, **27**(11), 1168-1174 (2008).
17. 小谷典弘, 本家孝一 "生細胞膜上の分子間相互作用を簡便に解析する", *蛋白質・核酸・酵素*, **54**(1), 65-71 (2009).
18. 大山陽介, 吉田勝平 "クラスレート形成能を有する複素環キノール系蛍光色素の固体光物性と機能性", *有機合成化学協会誌*, **67**, 337-348 (2009).
9. 今井章介, 黒田正幸, 小谷典弘, 松崎茂展, "*H. pylori* 感染以外の胃癌の成因 (3) EB ウイルスと胃癌", *臨床消化器内科*, **21**, 1125-1132 (2006).
10. 今井章介, 黒田正幸, 山下竜右, 小谷典弘, 石浦嘉人, "難治性 EB ウイルス関連疾患に対する新たな治療戦略", *臨床とウイルス*, **34**, 158-163 (2006).
11. 内山淳平, 松崎茂展, 今井章介, "バクテリオファージ療法", *医学のあゆみ*, **219**, 483-484 (2006).
12. Eboshida, A.; Kuno, S.; Kawaguchi, T.; Kakehashi, M.; Kobayashi, T.; Kimura, T.; Kuroiwa, S.; Moriwaki, M.; Hayashida, K.; NAKAMURA, H.; Yasutake, S.; Araki, Y.; Yamaguchi, N.; Nobukuni, Y.; Sone, T., "Examination and Speculation Regarding Policy and Strategies for Health Promotion in the Local Community in Japan", *Int. J. Sport Health Sci.*, **4**, 1-8 (2006).
13. Eboshida, A.; Sone, T.; Kuno, S.; NAKAMURA, H.; Hatono, Y.; Takemura, S.; Umeno, H.; Araki, Y.; "Health Promotion Policies and Programs in Various Countries", *Int. J. Sport Health Sci.*, **4**, 402-413 (2006).
14. 一柳歩美, 中村裕之, "思春期の子どもの心の健康問題に対する行政の支援体制", *思春期学*, **24**(1), 152-158 (2006).
15. 大嶋俊一郎, "対数増殖期の菌体を用いた冷水病ワクチンの開発", *アクアネット*, 4 号, 22-26 (2008).
16. 松崎茂展, 内山淳平, Mohammad Rashel, 竹村伊代, "バクテリオファージを用いる難治性感染症治療", *The LUNG perspectives*, **16**, 98-103 (2008).

Books

物質循環／資源再生研究部門

1. 柳澤和道, "実験化学講座", 第 5 版, 丸善, 第 23 巻; 無機化合物: 水熱合成法; pp 14-17 (2005).
2. 柳澤和道, "環境調和型プロセスとしての水熱反応", 海洋高知の可能性を探る, 高知大学創立 50 周年記念事業委員会, **2005**, 115-123.
3. 蒲生啓司, "海水中の微量有機成分を探る", *海洋と生物*, **27**, 603-611 (2005).
4. Owada, M.; Osanai, Y.; Shimura, T.; ISHIZUKA, H. "Crustal Section and Anatexis of Lower Crust and Subduction-related High-pressure Type Metamorphism in the Hidaka and Kamuikotan Metamorphic Belts, Hokkaido, Japan", *Excursion Guidebook of IMA (International Mineralogical Association) 2006 KOBE Post-Symposium Excursion Trip FE9 (89 pp)* (2006).
5. 石塚英男, リーセルラルセン山地域の野外調査—地球の初期大陸との壮絶な出会い, 「南極観測隊—南極に情熱を燃やした若者たちの記録」(財団法人日本南極研究振興会発行、技報堂出版) 356-359 (2006).
6. 柳澤和道, 解説編 資料「無機材料 必須 300 原理応用 物性」守吉佑介編集, 三共出版 302 (2008).

物質変換／物質創成研究部門

1. 小槻日吉三, "実験化学講座", 第 5 版, 丸善; 第 6 巻, 11-6; 高圧下の物質合成: 有機化合物; pp 488-496 (2005).
2. 小槻日吉三, 「有機分子触媒の新展開」; 監修 柴崎正勝, シーエムシー出版; 第 12 章, プロリン誘導体を用いる不斉合成反応; pp 148-166 (2006).
3. KOTSUKI, H. "Polymer-supported Organosuperbases", In *Superbases for Organic Synthesis: Guanidines, Amidines, Phosphazenes and Related Organocatalysts*; Ishikawa, T. Ed.; WILEY-VCH: Weinheim, **2009**; Chapter 6, pp 187-210.

機能開拓／機能評価研究部門

1. 梶 秀人, "記憶学習モデルとしてのフェロモン記憶", *アロマサイエンス・シリーズ 21「香りの研究エッセイ」*,

渋谷達明編, フレグランスジャーナル社; pp 64-67 (2005).

2. 桃 秀人, “嗅覚”, 森寿, 真鍋俊也, 渡辺雅彦, 岡野栄之, 宮川剛編, 改訂第2版「脳神経科学イラストレイテッド」, pp. 233-239, 羊土社 (2006).
3. 桃 秀人, “副嗅球における匂い記憶メカニズム”, 渋谷達明, 市川眞澄編, 「匂いと香りの科学」, pp.130-135, 朝倉書店 (2007).
4. KABA, H. “Olfactory imprinting in mammals”, In: Comparative Social Cognition, Watanabe S; Tsujii, T.; Keenan, J.P. (eds), Keio University Press, pp.79-101 (2007).
5. 桃秀人, “フェロモン記憶と個体認識”, 長田俊哉, 市川眞澄, 猪飼 篤編「フェロモン受容に関わる神経系」, 森北出版, pp. 113-134 (2007).
6. 桃秀人, “感覚のしくみ”, 「解剖生理学 人体の構造と機能 第2版」, 河田光博, 三木健寿編, 講談社サイエンティフィク, pp. 139-144 (2007).
7. 大山陽介, 吉田勝平, “機能性色素の合成と応用技術”; 監修 松居正樹, シーエムシー出版 (2007); 第2章 キノン系色素および関連化合物; pp. 14-41.
8. 吉田勝平, “固体発光性蛍光色素の分子設計・合成・機能評価”, 「最新 機能性色素大全集」, 技術情報協会, pp.15-32 (2007).
9. KABA, H. “Imprinting”, In Binder, M.D.; Hirokawa, N.; Windhorst, U. (Eds.) Encyclopedia of Neuroscience, Springer, in press.
10. 桃秀人, “嗅覚と味覚”, 前田正信監訳「エッセンシャル神経科学」, 丸善, pp. 306-316 (2008).
11. HONKE, K., Sulfatide synthase. In “Experimental Glycoscience. Glycobiology (eds. Taniguchi N, et al.)”, pp. 94-96, Springer, Tokyo, 2008.
12. HONKE, K., Neuronal function of sulfatide. In “Experimental Glycoscience. Glycobiology (eds. Taniguchi N, et al.)”, pp. 182-184, Springer, Tokyo, 2008.
13. HONKE, K., Glycoconjugates in spermatogenesis. In “Experimental Glycoscience. Glycobiology (eds. Taniguchi N, et al.)”, pp. 275-277, Springer, Tokyo, 2008.
14. HONKE, K., KO mice of cerebroside sulfotransferases. In “Experimental Glycoscience. Glycobiology (eds. Taniguchi N, et al.)”, pp. 389-390, Springer, Tokyo, 2008.

環境共生／生命環境研究部門

1. 今井章介, 第6章 ウイルスとがん, 「がんのベーシックサイエンス」日本語版第3版, 谷口直之, 大島 明監訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル, pp. 115-140 (2006) .

Reports & Others

物質循環／資源再生研究部門

1. 西本由美子, 蒲生啓司, 阿万智治, “歯科有機材料の溶出挙動について”, 高知大学国際・地域連携センター研究成果報告書, No. 3, pp 83-90 (2005).
2. GAMOH, K.; Taniguchi, M., Eds., “Promotion of Novel Educational Programme for Teacher Training Course Based on the International Understanding and Environmental Education”, ACCU (Asia/Pacific Cultural Center for UNESCO)ユネスコ青年交流委託基金事業大学生交流プログラム報告書 (2005).
3. 柳澤和道, “環境・再資源化”, *J. Soc. Inorg. Mater., Jpn.*, **12**, 85-86 (2005).
4. 柳澤和道, 水熱反応を利用した環境問題への取り組み, 環境報告書 2005, 高知大学, p. 24 (2006).
5. 柳澤和道, “アスベストの無害化に関する研究”, 環境報告書 2007, 高知大学, pp. 27-28 (2007).
6. 蒲生啓司, 秋山真貴子, “液体クロマトグラフィー/質

量分析法による葉酸類の定量に関する研究”, 高知大学学術研究報告, 第57巻, pp. 11-26 (2008).

物質変換／物質創成研究部門

1. 小槻日吉三, “超高压反応を基軸とする環境調和型有機合成反応の開発”, 平成 14～16 年度科学研究費補助金 (基盤研究 A), 研究成果報告書 (2005).
2. 小槻日吉三, 深田 功, “高選択的有機合成反応の研究”, 高知大学国際・地域連携センター研究成果報告書, No. 3, pp 13-18 (2005).
3. 小槻日吉三, “グリーンサイエンス特別研究プロジェクト”, 高知大学国際・地域連携センター年報, 2006; pp 38-41.
4. 小槻日吉三, “協働と協調へのパラダイム”, 高温高压流体技術研究会ニュースレター, 第 40 号, 巻頭言 (2006).
5. 小槻日吉三, “小泉光男氏訃報に寄せて”, 高压力の科学と技術, **16**, 278-279 (2006).
6. 上田忠治, “カーボンナノチューブを用いた電気化学バイオセンサー”, ぶんせき, 134 (2006).
7. 小槻日吉三, “超高压／多成分連結反応を基軸とする多官能性化合物の効率的合成”, 旭硝子財団研究成果報告, 2008, No. 12, 1-4.

機能開拓／機能評価研究部門

1. 吉田勝平, 北野雅治, “波長選択光吸収・発光性色素の創出と農園芸用フィルム開発への応用”, PLATFORM, No 219, 16-17 (2005); 高知県 RSP 事業・平成 16 年度育成試験成果集, 39-71 (2005).
2. 吉田勝平, “クラスレート形成イミダジアントラキノール系蛍光色素の合成・包接能・固体発光特性”, 日本学術振興会繊維・高分子機能加工 120 委員会年次報告, **56**, 91-94 (2005).
3. 渡辺 茂, “金属ナノ粒子凝集体を利用した分子認識プローブの開発”, 平成 15～16 年度科学研究費補助金 (基盤研究 B), 研究成果報告書 (2005).
4. 吉田勝平, 北野雅治, 福元康文, 島崎一彦, “波長変換型フィルム用発光色素の開発と農業への応用研究” RSP 事業により「育成試験成果概要集」財団法人高知県産業振興センター, 101-102 (2006).
5. 吉田勝平, “新規な複素多環キノール系蛍光性色素の合成・固体光物性・結晶構造”, 日本学術振興会高分子機能加工 120 委員会年次報告, 59, 25-28 (2008).
6. YOSHIDA, K., “Dramatic Color and Fluorescence Changes of A Naphtho-oxazole-type Fluorophore upon Formation of Guest-inclusion Crystals”, 日本学術振興会高分子機能加工 120 委員会年次報告, 59, 82-85 (2008).

Patents

物質循環／資源再生研究部門

1. 蒲生啓司, 中尾千予視, “糖類の分析方法および分析装置”, 特願 2005-317465 (2005).
2. 柳澤和道, 張五星, 内田義男, “粒子状亜鉛含有化合物, 酸化亜鉛粒子およびそれらの製造方法”, 特願 2006-049950 (高知大学, 住友化学工業).
3. 柳澤和道, 張五星, 内田義男, “酸化亜鉛粉末およびその製造方法”, 特願 2006-049951 (高知大学, 住友化学工業).
4. 金澤正澄, 高浪哲郎, 柳澤和道, 小澤隆弘, “アスベストの無害化処理方法及びその装置”, 特願 2006-244809, 特願 2006-317146, 特願 2006-337564 (大旺建設).
5. 神谷純生, 石井勝, 大塚郷子, 柳澤和道, チャン ウーシン, “粉末蛍光体およびその製造方法, 並びに粉末蛍光体を有する発光装置, 表示装置及び蛍光ランプ”, 特願 2007-10649 (トヨタ自動車, 高知大学).

6. 神谷純生, 庄辰夫, 小竹登, 加藤幸伸, 柳澤和道, チャン ウーシン, “硫化物又は複合硫化物の単結晶微粉末, 及びその製造方法”, 特願 2007-239840 (トヨタ自動車, 高知大学).
7. 神谷純生, 庄辰夫, 小竹登, 加藤幸伸, 柳澤和道, チャン ウーシン, “微粒子コンポジット, その製造方法, 固体高分子型燃料電池用触媒, 及び固体高分子型燃料電池”, 特願 2007-239907 (トヨタ自動車, 高知大学).
8. 恩田歩武, 小河脩平, 柳澤和道, “触媒およびアルコールの合成法”, 特願 2008-40675 (高知大学, 出光興産株式会社).
9. 恩田歩武, 越智貴史, 柳澤和道, “グルコースの製造方法およびスルホン化活性炭の製造方法”, 特願 2008-46736 (高知大学).
10. 柳澤和道, 小澤隆弘, “無水ケイ酸塩の合成方法”, 特願 2008-68878 (高知大学).
11. 神谷純生, 庄辰夫, 柳澤和道, 李楠, “金属硫化物の球状粒子およびその製造方法”, 特願 2009-018797 (トヨタ自動車, 高知大学).

物質変換／物質創成研究部門

1. 小槻日吉三, “光学活性アミノピリジル基含有ピロリジン誘導体及びそれを用いた不斉合成方法”, 特開 2006-028105 (高知大学).
2. 小槻日吉三, “産卵誘引フェロモンの製造方法およびその製造中間体の製造方法”, 特開 2006-036705 (高知大学).
3. 小槻日吉三, “縮合多環化合物の製造方法”, 特願 2006-159347 (高知大学).
4. 小槻日吉三, 高 京民, “炭素—炭素結合形成反応の水系触媒”, 特願 2007-294470 (高知大学).
5. 小槻日吉三, 本家孝一, “キレート化合物含有薬物輸送剤”, 特願 2008-017619 (高知大学).
6. 小槻日吉三, 高 京民, “炭素—炭素結合形成反応の水系触媒”, 特願 2008-21020 (高知大学).
7. 小槻日吉三, 本家孝一, “キレート化合物含有薬物輸送剤”, 特願 2009-018226 (高知大学).
8. 小槻日吉三, “アミノ基含有アセトン誘導体、及びそれを用いた炭素—炭素結合形成方法”, 特願 2009-59830 (高知大学).

機能開拓／機能評価研究部門

1. 渡辺 茂, “ラマンスペクトルの測定法, 該方法に使用する貴金属粒子および該貴金属粒子の製造方法”, 特開 2005-249779.
2. 宇高恵子, 宮川知也, “結合性ペプチド、その前駆体、それをコードする DNA 断片および組み換えベクター”, 特願 2006-242058, PCT/JP2006/317759, 特願 2006-279232; PCT/JP2007/000058.
3. 吉田勝平, 長濱有希, 間村俊樹, “フェナジン化合物”, 特願 2006-34239.
4. 渡辺 茂, “金属微粒子配列シート”, 特開 2006-88310.
5. 宇高恵子, 石橋正英, “癌の治療剤”, 特願 2007-028081.
6. 吉田勝平, 日野利彦, 山本久富, 井元賢治, “蛍光性化合物および色素”, 特願 2007-5898.
7. 吉田勝平, 林 晶子, 間村俊樹, “複素多環フェナジン化合物”, 特願 2007-29320.
8. 宮川知也, 宇高恵子, “HLA 結合性ペプチド、その前駆体、それをコードする DNA 断片および組み換えベクター”, 特願 2007-189047, PCT/JP2007/069348.
9. 宮川知也, 宇高恵子, 恩地森一, “細胞傷害性 T 細胞の誘導方法, 細胞傷害性 T 細胞の誘導剤, およびそれを用いた医薬組成物およびワクチン”, PCT/JP2007/000095.
10. 宮川智也, 宇高恵子, “細胞傷害性 T 細胞の誘導方法, 細胞傷害性 T 細胞の誘導剤, およびそれを用いた医薬組成物およびワクチン”, 特願 2007-301000.
11. 石橋正英, 宇高恵子, “癌の治療剤”, PCT/JP2008/52070.

12. 吉田勝平, 間村俊樹, 山崎博春, “縮合多環系フェナジン化合物”, 特願 2008-027934.
13. 渡辺 茂, 李 晶澤, “表面に微小金属塊が整列した基板”, PCT/JP2007/057565.
14. 宮川知也, 宇高恵子, “細胞傷害性 T 細胞の誘導方法, 細胞傷害性 T 細胞の誘導剤, およびそれを用いた医薬組成物およびワクチン”, PCT/JP2008/003419.
15. 吉田勝平, 島崎一彦, 江川晴香, 浜田和俊, “ラン科植物の製造方法および PLB 増殖用蛍光透明フィルム”, 特願 2008-232888.
16. YOSHIDA, K.; Ooyama, Y., “Heteropolycyclic Compound and Dye”, United States Patent: US 7,408,072 B2 (2008).
17. 吉田勝平, 間村俊樹, 山崎博春, “縮合多環系フェナジン化合物およびその製造方法”, 特願 2009-25320.

環境共生／生命環境研究部門

1. 中村裕之, 秋丸国広, “アレルギー発症源の除去方法”, 特願 2006-084133.
2. 津田正史, 小口慶子, 岩本理恵, 岡本由美子, 福士江里, 増田篤稔, 小澤知子, “新規マクロライド化合物”, 特願 2008-097610 (北海道大学, ヤンマー株式会社).
3. 大嶋俊一郎, 松田洋和, 奥蘭一彦, “魚類の病原性細菌類の駆除剤及びその駆除方法”, 特願 2007-43553.

Conference Presentations

物質循環／資源再生研究部門

<柳澤 和道教授>

1. R. E. Riman, G. Rossetti, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa, M.-B. Kate, and W. Suchanek
Hydrothermal Perovskite Epitaxy
The 107th Annual Meeting and Exposition of the American Ceramic Society, Baltimore, U.S.A. (4.10~4.13, 2005).
2. 柳澤和道, 朱孔軍, 恩田歩武, 梶芳浩二, 西川治光
Ca-Cd 系水酸アパタイト固溶体の合成とその光触媒特性
無機マテリアル学会第 110 回学術講演会, 工学院大学 (6.2~6.3, 2005).
3. Z. Matamoros-Veloza, J. C. Rendon-Angeles, K. Yanagisawa
Preparation of Low-Density Porous Glass Ceramics under Hydrothermal Conditions
Joint 20th AIRAPT-43rd EHPRG Conference on Science and Technology of High Pressure, Karlsruhe, Germany (6.27~7.1, 2005).
4. J. C. Rendón-Angeles, Z. Matamoros-Veloza, K. Yanagisawa
Preparation of Analcime-Zeorite from Fly Ash Powder Hydrothermally Treated in Fluorine Solutions
Joint 20th AIRAPT-43rd EHPRG Conference on Science and Technology of High Pressure, Karlsruhe, Germany (6.27~7.1, 2005).
5. J. C. Rendón-Angeles, Y. M. Rangel-Hernández, J. López-Cuevas, M. I. Pech-Canul, Z. Matamoros-Veloza, K. Yanagisawa
Pseudomorphic Conversion of Mineral SrSO₄ to SrCrO₄ under Hydrothermal Conditions
Joint 20th AIRAPT-43rd EHPRG Conference on Science and Technology of High Pressure, Karlsruhe, Germany (6.27~7.1, 2005).
6. K. Yanagisawa, K. J. Zhu, A. Onda, K. Kajiyoshi, H. Nishikawa
Hydrothermal Preparation of Hydroxyapatite Solid Solutions and Their Photocatalytic Property
Joint 20th AIRAPT-43rd EHPRG Conference on Science

- and Technology of High Pressure, Karlsruhe, Germany (6.27~7.1, 2005).
7. K. Kajiyoshi, Q. Feng, K. Yanagisawa
A Novel Hydrothermal Soft Chemical Process for Preparation of Preferentially Oriented Perovskite-type Titanate Thin Films
11th Asian Chemical Congress, Seoul, Korea (8.24~8.26, 2005).
 8. K. Yanagisawa, K. J. Zhu, R. Shimanouchi, A. Onda, K. Kajiyoshi
Hydrothermal Preparation of Hydroxyapatite Solid Solutions with Various Metal Ions
5th International Symposium on Inorganic Phosphate Materials '05, Kasugai (9.6~9.8, 2005).
 9. K. Kajiyoshi, Q. Feng, K. Yanagisawa, R. E. Riman, G. A. Rossetti
Preparation of Preferentially Oriented BaTiO₃ Thin Film by Hydrothermal Soft Chemical Process
6th Pacific Rim Conference on Ceramic and Glass Technology, Maui, U.S.A. (9.11~9.16, 2005).
 10. 柳澤和道
水熱法によるセラミックス粉末の低温合成
京都大学化学系 21 世紀 COE 合同シンポジウム「低温合成法による新機能性材料の創製」, 京都大学 (9.15~9.16, 2005).
 11. 鈴木陽太郎, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
湿式法によるナフタレンの酸化反応
第 96 回触媒討論会, 熊本大学 (9.20~9.23, 2005).
 12. 恩田歩武, 原さゆり, 梶芳浩二, 柳澤和道
トドロカイト型マンガン酸化物 M-Mn-O (M=Mg, Co, Ni) の合成
第 96 回触媒討論会, 熊本大学 (9.20~9.23, 2005).
 13. 恩田歩武, 原さゆり, 梶芳浩二, 柳澤和道
トドロカイト型マンガン酸化物 M-Mn-O (M = Mg, Ni, Co) の熱安定性と酸化触媒作用
第 96 回触媒討論会, 熊本 (9.20~23, 2005).
 14. 柳澤和道, 毛雅春, 恩田歩武, 梶芳浩二
水熱合成物の仮焼による形状制御酸化物粒子の合成
日本セラミックス協会第 18 回秋季シンポジウム, 大阪府立大 (9.27~9.29, 2005).
 15. 梶芳浩二, 馮旗, 柳澤和道, R.E. Riman, G. Rossetti
水熱ソフト化学プロセスによる一軸配向(Ba, Sr)TiO₃ 薄膜の作製
日本セラミックス協会第 18 回秋季シンポジウム, 大阪府立大 (9.27~9.29, 2005).
 16. 胡秀らん, 柳澤和道, 恩田歩武, 梶芳浩二
 β -ケイ酸カルシウムからのケイ酸カルシウム水和物の水熱合成
日本セラミックス協会第 18 回秋季シンポジウム, 大阪府立大 (9.27~9.29, 2005).
 17. 朱孔軍, 柳澤和道, 島内理恵, 恩田歩武, 梶芳浩二
ストロンチウム水酸アパタイト固溶体の合成と構造解析
日本セラミックス協会第 18 回秋季シンポジウム, 大阪府立大 (9.27~9.29, 2005).
 18. X. Hu, K. Yanagisawa, A. Onda, K. Kajiyoshi
Formation of Calcium Silicate Hydrates by Two Different Hydrothermal Methods
The 1st Asia-Oceania Ceramic Federation Conference, Osaka Prefecture University (9.27~9.29, 2005).
 19. K. Zhu, K. Yanagisawa, T. Fujino, A. Onda, K. Kajiyoshi, K. Ioku
Development of Novel Preparation Method of HAp Ceramics
The 1st Asia-Oceania Ceramic Federation Conference, Osaka Prefecture University (9.27~9.29, 2005).
 20. K. Yanagisawa, K. Zhu, A. Funasaka, A. Onda, K. Kajiyoshi, Q. Feng, K. Ioku
Determination of Mg Solid Solution Limit into Ca Hydroxyapatite
The 4th International Conference on High-Performance Ceramics, Chengdu, China (10.23~10.26, 2005).
 21. K. Zhu, K. Yanagisawa, T. Fujino, A. Onda, K. Kajiyoshi, K. Ioku
Development of Novel Preparation Method of HAp / β -TCP Composites
The 4th International Conference on High-Performance Ceramics, Chengdu, China (10.23~10.26, 2005).
 22. X. Hu, K. Yanagisawa, A. Onda, K. Kajiyoshi
Phase Relation of α -Dicalcium Silicate Hydrate - Hillebrandite - Dallahite under Hydrothermal Conditions
The 4th International Conference on High-Performance Ceramics, Chengdu, China (10.23~10.26, 2005).
 23. Z. Matamoros-Veloz, J.C. Rendon-Angeles, M.M. Cisneros-Guerrero, K. Yanagisawa, P. Pena
Preparation of porous glass ceramics from waste glass under hydrothermal conditions
Innovacion, Ciencia y Tecnologia de los Materiales ceramicos y Vitreos 2005, Sevilla, Spain (11.2~11.5, 2005).
 24. L. P. Rivas-Vazquez, Rendon-Angeles, J. L. Rodriguez-Galicia, J. Lopez-Cuevas, K. Yanagisawa
Crystallization of Precursor Sr²⁺ and Ca²⁺ doped lanthanum Chromite Gels under hydrothermal conditions
Innovacion, Ciencia y Tecnologia de los Materiales ceramicos y Vitreos 2005, Sevilla, Spain (11.2~11.5, 2005).
 25. 柳澤和道, 具志大介, 恩田歩武, 梶芳浩二
水熱条件下でのペーライト板状結晶の生成
第 50 回人工結晶討論会, 名古屋大学 (11.4~11.5, 2005).
 26. 胡秀らん, 柳澤和道, 恩田歩武, 梶芳浩二
水熱条件下における Ca/Si 比 2 のケイ酸カルシウムの相関係
無機マテリアル学会第 111 回学術講演会, 岡山大学 (11.10~11.11, 2005).
 27. 梶芳浩二, 岡田和也, 馮旗, 柳澤和道
水熱ソフト化学法によるチタン複合酸化物薄膜の配向性
第 12 回ヤングセラミストミーティング in 中四国, 徳島大 (11.26, 2005).
 28. 梶芳浩二, 大西一世, 柳澤和道
チタン酸バリウム-ジルコン酸バリウム系微粒子の水熱合成と焼結特性
第 12 回ヤングセラミストミーティング in 中四国, 徳島大 (11.26, 2005).
 29. 梶芳浩二, 大西一世, 柳澤和道
Ba(Ti, Zr)O₃ 微粒子の水熱合成と焼結体の誘電特性
第 12 回ヤングセラミストミーティング in 中四国, 徳島市 (11.26, 2005).
 30. K. Yanagisawa, K. Zhu, T. Fujino, A. Onda, K. Kajiyoshi, K. Ioku
Preparation of Hydroxyapatite Ceramics by Hydrothermal Hot-Pressing Technique
Bioceramics 18, Kyoto (12.5~12.8, 2005).
 31. 梶芳浩二, 岡田和也, 柳澤和道, 馮旗, R. E. Riman, G. A. Rossetti
水熱ソフト化学プロセスによる一軸配向 ATiO₃ (A = Ba, Sr, Pb) 薄膜の合成
第 44 回セラミック基礎科学討論会, 高知市 (1.19~1.20, 2006).
 32. 梶芳浩二, 大西一世, 柳澤和道
Ba(Ti, Zr)O₃ 微粒子の水熱合成と焼結体の評価
第 44 回セラミック基礎科学討論会, 高知市 (1.19~1.20, 2006).
 33. 柳澤和道, 門脇理恵, 恩田歩武, 梶芳浩二
ソーダ石灰ガラスの水熱反応による反応層の形成
第 3 回環境・エネルギー関連セラミックス研究会, 東京大学 (3.14, 2006).
 34. 張五星, 柳澤和道
塩化物水溶液からの亜鉛化合物の水熱合成
日本セラミックス協会 2006 年年会, 東京大学 (3.14~3.16, 2006).

35. 朱 孔軍, 裘 進浩, 柳澤和道, 恩田歩武, 梶芳浩二
水熱ホットプレス法による HAp/beta-TCP 複合体の低温焼結
日本セラミックス協会 2006 年年会, 東京大学 (3.14~3.16, 2006).
36. 恩田歩武, 原さゆり, 梶芳浩二, 柳沢和道
トドロカイト型マンガン酸化物の合成における Ni, Co, Mg の効果
無機マテリアル学会第 112 回学術講演会, 上智大学 (6.8~6.9, 2006).
37. K. Yanagisawa, N. Bao, M. Kariya, A. Onda, K. Kajiyoshi, Z. Matamoros-Veloza, J. C. Rendón-Angeles
Development of a Recycling Technique of Used Glass by Conversion to Porous Materials
Third International Conference on Waste Management 2006, Corinthia Jerma Palace Hotel, Malta (6.21~6.23, 2006).
38. A. Onda, Y. Suzuki, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa
Wet Oxidation of Organic Compounds over Metal Catalysts
Fifth Tokyo Conference on Advanced Catalytic Science and Technology, P-148, Tokyo (7.23~28, 2006).
39. J. C. Rendon-Angeles, J. Lopez-Cuevas, Z. Matamoros-Veloza, K. Yanagisawa
Hydrothermal Synthesis of Fine $\text{La}_{0.8}\text{Ca}_{0.2}\text{Cr}_{1-x}\text{Al}_x\text{O}_3$ Powders and its Sintering
Joint ISHR-ICSTR 2006, Joint Meeting of 8th International Symposium on Hydrothermal Reactions & 7th International Conference on Solvothermal Reactions, P-139, Sendai (8.5~8.9, 2006).
40. K. Kajiyoshi, Q. Feng, K. Yanagisawa, R. E. Riman, G. E. Rossetti
Synthesis of Uniaxially Oriented Perovskite-Type Titanate Thin Films by Hydrothermal Soft Chemical Process
Joint ISHR-ICSTR 2006, Joint Meeting of 8th International Symposium on Hydrothermal Reactions & 7th International Conference on Solvothermal Reactions, OC-1-03, Sendai (8.5~8.9, 2006).
41. K.-J. Zhu, J.-H. Qiu, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa, J. Kan, J. Tao
Hydrothermal synthesis of Barium Titanate Powders for Fabrication of Lead-Free Piezoelectric Ceramics
Joint ISHR-ICSTR 2006, Joint Meeting of 8th International Symposium on Hydrothermal Reactions & 7th International Conference on Solvothermal Reactions, OC-1-04, Sendai (8.5~8.9, 2006).
42. Yanagisawa, A. Onda, K. Kajiyoshi
Hydrothermal Preparation of Ceramic Powders with Controlled Morphology
Joint ISHR-ICSTR 2006, Joint Meeting of 8th International Symposium on Hydrothermal Reactions & 7th International Conference on Solvothermal Reactions, OA-2-17, Sendai (8.5~8.9, 2006).
43. C. Rendon-Angeles, M. I. Pech-Canul, J. Lopez-Cuevas, Z. Matamoros-Veloza, K. Yanagisawa
Stability and Direct Conversion of Mineral Barite Crystals in Carbonated Hydrothermal Fluids
Joint ISHR-ICSTR 2006, Joint Meeting of 8th International Symposium on Hydrothermal Reactions & 7th International Conference on Solvothermal Reactions, OC-2-07, Sendai (8.5~8.9, 2006).
44. A. Onda, Y. Suzuki, S. Takemasa, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa
Catalytic Wet Oxidations of Aromatic Compounds over Supported Copper Oxides
Joint ISHR-ICSTR 2006, Joint Meeting of 8th International Symposium on Hydrothermal Reactions & 7th International Conference on Solvothermal Reactions, P-017, Sendai (8.5~8.9, 2006).
45. Z. Matamoros-Veloza, J. C. Rendón-Angeles, K. Yanagisawa, M. M. Cisneros-Guerrero, M. J. Pérez-López
Influence of the inorganic additives on the preparation of porous glass-ceramics under hydrothermal hot pressing conditions
Joint ISHR-ICSTR 2006, Joint Meeting of 8th International Symposium on Hydrothermal Reactions & 7th International Conference on Solvothermal Reactions, P-053, Sendai (8.5~8.9, 2006).
46. Y.-P. Zhu, K. Yanagisawa, K. Kajiyoshi, W.-G. Zhang
Hydrothermal Synthesis of Nano-crystallized Cristobalite
Joint ISHR-ICSTR 2006, Joint Meeting of 8th International Symposium on Hydrothermal Reactions & 7th International Conference on Solvothermal Reactions, Sendai (8.5~8.9, 2006).
47. Y. A. Saldaña-Salazar, J. C. Rendon-Angeles, J. L. Rodriguez-Galicia, Z. Matamoros-Veloza, K. Yanagisawa
Stability of Rhodochrosite Mineral and its Direct Conversion into MnOOH in Acidic and Alkaline Hydrothermal Fluids
Joint ISHR-ICSTR 2006, Joint Meeting of 8th International Symposium on Hydrothermal Reactions & 7th International Conference on Solvothermal Reactions, P-136, Sendai (8.5~8.9, 2006).
48. 張五星, 柳澤和道
水熱徐冷法による simonkolleite 板状単結晶粒子からなる粉末の合成
日本セラミックス協会第 19 回秋季シンポジウム, 1D25, 山梨大学 (9.19~9.21, 2006).
49. 柳澤和道, 張五星, 具志大介, 毛雅春, 梶芳浩二, 恩田歩武
形状制御単結晶粉末の水熱合成と酸化物多結晶粒子への変換
日本セラミックス協会第 19 回秋季シンポジウム, 3G14, 山梨大学 (9.19~9.21, 2006).
50. 梶芳浩二, 大西一世, Xue Lihong, 柳澤和道
Ba(Ti, Zr)O₃ 微粒子の水熱合成とその誘電特性
日本セラミックス協会第 19 回秋季シンポジウム, 2P15, 山梨大学 (9.19~9.21, 2006).
51. 恩田歩武, 越智貴史, 梶芳浩二, 柳沢和道
ハイドロタルサイト触媒によるグルコースからの乳酸生成
第 98 回触媒討論会, 3G05, 富山, (9.26~9.29, 2006).
52. 越智貴史, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳沢和道
担持貴金属触媒によるグルコースから有機酸への改質反応
第 98 回触媒討論会, 2P34, 富山 (9.26~9.29, 2006).
53. 小河脩平, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳沢和道
バナジン酸アパタイトとその固溶体の水熱合成および触媒特性
第 98 回触媒討論会, 2P02, 富山 (9.26~9.29, 2006).
54. Z. Matamoros-Veloza, J. C. Rendon-Angeles, K. Yanagisawa, M. A. Cisneros-Guerrero
Preparation of Foam TRC Glass by Means of Hydrothermal Hot-Pressing Technique
8th International Symposium on Supercritical Fluids, OC-2-04, Kyoto International Conference Hall (11.5~11.8, 2006).
55. J. C. Rendon-Angeles, Y. M. Rangel-Hernandez, Z. Matamoros-Veloza, K. Yanagisawa, J. L. Rodriguez-Galicia, J. Lopez-Cuevas
Stability of Psuedomorphically Converted SrCO₃ and SrF₂ Crystals in CrO₄²⁻ Hydrothermal Fluids: Effect of Porosity on Hydrothermal Conversion
8th International Symposium on Supercritical Fluids, PA-2-45, Kyoto International Conference Hall (11.5~11.8, 2006).
56. 柳澤和道, 朱孔軍, 藤野孝洋, 恩田歩武, 梶芳浩二, 郡寿也, 井奥洪二
水熱ホットプレスによるリン酸カルシウム成形体の作成
第 16 回無機リン化学討論会, #34, ホテルグランドパ

- レス徳島 (11.7~11.8, 2006).
57. K. Yanagisawa
Application of Hydrothermal Reactions for Ceramic Powder Preparation and Environmental Conservation
28th Congreso Internacional De Metalurgia Y Materiales (International Materials Research Congress), ART03, Mexico (11.15~11.17, 2006).
 58. T. Kozawa, T. Takanami, M. Kanazawa, A. Onda, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa
Decomposition of Chrysotile Asbestos by Freon-Decomposed Acidic Gas
28th Congreso Internacional De Metalurgia Y Materiales (International Materials Research Congress), CART02, Mexico (11.15~11.17, 2006).
 59. J. C. Rendon-Angeles, J. L. Rodriguez-Galicia, Z. Matamoros-Veloza, K. Yanagisawa, Y. A. Saldana-Salazar
Effect of the Impurities on the Conversion of Mineral $MnCO_3$ into $MnOOH$ in Acidic and Alkaline Hydrothermal Fluids
28th Congreso Internacional De Metalurgia Y Materiales (International Materials Research Congress), CART04, Mexico (11.15~11.17, 2006).
 60. T. Ochi, A. Onda, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa
Efficient Conversion of D-Glucose into Useful Organic Acids
28th Congreso Internacional De Metalurgia Y Materiales (International Materials Research Congress), CART05, Mexico (11.15~11.17, 2006).
 61. S. Ogo, A. Onda, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa
Hydrothermal Synthesis of $Ca_{10}(PO_4)_6-x(VO_4)_x(OH)_2$ Apatite Catalysts
28th Congreso Internacional De Metalurgia Y Materiales (International Materials Research Congress), CART07, Mexico (11.15~11.17, 2006).
 62. Z. Matamoros-Veloza, J. C. Rendón-Ángeles, K. Yanagisawa, M. M. Cisneros-Guerrero, M. A. Cisneros-Guerrero, E. E. Mejía-Martínez
Synthesis of Low-Density Porous Glass-Ceramics under Hydrothermal Hot Pressing
28th Congreso Internacional De Metalurgia Y Materiales (International Materials Research Congress), CART10, Mexico (11.15~11.17, 2006).
 63. 柳澤和道, 當山真司, 門脇理恵, 恩田歩武, 梶芳浩二
ソーダ石灰ガラスの水熱反応
第13回ヤングセラミストミーティング in 中四国, K.10 高知大学 (11.25, 2006).
 64. 小河脩平, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
リン酸-バナジン酸アパタイト触媒の水熱合成
第13回ヤングセラミストミーティング in 中四国, K.14 高知大学 (11.25, 2006).
 65. 越智貴史, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
固体触媒を用いた水熱反応によるグルコースから乳酸生成
第13回ヤングセラミストミーティング in 中四国, K.15 高知大学 (11.25, 2006).
 66. K. Yanagisawa, N. Bao, M. Kariya, A. Onda, K. Kajiyoshi, Z. Matamoros-Veloza, J. C. Rendón-Ángeles
Conversion of Used Glass Bottles to Porous Materials by Using Hydrothermal Technique
The 8th International Symposium on Eco-Materials Processing and Design, 1A-In-05, Kitakyushu International Conference Center (1.11~1.13, 2007).
 67. K. Zhu, J. Qiu, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa
Hydrothermal Synthesis of $Na(Nb_{1-x}Ta_x)O_3$ Powder for Fabrication of Lead-Free Piezoelectric Ceramics
The Fifth China International Conference on High-Performance Ceramics, Changsha, P. R. China (5.10~13, 2007).
 68. K. J. Zhu, J. H. Qiu, Z. L. Meng, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa, N. Li
Hydrothermal Synthesis of $K_xNa_{1-x}NbO_3$ Powders for Fabrication of Lead-free Piezoelectric Ceramics
World Forum on Smart Materials and Smart Structures Technology, Chongqing & Nanjing, P. R. China (5.22~27, 2007).
 69. 恩田歩武, 原さゆり, 梶芳浩二, 柳澤和道
トドロカイト型マンガン酸化物の熱安定性に対するNi, Co, Mgの影響
無機マテリアル学会第114回学術講演会, 日本大学 (6.7~6.8, 2007).
 70. K. J. Zhu, J. H. Qiu, Z. L. Meng, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa, N. Li (Invited)
Hydrothermal Synthesis of $(K,Na)(Nb,Ta)O_3$ Powder for Fabrication of Lead-Free Piezoelectric Ceramics
International Conference on Smart Materials and Nanotechnology in Engineering, Harbin, P. R. China (7.1~7.4, 2007).
 71. 金澤正澄, 柳澤和道, 白石雅嗣, 高浪哲郎, 前 尚樹
過熱蒸気によるアスベストの無害化・再資源化の低コスト・大量処理技術
京都大学環境衛生工学研究会第29回シンポジウム, 京都 (7.19~7.20, 2007).
 72. 小河脩平, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
リン酸-バナジン酸アパタイト触媒による2-プロパノールの酸化反応
第一回触媒道場, 岡山 (8.6~8.8, 2007).
 73. 越智貴史, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
Pt/C 触媒を用いたグルコースから有機酸への高選択的転換
第一回触媒道場, 岡山 (8.6~8.8, 2007).
 74. 柳澤和道
アスベストの無害化, 資源化技術の開発
第2回夢の融合 産官学研究マッチング, 岡山 (9.7, 2007).
 75. 柳澤和道
水熱法による単結晶育成と結晶の形状制御
日本セラミックス協会第20回秋季シンポジウム, 名古屋 (9.12~9.14, 2007).
 76. 柳澤和道
水熱ホットプレス法によるセラミックスの作製
日本セラミックス協会第20回秋季シンポジウム, 名古屋 (9.12~9.14, 2007).
 77. K. Yanagisawa, W. Zhang, T. Shou, N., Otake, S. Kamiya
Hydrothermal and Solvothermal Synthesis of Rhodium Sulfide
Joint 21st AIRAPT and 45th EHPRG International Conference, Catania, Italy (9.17~9.21, 2007).
 78. J. C. Rendón-Ángeles, M. I. Pech-Canul, J. L'opez-Cuevas, J. L. Rodríguez-Galicia, J. F. De la Rosa-Díaz, Z. Matamoros-Veloza, K. Yanagisawa
Preparation of powders of lanthanum chromite solid solutions doped with Sr^{2+} and Ca^{2+} simultaneously in the A site of the ABO_3 structure under hydrothermal conditions
Joint 21st AIRAPT and 45th EHPRG International Conference, Catania, Italy (9.17~9.21, 2007).
 79. Z. Matamoros-Veloza, J. C. Rendón-Ángeles, K. Yanagisawa, M. A. Cisneros-Guerrero, M. M. Cisneros
Effect of solvent during the preparation of foam glass-ceramics from CRT glass by means of hydrothermal hot-pressing method
Joint 21st AIRAPT and 45th EHPRG International Conference, Catania, Italy (9.17~9.21, 2007).
 80. Y. M. Rangel-Hernández, J. C. Rendón-Ángeles, M. I. Pech-Canul, J. L'opez-Cuevas, Z. Matamoros-Veloza, K. Yanagisawa
Chemical stability of $SrSO_4$ minerals under acidic hydrothermal conditions
Joint 21st AIRAPT and 45th EHPRG International Conference, Catania, Italy (9.17~9.21, 2007).
 81. 小河脩平, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
バナジン酸アパタイト触媒による2-プロパノールの酸化反応に対する触媒活性サイトの解明

- 第 100 回触媒討論会, 北海道 (9.17~9.20, 2007).
82. 越智貴史, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
担持 Pt 触媒を用いた水溶性糖類から有機酸への高選択的転換
第 100 回触媒討論会, 3C2Q 北海道 (9.17~9.20, 2007).
83. 恩田歩武, 越智貴史, 梶芳浩二, 柳澤和道
グルコースから乳酸生成に対する水中での水和ハイドロタルサイトの触媒特性
第 100 回触媒討論会, 3J28 北海道 (9.17~9.20, 2007).
84. K. Yanagisawa, N. Li
Preparation of Yttria Particles with Controlled Morphology by Using Hydrothermal Technique
ICAM-IUMRS 2007 (The International Conference on Advanced Materials (ICAM) & the conferences of the International Union of Materials Research Societies (IUMRS)), Bangalore, India (10.8~10.13, 2007).
85. 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
Mg-Al 系ハイドロタルサイト型化合物のグルコースを乳酸に変換する触媒作用
無機マテリアル学会第 115 回学術講演会, 盛岡 (10.25~10.26, 2007).
86. 柳澤和道, 小澤隆弘, 恩田歩武, 梶芳浩二, 金澤正澄, 白石雅嗣, 高浪哲郎, 前 尚樹
過熱蒸気によるアスベストの分解
無機マテリアル学会第 115 回学術講演会, 盛岡 (10.25~10.26, 2007).
87. K. Yanagisawa, W. Zhang, T. Shou, N. Otake, S. Kamiya
Preparation of Rhodium Sulfide by Solution Techniques
7th Pacific Rim Conference on Ceramic and Glass Technology, PacRim7, Shanghai (11.11~11.14, 2007).
88. T. Kozawa, A. Onda, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa, J. Shinohara, T. Takanami, M. Shiraishi, M. Kanazawa
Low Temperature Decomposition of Chrysotile Asbestos by Freon-Decomposed Acidic Gas
International Symposium on EcoTopia Science 2007, Nagoya (11.23~11.25, 2007).
89. 當山真司, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
ソーダ石灰ガラスの水熱条件下での水との反応
第 14 回ヤングセラミストミーティング in 中四国, 岡山 (12.8, 2007).
90. 小澤隆弘, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
水蒸気雰囲気下におけるチタン酸バリウムの固相反応
第 14 回ヤングセラミストミーティング in 中四国, 岡山 (12.8, 2007).
91. N. Li, K. Yanagisawa,
Phase distribution and morphology evolution of yttrium compounds synthesized under hydrothermal conditions
第 46 回セラミックス基礎科学討論会, 名古屋 (1.10~11.2008).
92. 小澤隆弘, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
水蒸気雰囲気下によるチタン酸バリウムの固相反応とキャラクタリゼーション
日本セラミックス協会 2008 年年会, 長岡 (3.20~3.22, 2008).
93. 當山真司, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
ソーダ石灰ガラスの水熱条件下での化学的耐久性に及ぼすガラス組成の影響 - アルカリ金属の影響 -
日本セラミックス協会 2008 年年会, 長岡 (3.20~3.22, 2008).
94. 奥田和秀, 岡和幸, 恩田歩武, 梶芳浩二, 平岡雅規, 柳澤和道
2PA-132: 海藻の水熱処理とその酵素分解における処理効果
日本化学会第 88 春季年会, 東京 (3.26~3.30, 2008).
95. 小澤隆弘, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
20: 水蒸気雰囲気下によるケイ酸塩の固相反応合成
無機マテリアル学会第 116 回学術講演会, 八王子 (6.5~6.6, 2008).
96. 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
37: 水和ハイドロタルサイトの水中での塩基触媒特性
に対する Mg/Al 比の影響
無機マテリアル学会第 116 回学術講演会, 八王子 (6.5~6.6, 2008).
97. A. Onda, T. Ochi, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa
Hydrolysis of Cellulose Selectively into Glucose over Sulfonated Activated-Carbon Catalyst under Hydrothermal Conditions
ICC (International Catalytic Conference) 14 Pre-Symposium, Kyoto (7.10~7.12, 2008).
98. S. Ogo, A. Onda, K. Kajiyoshi, K. Yanagisawa
Hydrothermal Synthesis of Substituted Hydroxyapatites and Catalytic Behavior for Conversion of alcohols
ICC14 Pre-Symposium, Kyoto (7.10~7.12, 2008).
99. 柳澤和道
水熱反応による材料合成—粉末合成を中心として—
第 42 回基礎科学部会セミナー, 岡山大学 (7.29, 2008).
100. T. Kozawa, A. Onda, K. Yanagisawa
Preparation of BaTiO₃ Powders with High Tetragonality by Solid-State Reaction in Water Vapor Atmosphere
First Joint Seminar between Shaanxi University of Science & Kochi University, Kochi (8.9~8.10, 2008).
101. K. Okuda, K. Oku, A. Onda, K. Kajiyoshi, M. Hiraoka, K. Yanagisawa
Hydrothermal Fractional Pretreatment of Sea Algae and Its Enhanced Enzymatic Hydrolysis
First Joint Seminar between Shaanxi University of Science & Kochi University, Kochi (8.9~8.10, 2008).
102. J. C. Rendon-Angeles, K. Yanagisawa, Z. Matamoros-Veloza, J. L. Rodriguez-Galicia
Effect of the Solvent on the Porosity Formation during Pseudomorphic Conversion of Celestite into SrCO₃ under Hydrothermal Conditions
First Joint Seminar between Shaanxi University of Science & Kochi University, Kochi (8.9~8.10, 2008).
103. S. Ogo, A. Onda, K. Yanagisawa
Hydrothermal Synthesis of Substituted Hydroxyapatite and Catalytic Conversion of 2-Propanol
First Joint Seminar between Shaanxi University of Science & Kochi University, Kochi (8.9~8.10, 2008).
104. X. Ding, K. Yanagisawa
Synthesis and Characterization of Ni-intercalated Titanium Nanomaterials
First Joint Seminar between Shaanxi University of Science & Kochi University, Kochi (8.9~8.10, 2008).
105. A. Onda, T. Ochi, S. Kinoshita, Y. Miyao, K. Yanagisawa
Hydrothermal Catalytic Hydrolysis of Cellulose
First Joint Seminar between Shaanxi University of Science & Kochi University, Kochi (8.9~8.10, 2008).
106. S. Touyama, A. Onda, K. Yanagisawa
Hydrothermal Reactions of Soda Lime Silicate Glasses with Water—Effect of Alkali Metals in Glass—
First Joint Seminar between Shaanxi University of Science & Kochi University, Kochi (8.9~8.10, 2008).
107. M. Liu, J.F. Huang, K. Yanagisawa, Y.T. Zhang, F. Deng, L.Y. Cao, J.P. Wu
Oxidation Resistance Yttrium Silicates Coating Prepared by a Hydrothermal Electrophoretic Deposition Process for C/C Composites
First Joint Seminar between Shaanxi University of Science & Kochi University, Kochi (8.9~8.10, 2008).
108. N. N. Wang, J. F. Huang, K. Yanagisawa, L.Y. Cao
Influence of Temperature and Snti-Oxidation Property of C/C Composites Modified by a Hydrothermal Treatment Process
First Joint Seminar between Shaanxi University of Science & Kochi University, Kochi (8.9~8.10, 2008).
109. A. Onda, T. Ochi, K. Yanagisawa
Hydrothermal Catalytic Hydrolysis of Cellulose into Glucose using Solid Acids
The 1st International Solvothermal and Hydrothermal Reactions Conference, Nottingham, UK (9.8~9.10, 2008).

110. K. Yanagisawa, C. Sakata, A. Onda, J. C. Rendón-Angeles, Z. Matamoras-Veloza (Invited)
Preparation of Ca deficient hydroxyapatite ceramics by hydrothermal hot-pressing
The 1st International Solvothermal and Hydrothermal Reactions Conference, Nottingham, UK (9.8~9.10, 2008).
 111. 小河脩平, 恩田歩武, 柳澤和道
3H16: 置換ハイドロキシアパタイト触媒によるエタノールから 1-ブタノールの合成
第 102 回触媒討論会, 名古屋 (9.23~9.26, 2008).
 112. 恩田歩武, 越智貴史, 柳澤和道
1B02: 水熱条件下における固体酸触媒を用いたセルロースの加水分解反応
第 102 回触媒討論会, 名古屋 (9.23~9.26, 2008).
 113. K. Yanagisawa (Invited)
Morphology control of particles by hydrothermal reactions
30 Congreso Internacional de Metalurgia y Materiales, Saltillo, Mexico (10.22~10.24, 2008).
 114. 當山真司, 恩田歩武, 柳澤和道
ケイ酸塩ガラスの水熱反応におよぼすガラス中のアルカリ土類金属の影響
無機マテリアル学会第 117 回学術講演会, 沖縄 (11.13~11.14, 2008).
 115. 生田梨沙, 笹部衣里, 植田栄作, レンドン-アンヘレス, 柳澤和道, 山本哲也
水熱ホットプレス法により作製したアパタイト系固化体上における MC3T3-E1 骨芽細胞用細胞の接着, 増殖および分化
第 45 回日本口腔組織培養学会, 松本 (11.15, 2008).
 116. 當山真司, 恩田歩武, 柳澤和道
ケイ酸塩ガラスの水熱反応におよぼすガラス中のアルカリ金属の影響
第 15 回ヤングセラミストミーティング in 中四国, 広島 (11.29, 2008).
 117. K. Yanagisawa, D. Gushi, A. Onda, N. Li, W. Zhnag キーノート講演
Preparation of Oxide Particles with Controlled Morphology from Hydrothermally Derived Products
The 1st China International Symposium on Particles Technology, Shanghai, China (12.8~12.11, 2008).
 118. K. J. Zhu, J. H. Qui, K. Kajiyoishi, K. Yanagaisawa (Invited)
Application of Hydrothermal Synthesis in Lead-free Piezoelectric Ceramics
The 1st China International Symposium on Particles Technology, Shanghai, China (12.8~12.11, 2008).
 119. 李 楠, 柳澤和道, 熊田伸弘
水酸化イットリウムナノワイヤーの水熱合成
第 47 回セラミックス基礎科学討論会, 大阪 (1.8~1.9, 2009).
 120. 小澤隆弘, 恩田歩武, 柳澤和道
水蒸気雰囲気下でのチタン酸バリウムの固相反応—反応速度と粉体特性—
日本セラミックス協会 2009 年年会, 野田 (3.16~3.18, 2009).
 121. 奥田和秀, 恩田歩武, 梶芳浩二, 柳澤和道
水熱処理と酵素分解による三石コンブの高速糖化,
日本化学会第 89 回春季年会, 船橋, (3.27~3.30, 2009).
- 第 113 回日本地質学会, 高知 (9.16~9.18, 2006).
3. 曾山祐貴, 石塚英男
103P: 東南極ナピア岩体 Mt. Riiser-Larsen 地域に産する大隅石に包有される藍晶石+斜方輝石の共生; 時計回り *P-T-t* 経路の証拠
第 27 回極域地学シンポジウム, 東京 (10.18~10.19, 2007).
 4. H. Ishizuka
BE-P10: An overview of geological studies of JARE for the Napier Complex in Enderby Land, East Antarctica
4th International Symposium on Gondwana to Asia & 2007 IAGR Annual Convention, Fukuoka (11.8~11.10, 2007).
 5. Y. Soyama, H. Ishizuka
BE-P12: Prograde kyanite + orthopyroxene association included in osumilite from the Napier Complex, Enderby Land, East Antarctica
4th International Symposium on Gondwana to Asia & 2007 IAGR Annual Convention, Fukuoka (11.8~11.10, 2007).
 6. 石塚英男
P-145: 東南極ナピア岩体の原岩構成とその起源
日本地質学会第 115 年会, 秋田 (9.19~9.22, 2008).
 7. 曾山祐貴, 石塚英男
東南極ナピア岩体 Mt. Riiser-Larsen 地域に産する珪長質片麻岩中の大隅石の形成過程
第 28 回極域地学シンポジウム, 東京 (10.16~10.17, 2008).

<白井 朗教授>

1. 白井朗, 柴崎洋志, 菱田元
フィリピン海域の鉄・マンガン酸化物の形成環境と成長過程. 2006 年日本地質学会年会, 高知 (9.12~9.15, 2006).
2. 白井朗, 田中正浩
高知県鏡川地域における地表水から沈澱するマンガン酸化物の鉱物・化学組成
2006 年日本地質学会年会, 高知 (9.12~9.15, 2006).
3. A. Usui
Reconsideration of Fine-scale dating of Ferromanganese Crusts for More Reliable Microstratigraphic Correlation.
36th Underwater Mining, Kiel (9.24~9.25, 2006).
4. 篠原存, 白井朗, 柳澤和道, 恩田歩武
鉱物特性を利用したマンガン団塊からの有価金属の選択抽出. 資源素材学会総会, 早稲田大学 (3.30, 2007).
5. A. Usui, I. Graham, R. Ditchburn, A. Zondervan, H. Shibasaki, H. Hishida
Widespread Distribution and Long-term Continuous Precipitation of Hydrogenetic Ferromanganese Deposits in the NW Pacific Ocean.
37th Underwater Mining Institute., Univ. Tokyo, Hongo, (10.16, 2007).
6. Usui, A. et al.,
Integrated exploration of ferromanganese deposits -a case study at a seamount in the Micronesia sea area
34th Underwater Mining Institute, Oxford, USA (11.6, 2008).
7. 白井朗
「我が国大水深域のマンガン酸化物資源の分布・性状」石油天然ガス・金属資源機構成果発表会, 東京 (3.4, 2009).

<蒲生 啓司教授>

1. 蒲生啓司, 齋藤尋輝, 平田沙織
I 1007: イオン排除モードによる低分子有機酸のエレクトロスプレーイオン化液体クロマトグラフィー/質量分析法 (3)
第 66 回分析化学討論会, 北見工業大学 (5.14~5.15, 2005).
2. 蒲生啓司, 中尾千予視
I 1008: 糖類のエレクトロスプレーイオン化液体クロマトグラフィー/質量分析法

<石塚 英男教授>

1. M. Sakaguchi, S. Kiyokawa, H. Ishizuka
Hydrothermal alteration and bulk rock chemistry of basaltic rocks in the eastern flank of Juan de Fuca Ridge
IODP Expedition 301, AGU (American Geophysical Union) Fall Meeting, San Francisco, CA, U.S.A. (12.5~12.10, 2005).
2. 上妻玲馨, 石塚英男
大西洋中央海嶺ケイン・トランスフォーム断層に産する玄武岩, ハンレイ岩, 及びカンラン岩の全岩化学組成と玄武岩ガラス組成

- 第 66 回分析化学討論会, 北見工業大学 (5.14~5.15, 2005).
3. 蒲生啓司, 阿万智治, 谷口道子
E 1008: 室戸海洋深層水の微量有機成分に関する調査研究 (1)
第 66 回分析化学討論会, 北見工業大学 (5.14~5.15, 2005).
4. 平田沙織, 蒲生啓司
2P-P2-20: 柑橘類中の中鎖脂肪酸の高感度 LC/MS 分析に関する研究
第 53 回質量分析総合討論会, 大宮ソニックシティ (5.25~5.27, 2005).
5. 中尾千予視, 蒲生啓司, 和田啓男, 菱田勝巳
2P-P2-04: 単糖およびオリゴ糖の高感度配位子交換 LC/MS 分析に関する研究
第 53 回質量分析化学討論会, 大宮ソニックシティ (5.25~5.27, 2005).
6. 平田沙織, 米一陽平, 蒲生啓司
E1012: 柑橘類中の中鎖脂肪酸の高感度 LC/MS 分析に関する研究 (2)
分析化学会第 54 年会, 名古屋大学 (9.14~9.16, 2005).
7. 中尾千予視, 蒲生啓司, 和田啓男, 菱田勝巳
E1011: 単糖およびオリゴ糖の高感度配位子交換 LC/MS 分析に関する研究 (2)
日本分析化学会第 54 年会, 名古屋大学 (9.14~9.16, 2005).
8. 平田沙織, 米一陽平, 蒲生啓司
Y1075: LC/MS 法による柑橘類中の中鎖脂肪酸の高感度分析に関する研究
分析化学会第 54 年会, 名古屋大学 (9.14~9.16, 2005).
9. 中尾千予視, 蒲生啓司, 和田啓男, 菱田勝巳
Y1074: 配位子交換 LC/MS 法による単糖およびオリゴ糖の高感度分析に関する研究
日本分析化学会第 54 年会, 名古屋大学 (9.14~9.16, 2005).
10. 蒲生啓司, 阿万智治, 谷口道子
C1003: 室戸海洋深層水の微量有機成分に関する調査研究 (2)
日本分析化学会第 54 年会, 名古屋大学 (9.14~9.16, 2005).
11. 小笠原 まりこ, 阿萬 智治, 蒲生啓司, 西本 由美子
歯科材料用光重合型硬質レジンの口腔内溶出挙動について
平成 17 年度高知大学国際・地域連携センター客員教授セミナー (2.28, 2006).
12. 蒲生啓司, 中尾千予視
A1013: 糖類のエレクトロスプレイイオン化液体クロマトグラフィー/質量分析法
第 67 回分析化学討論会, 秋田大学 (5.13~5.14, 2006).
13. 蒲生啓司, 平田沙織
E1013: イオン排除モードによる低分子有機酸のエレクトロスプレイイオン化液体クロマトグラフィー/質量分析法 (3)
第 67 回分析化学討論会, 秋田大学 (5.13~5.14, 2006).
14. K. Gamoh, C. Nakao, K. Hishida, H. Wada
MoP-075: Improved Ligand Exchange Liquid Chromatography/Mass Spectrometry of Mono- and Oligosaccharides. 17th International Mass Spectrometry Conference(IMSC-17)Prague, Czech (8.27~9.1, 2006).
15. 蒲生啓司, 葛原康生
3P-29-C03: 有機酸, 中鎖脂肪酸およびフェノール酸の高速液体クロマトグラフィー/蛍光検出/質量分析法の研究
第 55 回質量分析総合討論会, 広島市国際会議場 (5.15~5.17, 2007).
16. 葛原康生, 蒲生啓司
F2012: 1-(4-Dansylaminophenyl)ethylamine を用いる有機酸, 中鎖脂肪酸およびフェノール酸の高速液体クロマトグラフィー/蛍光検出/質量分析法の研究
第 68 回分析化学討論会, 宇都宮大学 (5.19~5.20, 2007).
17. 蒲生啓司, 葛原康生
I3028: 柑橘類果皮中の有機酸・脂肪酸類の分離・定量に関する研究
日本分析化学会第 56 年会, 徳島大学 (9.19~9.21, 2007).
18. 蒲生啓司, 中尾千予視
I3027: 柑橘系ペクチンの加水分解と糖類の分離・定量に関する研究
日本分析化学会第 56 年会, 徳島大学 (9.19~9.21, 2007).
19. K. Gamoh, C. Nakao, K. Hishida, H. Wada
L29-03: Pb Type ligand exchange liquid chromatography/mass spectrometric analysis of mono- and oligosaccharides
Tenth International Symposium on Hyphenated Techniques In Chromatography and Hyphenated Chromatographic Analyzers (**HTC-10**), Bruges (Belgium) (1.30 ~ 2.1, 2008).
20. K. Gamoh, Y. Kuzuhara
Liquid chromatography/fluorometric/mass spectrometric analysis of organic acids, middle chain fatty acids and phenolic acids
Tenth International Symposium on Hyphenated Techniques In Chromatography and Hyphenated Chromatographic Analyzers (**HTC-10**), Bruges (Belgium) (1.30 ~ 2.1, 2008).
21. 蒲生啓司, 葛原康生
1P-47: 1-(4-Dansylaminophenyl)ethylamine を誘導体化試薬として用いる有機酸, 中鎖脂肪酸およびフェノール酸の液体クロマトグラフィー/蛍光検出/質量分析法の研究
第 56 回質量分析総合討論会, つくば国際会議場 (5.15~5.17, 2008).
22. 蒲生啓司
教員養成系学生の資質向上を目的とした中高大連携の複合型宿泊研修プログラム
平成 20 年度日本教育大学協会研究集会, 三重 (10.25, 2008).
23. 蒲生啓司
学生のマネージメント力向上を目的とした異年齢間の複合型宿泊研修プログラム
平成 20 年度日本教育大学協会四国地区研究集会, 松山 (12.4, 2008).

物質変換／物質創成研究部門

<小槻 日吉三教授>

1. K. Kumamoto, S. Azad, K. Uegaki, H. Kotsuki
B-76: High-Pressure-Promoted Transformation of Trichloroethyl Carbamates to Ureas
39th National Organic Chemistry Symposium, Salt Lake City (6.12~6.16, 2005).
2. K. Kumamoto, H. Kotsuki
B-77: High-Pressure-Promoted Uncatalyzed Ketalization of Ketones and Oxy-Michael/ Ketalization of Conjugated Enones
39th National Organic Chemistry Symposium, Salt Lake City (6.12~6.16, 2005).
3. 砂田淳志, 緒方臣悟, 吉川圭太, 松岡達臣, 小槻日吉三
P-9: プレファリスミンの全合成研究
第 40 回天然物化学談話会, 熱川 (7.13~7.15, 2005).
4. 隈本康司, 小槻日吉三
高圧有機反応の研究: カルボニル化合物の無触媒的アセタール化反応
第 21 回若手化学者のための化学道場, 松江 (9.9~9.10, 2005).
5. S. Azad, 上垣 薫, 隈本康司, 小槻日吉三
High-Pressure-Promoted Uncatalyzed Transformation of Troc-Carbamates to Unsymmetrical Ureas
第 21 回若手化学者のための化学道場, 松江 (9.9~9.10, 2005).
6. 小槻日吉三

- 海洋産希少生理活性天然物の短工程合成による有用医薬資源の開発
高知県テクノキャラバン, 県工業技術センター, 高知 (9.28, 2005).
7. 小槻日吉三
環境調和型反応場開拓を志向する有機合成反応の開発
岡山大学大学院自然科学研究科, 岡山大学環境理工学部 (9.30, 2005).
 8. 小槻日吉三
ものつくりの化学—環境にやさしいものを環境にやさしく作る
高知大学・秋の公開講座, 高知 (10.5, 2005).
 9. 生島英明, 石井孝証, 一戸克之, 関口裕介, 小槻日吉三
P-8: プロリン触媒不斉アルドール反応を基軸とする天然物の不斉全合成
第47回天然有機化合物討論会, 徳島 (10.7~10.9, 2005).
 10. 生島英明, 石井孝証, 小槻日吉三
1P-26: キラルピロリジン—ピリジン共役型触媒を用いた新規不斉二重マイケル付加反応
第35回複素環化学討論会, 吹田 (10.26~10.28, 2005).
 11. 奥山敦史, 石井孝証, 一戸克之, 生島英明, 小槻日吉三
2P-12: オルガノキャタリスト活用天然物の不斉合成.
(+)-Prosopphylline の合成研究
第35回複素環化学討論会, 吹田 (10.26~10.28, 2005).
 12. T. Ishii, H. Ikishima, H. Kotsuki
ORGN 1227: Organocatalytic Asymmetric Synthesis of Natural Products-3: Synthetic Study of Sphingosines
2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2005), Honolulu (12.15~12.20, 2005).
 13. H. Ikishima, Y. Sekiguchi, H. Kotsuki
ORGN 1228: Organocatalytic Asymmetric Synthesis of Natural Products-1: Synthetic Study of Hydroxylactone Compounds
2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2005), Honolulu (12.15~12.20, 2005).
 14. Y. Ichinohe, H. Ikishima, H. Kotsuki
ORGN 1229: Organocatalytic Asymmetric Synthesis of Natural Products-2: Synthetic Study of (+)-Boronolide
2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2005), Honolulu (12.15~12.20, 2005).
 15. 奥山敦史, 小槻日吉三
2L3-06: オルガノキャタリストを用いた生理活性天然物の不斉合成: (+)-プロソフィリンの不斉合成研究
日本化学会第86春季年会, 船橋 (3.27~3.30, 2006).
 16. 石井孝証, 小槻日吉三
2H5-08: キラルピロリジン—ピリジン共役型触媒を用いる不斉マイケル付加反応の開発 (1): インドリジンアルカロイドの合成研究
日本化学会第86春季年会, 船橋 (3.27~3.30, 2006).
 17. 生島英明, 石井孝証, 小槻日吉三
2H5-09: キラルピロリジン—ピリジン共役型触媒を用いる不斉マイケル付加反応の開発 (2): 新規不斉ドミノマイケル付加反応
日本化学会第86春季年会, 船橋 (3.27~3.30, 2006).
 18. 緒方臣悟, 上垣 薫, 小槻日吉三
2J1-12: 高圧有機反応の研究 (1): Lewis 塩基触媒によるケトン類のシアノシリル化反応
日本化学会第86春季年会, 船橋 (3.27~3.30, 2006).
 19. 隈本康司, 小槻日吉三
2J1-13: 高圧有機反応の研究 (2): アセタール類の無触媒的シアノ化反応
日本化学会第86春季年会, 船橋 (3.27~3.30, 2006).
 20. 小槻日吉三
高知大学: 「グリーンサイエンス特別研究プロジェクト」の紹介
国際医薬品原料・中間体展 (CPHI JAPAN 2006), 東京ビッグサイト, 東京 (4.24, 2006).
 21. 小槻日吉三
ものつくりの化学—環境にやさしいものを環境にやさしく作る
国際医薬品原料・中間体展 (CPHI JAPAN 2006), 東京ビッグサイト, 東京 (4.24, 2006).
 22. 小槻日吉三
環境調和型反応場開拓を志向する有機合成反応の開発
徳島文理大学大学院薬学研究科, 徳島文理大学薬学部 (6.9, 2006).
 23. 小槻日吉三
高知大学: 「グリーンサイエンス特別研究プロジェクト」の紹介
愛媛県商工会議所連合会・大学見学会, 高知大学 (7.4, 2006).
 24. H. Ikishima, T. Ishii, Y. Ichinohe, Y. Sekiguchi, H. Kotsuki
P-80: Proline-Catalyzed Asymmetric Aldol Reactions for the Use in Enantioselective Total Synthesis of Natural Products
International Conference on Biodiversity and Natural Products (ICOB-5 & ISCNP-25), Kyoto (7.23~7.28, 2006).
 25. A. Sunada, R. Kondo, T. Matsuoka, H. Kotsuki
P-82: A New Rapid Synthesis of Stentorin-C
International Conference on Biodiversity and Natural Products (ICOB-5 & ISCNP-25), Kyoto (7.23~7.28, 2006).
 26. A. Okuyama, H. Kotsuki
P-84: Synthetic Study of (+)-Prosopphylline Using L-Proline-catalyzed Asymmetric Aldol Reaction
International Conference on Biodiversity and Natural Products (ICOB-5 & ISCNP-25), Kyoto (7.23~7.28, 2006).
 27. 小槻日吉三
高知大学: 「グリーンサイエンス特別研究プロジェクト」の紹介
イノベーションジャパン 2006—大学見本市, 東京国際フォーラム, 東京 (9.13, 2006).
 28. 小槻日吉三
超高压反応の革新的合成技術への応用展開
イノベーションジャパン 2006—大学見本市, 東京国際フォーラム, 東京 (9.13, 2006).
 29. A. Sasaoka, Md. Imam Uddin, A. Shimomoto, M. Shiro, H. Kotsuki
PB-75: A Novel Design of Roof-shaped Anthracene-fused Chiral Prolines as Organocatalysts for Asymmetric Mannich Reactions
The 10th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-10), Kyoto (11.13~11.17, 2006).
 30. S. Azad, H. Kotsuki
PB-76: High-Pressure-Promoted Condensation of Ureas with Carbonyl Compounds
The 10th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-10), Kyoto (11.13~11.17, 2006).
 31. 生島英明, 奥山敦史, 石井孝証, 一戸克之, 小槻日吉三
10-22: プロリン触媒不斉アルドール反応を基軸とする生理活性天然物の不斉全合成
第36回複素環化学討論会, 長崎 (11.22~11.24, 2006).
 32. 笹岡愛加, Uddin Md. Imam, 下元 愛, 城 始男, 小槻日吉三
2P-73: 新規屋根型キラルアリールプロリン触媒の合成と不斉変換への適用
第36回複素環化学討論会, 長崎 (11.22~11.24, 2006).
 33. 小槻日吉三
ものつくりの化学—環境にやさしいものを環境にやさしく作る

- 日本化学会中国四国支部・出張講義, 県立山田高校, 香美市 (12.8, 2006).
34. 小槻日吉三
環境調和型有機合成反応の開発と利用
有機合成 2 月セミナー「有機合成のニュートレンド 2007」, キャンパスプラザ京都, 京都 (2.8~2.9, 2007).
 35. 小林智広, 上田忠治, 小槻日吉三
1D4-36: シリカゲル吸着ヘテロポリ酸触媒を用いる Paal-Knorr ピロール合成
日本化学会第 87 春季年会, 吹田 (3.25~3.28, 2007).
 36. Saleha Azad, 小槻日吉三
2D4-10: 高圧有機反応の研究: カルボニル化合物と尿素との Biginelli 型多成分連結縮合反応
日本化学会第 87 春季年会, 吹田 (3.25~3.28, 2007).
 37. 三本晶子, 生島英明, 小槻日吉三
2D4-45: キラルオルガノキヤタリスト活用不斉反応の開発: 高圧条件下でのフランの不斉 Diels-Alder 反応
日本化学会第 87 春季年会, 吹田 (3.25~3.28, 2007).
 38. 奥山敦史, 小槻日吉三
4H3-05: キラルオルガノキヤタリスト活用生理活性天然物の合成. (+)-Prosopphylline の不斉合成
日本化学会第 87 春季年会, 吹田 (3.25~3.28, 2007).
 39. 生島英明, 一戸克之, 小槻日吉三
4C8-10: キラルオルガノキヤタリスト活用生理活性天然物の合成. (+)-ボロノライドの不斉合成
日本化学会第 87 春季年会, 吹田 (3.25~3.28, 2007).
 40. 近藤竜二, 砂田淳志, 松岡達臣, 小槻日吉三
4H3-28: オキシブレファリスミンの合成研究
日本化学会第 87 春季年会, 吹田 (3.25~3.28, 2007).
 41. 小槻日吉三
高知大学から世界に発信するグリーンサイエンスの成果
高知市民の大学第 61 期, 高知 (4.10, 2007).
 42. 小槻日吉三
有機不斉触媒の開発と利用
国際医薬品原料・中間体展 (CPhI JAPAN 2006), 東京ビッグサイト, 東京 (4.19, 2007).
 43. A. Okuyama, H. Kotsuki
Organocatalytic Asymmetric Synthesis of (+)-Prosopphylline
International Conference on Asymmetric Organocatalysis, Otsu (5.28~5.29, 2007).
 44. A. Mimoto, K. Mori, H. Ikishima, H. Kotsuki
Organocatalytic Asymmetric Diels-Alder Reaction of Furan at High Pressure
International Conference on Asymmetric Organocatalysis, Otsu (5.28~5.29, 2007).
 45. A. Saleha, H. Kotsuki
High-Pressure-Promoted Biginelli-type Multicomponent Condensation of Ureas with Carbonyl Compounds
40th National Organic Chemistry Symposium, Durham (6.3~6.7, 2007).
 46. A. Okuyama, H. Kotsuki
Enantioselective Total Synthesis of (+)-Prosopphylline Using Proline-Catalyzed Asymmetric Aldol Reactions
40th National Organic Chemistry Symposium, Durham (6.3~6.7, 2007).
 47. 小槻日吉三
超高圧反応を基軸とする高効率官能基変換反応の開発
文科省科研費特定領域研究, 第三回公開シンポジウム, 札幌 (6.18~6.19, 2007).
 48. T. Kobayashi, T. Ueda, H. Kotsuki
Heteropoly Acid Adsorbed on Silica Gel Catalyzed Paal-Knorr Pyrrole Synthesis under Solvent-free The 21st International Congress of Heterocyclic Chemistry (ICHC-21), Sydney (7.15~7.20, 2007).
 49. A. Mimoto, H. Ikishima, H. Kotsuki
Organocatalytic Asymmetric Diels-Alder Reaction of Furan under High-Pressure Conditions
The 21st International Congress of Heterocyclic Chemistry (ICHC-21), Sydney (7.15~7.20, 2007).
 50. H. Ikishima, A. Okuyama, T. Ishii, Y. Ichinohe, H. Kotsuki
Proline-catalyzed Asymmetric Aldol Reactions. Enantioselective Total Synthesis of Biologically Active The 21st International Congress of Heterocyclic Chemistry (ICHC-21), Sydney (7.15~7.20, 2007).
 51. R. Kondo, A. Sunada, T. Matsuoka, H. Kotsuki
Synthetic Study of Photodynamic Perylenequinone Natural Pigments
12th International Symposium on Novel Aromatic Compounds (ISNA-12), Awaji Island (7.22~7.27, 2007).
 52. 小槻日吉三
環境調和型有機合成反応の開発と利用
岡山大学大学院自然科学研究科特別講演 (9.11, 2007).
 53. 小松巧征, 奥山敦史, 小槻日吉三
キラルオルガノキヤタリスト活用生理活性天然物の合成: Pachastrissamine の不斉合成
第 24 回有機合成化学セミナー, 淡路島 (9.12~9.14, 2007).
 54. 生島英明, 中村睦美, 一戸克之, 小槻日吉三
キラルオルガノキヤタリスト活用生理活性天然物の合成: (-)-Boronolide の不斉合成
第 24 回有機合成化学セミナー, 淡路島 (9.12~9.14, 2007).
 55. H. Kotsuki
Recent Advances in Asymmetric Organocatalysis
Laboratoire de Chimie Moléculaire et Thio-Organique (LCMT), CNRS, Caen (9.21, 2007).
 56. H. Kotsuki
Developments of New Synthetic Reactions at High Pressure
IRCOF/Universite de Rouen, Rouen (9.27, 2007).
 57. 小槻日吉三
有機不斉触媒の開発と利用
第 49 回有機化学研究会 (白鷺セミナー) 講演会, 大阪府立大学 (10.24, 2007).
 58. 小槻日吉三
有機不斉触媒反応の開発と応用
有機合成化学協会第 61 回パネル討論会, 松山 (1.11, 2008).
 59. 小槻日吉三
環境調和型合成技術の確立による有用医薬資源の開発
地域発 技術シーズ発表会, 大阪 (2.1, 2008).
 60. 近藤竜二, 砂田淳志, 松岡達臣, 城 始勇, 小槻日吉三
ペリレンキノン系色素の合成研究
日本化学会第 88 回春季年会, 東京 (3.26~3.30, 2008).
 61. 小松巧征, 小槻日吉三
プロリン触媒不斉アルドール反応を用いる Pachastrissamine (Jaspine B) の合成
日本化学会第 88 回春季年会, 東京 (3.26~3.30, 2008).
 62. 守香緒里, 小槻日吉三, J. Maddaluno
高圧有機反応の研究: チオ尿素系有機触媒を用いたケトン類のヘテロ Diels-Alder 反応
日本化学会第 88 回春季年会, 東京 (3.26~3.30, 2008).
 63. Uddin Md. Imam, 小槻日吉三
高圧有機反応の研究: 水中での含窒素複素環化合物の a,b-不飽和エノンへの共役付加反応
日本化学会第 88 回春季年会, 東京 (3.26~3.30, 2008).
 64. S. Azad, 小槻日吉三
高圧有機反応の研究: 芳香族尿素化合物の Pictet-Spengler 縮合反応
日本化学会第 88 回春季年会, 東京 (3.26~3.30, 2008).
 65. 奥山敦史, 上田忠治, 小槻日吉三
シリカゲル吸着ヘテロポリ酸を用いる新規アリル転写反応の開発
日本化学会第 88 回春季年会, 東京 (3.26~3.30, 2008).
 66. 高 京民, 小槻日吉三
DMAP 関連有機触媒を用いる水中での Michael 付加反応の開発

- 日本化学会第 88 回春季年会, 東京 (3.26~3.30, 2008).
67. M. Nakamura, H. Ikishima, H. Kotsuki
PN-16: Enantioselective Total Synthesis of (+)-Boronolide Using Proline-catalyzed Asymmetric Aldol Reaction
 17th International Conference on Organic Synthesis (ICOS-17), Daejeon (6.22~6.27, 2008).
68. Y. Komatsu, H. Kotsuki
PN-17: Enantioselective Total Synthesis of Pachastrissamine Using Proline-catalyzed Asymmetric Aldol Reaction
 17th International Conference on Organic Synthesis (ICOS-17), Daejeon (6.22~6.27, 2008).
69. K. Mori, J. Maddaluno, H. Kotsuki
PR-35: High-Pressure Organic Chemistry. Thiourea-catalyzed Hetero Diels-Alder Reaction of Ketones
 17th International Conference on Organic Synthesis (ICOS-17), Daejeon (6.22~6.27, 2008).
70. K. Ko, H. Kotsuki
PR-248: Development of New DMAP-related Organocatalysts for the Use in Michael Addition Reactions in Water
 17th International Conference on Organic Synthesis (ICOS-17), Daejeon (6.22~6.27, 2008).
71. Y. Inokoishi, H. Kotsuki
PR-250: Chiral Diamine-Catalyzed Enantioselective Robinson Annulation
 17th International Conference on Organic Synthesis (ICOS-17), Daejeon (6.22~6.27, 2008).
72. H. Kotsuki
 Proline-catalyzed Asymmetric Aldol Reactions: Enantioselective Total Synthesis of Biologically Active Natural Products
 Department of Chemistry, Hallym University (6.27, 2008).
73. 小槻日吉三
 環境にやさしいものを環境にやさしく作る
 日本アクアスペース第 5 回プロジェクト企画委員会講演会 (高知県東京事務所) (7.4, 2008).
74. 小槻日吉三
 超高压/多成分連結反応を基軸とする多官能性化合物の効率的合成
 2008 旭硝子財団助成研究発表会 (ホテルグランドヒル市ヶ谷) (7.15, 2008).
75. S. Azad, H. Kotsuki
P-02: High-Pressure Organic Chemistry. Pictet-Spengler-Type Condensation of Aromatic Ureas
 第 24 回若手化学者のための化学道場 (徳島 2008), 徳島 (9.11~9.12, 2008).
76. Imam, Md. U.; Mimoto, A.; Kotsuki, H.
P-10: Conjugate Addition Reactions of *N*-Heterocycles to α,β -Unsaturated Enones and Activated Cyclopropane Derivatives under Extreme Conditions
 第 24 回若手化学者のための化学道場 (徳島 2008), 徳島 (9.11~9.12, 2008).
77. 山下恵祐, 奥山敦史, 小槻日吉三
P-53: シリカゲル吸着ヘテロポリ酸を用いたアリル転写反応
 第 24 回若手化学者のための化学道場 (徳島 2008), 徳島 (9.11~9.12, 2008).
78. H. Kotsuki
 Developments of New Synthetic Reactions at High Pressure
 Department of Chemistry, Universite Joseph Fourier, Grenoble (9.22, 2008).
79. H. Kotsuki
 Proline-catalyzed Asymmetric Aldol Reactions: Enantioselective Total Synthesis of Biologically Active Natural Products
 IRCOF/Universite de Rouen, Rouen (9.26, 2008).
80. 小槻日吉三, 小松巧征, 中村睦美
P-24: プロリン触媒不斉アルドール反応を基軸とする生理活性天然物の不斉全合成
 第 50 回天然有機化合物討論会, 福岡 (9.30~10.2, 2008).
81. S. Azad, 小林智広, 城 始勇, 小槻日吉三
10-17: 超高压縮合反応を基軸とする尿素類の Biginelli 型縮合と尿素/アミド類のアザ Michael 付加反応
 第 38 回複素環化学討論会, 福山 (11.21~11.23, 2008).
82. 高 京民, 小槻日吉三
2P-37: DMAP 関連有機触媒を用いる水中での Michael 付加反応の開発
 第 38 回複素環化学討論会, 福山 (11.21~11.23, 2008).
83. Md. I. Uddin, 三本晶子, 小槻日吉三
2P-87: マイクロ波照射下での $\text{Ln}(\text{OTf})_3$ 触媒による活性化シクロプロパン誘導体への *N*-ヘテロ芳香環のホモ共役付加反応
 第 38 回複素環化学討論会, 福山 (11.21~11.23, 2008).
84. 猪子石洋吾, 小槻日吉三
2P-96: キラルジアミン系有機触媒を活用した不斉ロビンソン環化の研究
 第 38 回複素環化学討論会, 福山 (11.21~11.23, 2008).
85. 奥山敦史, 山下恵祐, 上田忠治, 小槻日吉三
2P-98: シリカゲル吸着ヘテロポリ酸を用いたアリル転写反応
 第 38 回複素環化学討論会, 福山 (11.21~11.23, 2008).
86. 守香緒里, 小槻日吉三
2P-99: 高压有機反応の研究: チオ尿素系触媒を活用するケトン類のヘテロ Diels-Alder 反応
 第 38 回複素環化学討論会, 福山 (11.21~11.23, 2008).
87. 三本晶子, 中村睦美, 小槻日吉三
1G4-14: 有機触媒/高压条件を用いるフラン類の Friedel-Crafts 型アルキル化
 日本化学会第 89 春季年会, 船橋 (3.27~3.30, 2009).
88. 守香緒里, J. Maddaluno, 小槻日吉三
1G4-35: 高压有機反応の研究: チオ尿素系触媒を活用するケトン類のヘテロ Diels-Alder 反応
 日本化学会第 89 春季年会, 船橋 (3.27~3.30, 2009).
89. 小松巧征, 生島英明, 小槻日吉三
1G1-06: 新規アミノヒドロキシアセトン等価体の開発と不斉アルドール反応への適用
 日本化学会第 89 春季年会, 船橋 (3.27~3.30, 2009).
90. 高 京民, 小槻日吉三
1G1-46: DMAP 関連有機触媒を用いる水中でのアミノ化反応の開発
 日本化学会第 89 春季年会, 船橋 (3.27~3.30, 2009).
91. 猪子石洋吾, 小槻日吉三
1G1-45: キラルジアミン系有機触媒を活用した不斉ロビンソン環化の研究
 日本化学会第 89 春季年会, 船橋 (3.27~3.30, 2009).
92. Azad, S.; 小槻日吉三
4G3-13: High Pressure Organic Chemistry. Aza-Michael Addition Reaction of Amide and Urea Substrates
 日本化学会第 89 春季年会, 船橋 (3.27~3.30, 2009).

<市川 善康教授>

- 宮内智子, 市川善康
 スクレオシド系抗生物質の合成研究
 第 40 回天然物化学談話会, 熱川 (7.13~7.15, 2005).
- 小原史代, 市川善康
 糖タンパク類縁体の合成研究
 第 40 回天然物化学談話会, 熱川 (7.13~7.15, 2005).
- 市川善康
 ウレアグリコシドの新展開
 グライコサイエンスのフロンティア, 日本化学会中国支部, 香川地区化学講演会, 香川大学研究交流棟 5 階 (8.23, 2005).
- 市川善康
 ウレアグリコシド結合をもつ天然物の合成研究
 学術講演, 大塚製薬 (株) 第 8 研究所 3 階会議室 (9.20, 2005).
- 山岡具倫, 市川善康, 松川洋平, 磯部稔

- 転位反応を活用したアゲラスタチン A とコナゲニンの合成研究
第 47 回天然有機化合物討論会, 徳島 (10.7~10.9, 2005).
6. 江川晴香, 市川善康
シグマトロピー反応を用いた 2,3-ジアミノブタン酸の合成研究
日本化学会西日本大会, 山口大学工学部 (10.22~10.23, 2005).
 7. 市川善康
シグマトロピー反応をもちいた生体機能分子の実用的合成, ポスター発表
特定領域研究「生体機能分子の創製」第一回公開シンポジウム, 京都薬科大学愛学館 (11.26, 2005).
 8. 江川晴香, 市川善康
3L3-49: [3.3]-シグマトロピー転位反応を用いた 2,3-ジアミノブタン酸の合成研究
日本化学会, 第 86 春季年会, 千葉船橋 (3.27~3.30, 2006).
 9. 山岡具倫, 市川善康
3L3-50: 海洋天然物 アゲラスタチン A の合成研究
日本化学会第 86 春季年会, 千葉船橋 (3.27~3.30, 2006).
 10. 小原史代, 市川善康
4L2-17: 人口糖ペプチドの合成研究
日本化学会第 86 春季年会, 千葉船橋 (3.27~3.30, 2006).
 11. 楠本善史, 原加那子, 市川善康
4L2-16: アミノ糖系抗生物質の合成研究
日本化学会第 86 春季年会, 千葉船橋 (3.27~3.30, 2006).
 12. Y. Ichikawa, H. Egawa, Y. Matsukawa, T. Ito, M. Isobe
P-5: Allyl Cyanate-to-isocyanate Rearrangement in Natural Product Synthesis
International Conference on Biodiversity and Natural Products (ICOB-5 & ISCNP-25), Kyoto (7.23 ~ 7.28, 2006).
 13. T. Yamaoka, Y. Ichikawa
P-413: Synthetic Studies of Agelastatin A
International Conference on Biodiversity and Natural Products (ICOB-5 & ISCNP-25), Kyoto (7.23 ~ 7.28, 2006).
 14. S. Miyauchi, Y. Ichikawa, K. Nakano
P-425: Synthetic Study of the Nucleoside Antibiotic Polyoxin J
International Conference on Biodiversity and Natural Products (ICOB-5 & ISCNP-25), Kyoto (7.23 ~ 7.28, 2006).
 15. 小原史代, 田村真理, 市川善康, 松川洋平, 磯部稔
P-38: ウレアグリコシド結合をもつ人工ペプチド・オリゴ糖の合成研究
第 48 回天然有機化合物討論会, 仙台 (10.11~10.13, 2006).
 16. 松永健志, 市川善康
4H3-03: 海洋天然物 Pachastrissamine (Jaspine B) の合成研究
日本化学会第 87 春季年会, 関西大学千里山キャンパス, 大阪 (3.25~3.28, 2007).
 17. 渡邊 瞳, 小原史代, 富田ゆみ子, 市川善康
4H3-04: グリコシルイソシアナートを用いた糖-アミノ酸複合体の合成研究
日本化学会第 87 春季年会, 関西大学千里山キャンパス, 大阪 (3.25~3.28, 2007).
 18. 楠本善史, 原加那子, 市川善康
2H4-09: アミノ糖系抗生物質の合成研究
日本化学会第 87 春季年会, 関西大学千里山キャンパス, 大阪 (3.25~3.28, 2007).
 19. 山岡具倫, 市川善康
2H4-10: 海洋天然物 アゲラスタチン A の全合成研究
日本化学会第 87 春季年会, 関西大学千里山キャンパス, 大阪 (3.25~3.28, 2007).
 20. 市川善康
「医薬品・農薬をつくるには」
第 61 期高知市民の大学 (4.24, 2007).
 21. Y. Ichikawa, T. Yamaoka
P-94: Synthesis of Marine Alkaloid (-)-Agelastatin A Using Enantioselective Addition of Diethylzinc and Ring Closing Metathesis
14th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 14), Nara (8.2~8.6, 2007).
 22. 松永健志, 市川善康
海洋天然物 Pachastrissamine の合成研究
第 24 回有機合成セミナー, 兵庫県淡路島 (9.12~9.14, 2007).
 23. 楠本善史, 奥村健, 原加那子, 市川善康, 西山泰平, 磯部稔
P-56: アミノ糖系抗生物質の合成研究
第 49 回天然有機化合物討論会, 札幌 (9.19~9.21, 2007).
 24. 松永健志, 市川善康
P-14: 海洋天然物 Pachastrissamine の合成研究
第 24 回有機合成化学セミナー, 淡路夢舞台国際会議場 (9.12~9.14, 2007).
 25. 草葉昌平, 市川 善康
3J5-44: 無保護糖を用いたウレアグリコシドの合成研究, 日本化学会第 89 春季年会, 千葉船橋, 東京 (3.27~3.30, 2009).
 26. 崎山直人, 市川 善康
2J5-45: マンノスタチン A の合成研究
日本化学会第 89 春季年会, 千葉船橋, 東京 (3.27~3.30, 2009).
 27. 奥村 健, 市川 善康
2J5-44: マンザンジン類の合成研究
日本化学会第 89 春季年会, 千葉船橋, 東京 (3.27~3.30, 2009).
 28. 山本 俊一, 市川 善康
2F2-50: イリジウム触媒を用いた新規 1,2-アミノアルコール合成法の開発
日本化学会第 89 春季年会, 千葉船橋, 東京 (3.27~3.30, 2009).
 29. 渡邊瞳, 中野啓二, 市川善康
3J5-45: イソニトリルのアノマー効果に関する研究
日本化学会第 89 春季年会, 千葉船橋, 東京 (3.27~3.30, 2009).
- ### <上田 忠治准教授>
1. 北條正司, 上田忠治, 井上知徳
H1018: 非水溶媒中におけるトロポロンおよびヒノキチオールとアルカリ金属イオンの相互作用
第 66 回分析化学討論会, 北見工業大学 (5.14~5.15, 2005).
 2. 加藤諒祐, 北條正司, 上田忠治
H1016: 化学反応性と水の水素結合構造に関する研究
第 66 回分析化学討論会, 北見工業大学 (5.14~5.15, 2005).
 3. 上田忠治, 上杉拓郎, 岡崎義弘, 濱村優祐, 北條正司
P23: 金属置換三元ポリオキシメタレート錯体の電気化学的酸化還元挙動
第 11 回中国四国支部分析化学若手セミナー, 国立山口徳地少年自然の家 (8.19~8.20, 2005).
 4. 上田忠治, 中村友香, 稲妻直子, 望月春菜, 森岡咲子, 北條正司
I3008: バナジウム錯体の酸化還元挙動と疑似インシュリン効果との関連性
日本分析化学会第 54 年会, 名古屋大学 (9.14~9.16, 2005).
 5. 上田忠治
1I10: ポリオキシメタレート錯体の分析化学的応用に関する研究
2005 年日本化学会西日本大会, 山口大学工学部 (10.22~10.23, 2005).

6. 北條正司, 上田忠治, 井上知徳, 池理孝
O-304: 非水溶媒中における塩基共存下のトロポロン類とアルカリ金属イオンの相互作用
第 28 回溶液化学シンポジウム, 同志社大学 (11.17~11.19, 2005).
7. 上田忠治, 岡崎義弘, 上杉拓郎, 濱村優祐, 北條正司
P1: 金属置換三元ポリオキシメタレート錯体のボルタンメトリー
第 51 回ポーログラフ討論会, 中央大学理工学部 (11.26~11.27, 2005).
8. T. Ueda, M. Hojo
INOR 1468: Formation of Keggin-type V(V)-substituted polyoxometalates in mixed media
2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2005), Hawaii Honolulu (12.15~12.20, 2005).
9. M. Hojo, T. Ueda, R. Kato, A. Narutaki
ANYL 828: Chemical Reactivity of Solutes and Solvent Structure through Hydrogen Bonding
2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2005), Hawaii Honolulu (12.15~12.20, 2005).
10. 上田忠治, 米村俊昭, 福留賢彦, 北條正司
IF212: 新規モリブド有機リン酸錯体の合成
日本化学会第 86 春季年会, 日本大学理工学部 (3.27~3.30, 2006).
11. 森佑子, 今井正樹, 上田忠治, 北條正司
P-19: Dawson 型ポリオキシメタレート錯体の W(VI)および Mo(VI)置換反応
第 12 回日本分析化学会中国四国支部若手セミナー, 徳島 (8.18~19, 2006).
12. 今井正樹, 上田忠治, 北條正司
P-20: モリブドピロリン酸錯体とタングステン酸イオンとの置換反応
第 12 回日本分析化学会中国四国支部若手セミナー, 徳島 (8.18~8.19, 2006).
13. 重松義武, 今井正樹, 上田忠治, 北條正司
P-21: 新規有機リン酸含有ポリオキシメタレート錯体の合成研究
第 12 回日本分析化学会中国四国支部若手セミナー, 徳島 (8.18~8.19, 2006).
14. M. Hojo, T. Ueda, C. Daike, F. Takezaki, Y. Furuya, K. Miyamoto, A. Narutaki, R. Kato,
S8-P28: A Great Enhancement in the Oxidation Ability of Diluted Nitric Acid in the Nanoscale Water-Droplets of Reverse Micelle Systems
57th Annual Meeting of the International Society of Electrochemistry, Edinburgh (8.27~9.1, 2006).
15. 上田忠治, 稲妻直子, 北條正司
P3075: 金属サレン錯体の電気化学的酸化還元挙動
日本分析化学会第 55 年会, 大阪 (9.20~9.22, 2006).
16. T. Ueda, T. Yonemura, Y. Shigematsu, M. Imai, M. Hojo
P-24: Syntheses of Molybdo-organophosphates with Inverted-Keggin Structure
2006 Workshop on Organometallic Chemistry, Kyoto (12.1~12.2, 2006).
17. 今井正樹, 上田忠治, 北條正司
IPB-012: 金属置換モリブドピロリン酸錯体の合成
日本化学会第 87 春季年会, 大阪 (3.25~3.28, 2007).
18. 上田忠治, 森佑子, 今井正樹, 北條正司
IR3-08: V(V)置換三元ポリオキシメタレート錯体の生成反応に及ぼす有機溶媒および塩効果
日本化学会第 87 春季年会, 大阪 (3.25~3.28, 2007).
19. J. Nambu, T. Ueda, S. Guo, J. F. Boas, J. R. Pilbrow, A. M. Bond
Voltammetric Behavior of V(V)-substituted Keggin-type Polyoxometalates
第 53 回ポーログラフおよび電気分析化学討論会, 神戸大学理学部 (11.24~11.25, 2007).
20. T. Ueda, S. Guo, A. M. Bond, H. Yasuzawa, N. Inazuma, M. Hojo
Voltammetric Behavior of Iron Complexes with Salen-ligands
第 53 回ポーログラフおよび電気分析化学討論会, 神戸大学理学部 (11.24~11.25, 2007).
21. 南部順一, 上田忠治, Si-xuan Guo, Alan M. Bond
Keggin 型 V(V)置換三元ポリオキシメタレート錯体の電気化学的酸化還元挙動
第 14 回中国四国支部分析化学若手セミナー, 高知 (7.26~7.27, 2008).
22. 上田忠治, 安澤青起, 稲妻直子, 北條正司
鉄サレン錯体のボルタンメトリー (2) 置換基の効果
日本分析化学会第 57 年会, 福岡大学 (9.10~9.12, 2008).
23. 南部順一, 上田忠治, Si-xuan Guo, Alan M. Bond
V(V)置換三元ヘテロポリ硫酸錯体の電気化学的酸化還元反応の解析
日本分析化学会第 57 年会, 福岡大学 (9.10~9.12, 2008).
24. T. Ueda, H. Yasuzawa, N. Inazuma, A. Ondab, S.-X. Guo, A. M. Bond, M. Hojo
Catalytic Behavior of Electrogenated Iron(I) Complexes with Salen-ligands
7th Spring Meeting of the International Society of Electrochemistry, Szczyrk, Poland (3.22~3.25, 2009).
25. J. Nambu, T. Ueda, S.-X. Guo, G. Bernardini, J. F. Boas, J. R. Pilbrow, A. M. Bond
Electrochemical Study of Vanadium (V)-substituted Polyoxometalates
7th Spring Meeting of the International Society of Electrochemistry, Szczyrk, Poland (3.22~3.25, 2009).

機能開拓／機能評価研究部門

<宇高 恵子教授>

1. K. Udaka
Raft-associated presentation of MHC class II molecules guides thymocytes to the CD4 lineage KTCC :Workshop of Kyoto T Cell Conference 2005, Kyoto (4.8~4.10, 2005).
2. 宇高恵子
胸腺細胞のヘルパーT 細胞への分化には MHC クラス II 分子の脂質装飾が重要
第 5 回日本蛋白質科学会年会, 福岡 (6.30~7.2, 2005).
3. 飯山達雄, 執印太郎, 宇高恵子, 竹内保, 大舘祐治, 杉山治夫
WT1 抗原を標的とした泌尿器科癌に対するペプチドワクチン療法の第 I/II 相臨床試験
第 77 回日本泌尿器科学会四国地方会, 松山 (7.9, 2005).
4. 飯山達雄, 宇高恵子, 竹内保, 大舘祐治, 杉山治夫, 執印太郎
WT1 抗原を標的とした泌尿器科癌に対するペプチドワクチン療法の第 I/II 相臨床試験
第 70 回日本泌尿器科学会東部総会, 花巻 (9.28~9.30, 2005).
5. 宇高恵子
MHC 結合性ペプチド予想プログラムの開発と臨床応用
日本細菌学会中国四国支部総会, 高知 (10.6, 2005).
6. 飯山達雄, 宇高恵子, 竹内保, 大舘祐治, 杉山治夫, 執印太郎
WT1 抗原を標的とした泌尿器科癌に対するペプチドワクチン療法の第 I/II 相臨床試験
第 57 回日本泌尿器科学会西日本総会, 岡山 (11.17~11.19, 2005).
7. T. Iiyama, K. Udaka, T. Takeuchi, Y. Ohtsuki, H. Nakajima, Y. Oka, A. Tsuboi, Y. Oji, H. Sugiyama, T. Shuin
A Phase I/II Randomized Trial of WT1-Peptide Based Immunotherapy in HLA-A*2402 Patients including Urological Cancers
SUO 6th Annual Meeting, Maryland (12.2~12.3, 2005).
8. 宇高恵子

- T 細胞による自己, 非自己リガンドの見分け
2005 年度第 2 回バイオナノ研究会, 東京 (2.24, 2006).
9. S. Komaniwa, K. Uda
Raft associated presentation of MHC class II molecule guides thymocytes to the CD4 lineage
The 9th Membrane Research Forum, Kyoto (3.15~3.17, 2006).
10. 宇高恵子
情報解析技術を活用した標的免疫治療
大阪大学蛋白質研究所セミナー, 大阪 (3.22~3.23, 2006).
11. 宇高恵子
C 型肝炎に対するペプチド免疫治療の開発
第 4 回肝臓病研究会シンポジウム, 東京 (7.22, 2006).
12. T. Mashiba, K. Uda, Y. Hiasa, Y. Hirachi, Y. Satta, T. Osoda, S. Kataoka, M. Kohara, M. Onji
Identification of novel CTL epitopes in hepatitis C virus by a genome-wide computational scanning and a rational design of peptide vaccine.
The Liver Meeting 2006 AASLD, Boston (10.26~10.31, 2006).
13. K. Uda, T. Mashiba, T. Miyakawa, T. Osada
Computational prediction of T cell epitope peptides for designing hepatitis C virus vaccine.
FABS & BSJ 2006, Ginowan (11.12~11.16, 2006).
14. 野口安史, 小松利広, 駒庭学志, 弘井 誠, 金 哲, 宇高恵子
CD4 T 細胞の腫瘍内浸潤にかかわる MHC class II 分子発現細胞の解析
第 36 回日本免疫学会総会, 大阪 (12.11~12.13, 2006).
15. T. Mashiba, K. Uda, T. Miyakawa, Y. Satta, S. Kataoka, M. Kohara, M. Onji
Identification of novel CTL epitopes in hepatitis C virus by genome-wide computational scanning and a rational design of peptide vaccine.
第 36 回日本免疫学会総会, 大阪 (12.11~12.13, 2006).
16. T. Iiyama, K. Uda, H. Tsuboi, Y. Oka, S. Nishida, Y. Oji, H. Sugiyama
WT1-Peptide Based Immunotherapy in HLA-A*2402 Patients with Urological Carcinomas.
第 36 回日本免疫学会総会, 大阪 (12.11~12.13, 2006).
17. 矢野有紗, 小松利広, 宇高恵子
抗腫瘍ペプチド免疫療法における百日咳ワクチンの CTL 誘導活性
第 37 回日本免疫学会総会, 東京 (11.20~11.22, 2007).
18. KATAOKA Sayo, YANO Arisa, MASHIBA Toshie, ONJI Morikazu, KOHARA Michinori, UDAKA Keiko
A mouse model of peptide immunotherapy for hepatitis C Virus
第 37 回日本免疫学会総会, 東京 (11.20~11.22, 2007).
19. 宇高恵子, 平地泰子, 片岡佐登
Designing T cell epitope peptides that bind promiscuously to several HLA class I molecules
日本生物物理学会第 45 回年会, 横浜 (12.21~12.23, 2007).
20. 宇高恵子
HLA クラス I 結合性ペプチドの計算予測を活用した、がんの免疫療法の開発
シンポジウム「理論解析と実験から見出される生物物理学」
日本生物物理学会第 46 回年会, 福岡 (12.3 ~ 12.5, 2008).
2. K. Honke, Y. Zhang, N. Taniguchi
Biological functions of sulfoglycolipids revealed by gene disruption of cerebroside sulfotransferase
XVIII International Symposium on Glycoconjugates, Florence, Italy (9.4~9.9, 2005).
3. K. Honke
Physiological functions of sulfated glycolipids and pathophysiology of their deficiency
Minisymposium on "Chance and Necessity of Carbohydrate Recognition", 78th Annual Meeting of Japan Biochemistry Society, Kobe (10.19~10.22, 2005).
4. K. Honke
Biological roles of sulfoglycolipids in myelin formation and spermatogenesis
Pacificchem 2005, Hawaii, U.S.A. (12.15~12.20, 2005).
5. K. Akahori, T. Yamashita, H. Kuge, K. Honke
Production of monoclonal antibodies against the lipid raft fraction recovered from PC12 cells expressing Masculin.
20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, Kyoto (6.18~6.23, 2006).
6. K. Yano, H. Kuge, K. Honke
N-glycosylation of Masculin expressed in PC12 cells.
20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, Kyoto, 2006. (6.18~6.23, 2006).
7. X. Wang, J. Gu, E. Miyoshi, K. Honke, N. Taniguchi
Core fucosylation regulates EGF receptor-mediated intracellular signaling.
20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, Kyoto (6.18~6.23, 2006).
8. T. Watanabe, H. Ihara, E. Miyoshi, K. Honke, N. Taniguchi, T. Taguchi
A specific detection of GlcNAc1-6Manal branches in N-linked glycoproteins based on the specificity of N-acetylglucosaminyltransferase VI.
20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, Kyoto (6.18~6.23, 2006).
9. K. Tadano-Aritomi, H. Hisaki, C. Suzuki, N. Iida-Tanaka, K. Honke, K. Nishizawa, I. Ishizuka
Over-expression of sulfoglycolipids confers resistance against hyper- and hypotonic stresses to MDCK cells.
20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, Kyoto (6.18~6.23, 2006).
10. K. Yamamoto, S. Higashi, M. Kioji, J. Tsunozumi, K. Honke, K. Miyazaki
Binding of active matrilysin to cell surface cholesterol sulfate is essential for its membrane-associated proteolytic action and induction of homotypic cell adhesion.
20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology, Kyoto (6.18~6.23, 2006).
11. K. Honke, N. Ikeda
Control of cancer metastasis by remodeling of carbohydrate chains.
5th International Symposium on Glycosyltransferases, Tsukuba (6.25~6.28, 2006).
12. 本家孝一
硫酸化糖脂質の生物機能
第12回長崎大学バイオフィオーラム, 長崎 (9.8, 2006).
13. 本家孝一
硫酸化糖脂質の生物機能
日本薬学会, 生体機能と創薬シンポジウム2006, 福岡 (9.8~9.9, 2006).
14. K. Honke
Control of cancer metastasis by remodeling of cell surface carbohydrate chains.
NIH Workshop, "Frontiers in Glycomics: Bioinformatics and Biomarkers in Disease", Bethesda, USA (9.11~9.13, 2006).
15. Y. Hirahara, R. Bansal, K. Ikenaka, Y. Wada, K. Honke
Oligodendrocyte development in cerebroside sulfotransferase-null mice: A role for the sulfoglycolipid, sulfatide in oligodendrocytes and CNS myelin.

<本家 孝一教授>

1. K. Honke
Expression of Gal3ST-2 suppresses metastatic properties of human lung cancer cells
2nd Netherlands-Japan Workshop on Recent Advances in Glycobiology, Utrecht, The Netherlands (4.17 ~ 4.21, 2005).

Glycobiology and Sphingobiology 2007, Tokushima (2.27 ~3.1, 2007).

16. K. Honke, N. Kotani, N. Taniguchi
The EMARS reaction: A novel method to identify cis-interaction of cell surface molecules in living cells.
27th Sapporo Cancer Seminar, Sapporo (7.11 ~ 7.13, 2007).
17. N. Kotani, J. Gu, T. Isaji, N. Taniguchi, K. Honke
Biochemical visualization of cis-interactions between cell surface molecules in living cells.
XIX International Symposium on Glycoconjugates. Cairns, Australia (7.15~7.20, 2007).
18. 小谷典弘, 顧建国, 伊佐治知弥, 宇高恵子, 谷口直之, 本家孝一
細胞膜上分子間相互作用用生化学的可視化法の開発
第27回日本糖質学会年会, 福岡 (8.1~8.3, 2007).
19. 本家孝一
硫酸化糖脂質の生物機能
BMB2007 (第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会合同大会) ワークショップ, 横浜 (12.11 ~12.15, 2007).
20. 小谷典弘, 顧建国, 伊佐治知弥, 宇高恵子, 谷口直之, 本家孝一
新規細胞膜上分子間相互作用解析法による分子間相互作用の生化学的可視化
BMB2007 (第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会合同大会), 横浜 (12.11~12.15, 2007).
21. 本家孝一:
生きている細胞の細胞表面で会合している分子をみつめる
理研ケミカルバイオロジーセミナー, 和光 (5.23, 2008).
22. 本家孝一
生細胞上で細胞表面分子間相互作用を同定する新規方法
第7回国際バイオフィォーラム, 東京 (7.2, 2008).
23. K. Honke
A simple method to analyze cell surface molecular clustering in living cells
2008 SJTU-RIKEN Workshop, Shanghai, China (11.7, 2008).
24. 本家孝一, 小谷典弘
細胞膜上で会合する分子の解析と分子細胞生物学への応用
BMB2008 (第31回日本分子生物学会年会, 第81回日本生化学会大会合同大会) シンポジウム, 神戸 (12.9 ~12.11, 2008).
25. 高橋忠伸, 村上宏起, 本家孝一, 小倉潔, 田井直, 川崎一則, 左一八, 郭潮潭, 鈴木康夫, 鈴木隆
硫酸化糖脂質スルファチドはインフルエンザウイルスの増殖を促進する
BMB2008 (第31回日本分子生物学会年会, 第81回日本生化学会大会合同大会), 神戸 (12.9~12.11, 2008).
26. 小谷典弘, 石浦嘉人, 山本晴美, 小堤保則, 本家孝一
EB ウイルス陽性 B 細胞リンパ腫における糖鎖関連遺伝子の発現
BMB2008 (第31回日本分子生物学会年会, 第81回日本生化学会大会合同大会), 神戸 (12.9~12.11, 2008).
27. 只野-有富桂子, 久樹晴美, 野呂知加子, 鈴木実, 本家孝一, 石塚稲夫, 岡崎具樹
CGT 欠損マウスにおける精子形成停止に伴うプロテオーム変化
BMB2008 (第31回日本分子生物学会年会, 第81回日本生化学会大会合同大会), 神戸 (12.9~12.11, 2008).
28. 山下竜幸, 仁尾景子, 宮原馨, 本家孝一
Production of monoclonal antibodies for membrane microdomains of murine spermatogenic cells
BMB2008 (第31回日本分子生物学会年会, 第81回日本生化学会大会合同大会), 神戸 (12.9~12.11, 2008).

< 梶 秀人教授 >

1. H. Kaba, G-Z. Huang,
Synaptic correlates of olfactory recognition memory
27th Annual Meeting of Association for Chemoreception Sciences, Abstracts p.45, Sarasota, U.S.A. (4.13 ~4.17, 2005).
2. 奥谷文乃, 村田和子, 中平光彦, 牛田享宏, 谷口慎一郎, 池本竜則, 梶 秀人
事前告知がヒト脳内嗅覚情報処理過程へ及ぼす影響の fMRI による解析
第82回日本生理学会大会, 仙台 (5.18~5.20, 2005).
3. 梶 秀人
オキシトシンと母性行動・記憶
第9回鋤鼻研究会, 茨城県八郷郡大子町 (6.16~6.17, 2005).
4. 村本和世, 梶 秀人
副嗅球ニューロンとの共培養条件下でのラット鋤鼻ニューロンの尿への応答
第28回日本神経科学大会, 横浜 (7.26~7.28, 2005).
5. 谷口睦男, 梶 秀人
代謝型グルタミン酸受容体 II 型によるマウス副嗅球僧帽細胞 - 顆粒細胞間相反性シナプス電流の調節
第28回日本神経科学大会, 横浜 (7.26~7.28, 2005).
6. 村本和世, 梶 秀人
副嗅球との共培養下による鋤鼻ニューロンの尿に対する応答性獲得
第57回日本生理学会中四国地方会, 米子 (10.29, 2005).
7. 梶 秀人
動物行動と匂い
日本アロマセラピー学会第8回総会, シンポジウム「アロマセラピーと疲労」, 大阪 (11.5~11.6, 2005).
8. F. Okutani, J.-J. Zhang, G-Z. Huang, M. Kawakubo, H. Kaba
Oxytocin administration facilitates olfactory learning and synaptic plasticity in the olfactory bulb in young rats
35th Annual Meeting of Society for Neuroscience, Washington, D.C., U.S.A. (11.12~11.16, 2005).
9. K. Muramoto, H. Kaba
Responses of vomeronasal pockets to mouse urine under the co-culture with accessory olfactory bulb neurons
35th Annual Meeting of Society for Neuroscience, Washington, D.C., U.S.A. (11.12~11.16, 2005).
10. M. Taniguchi, H. Kaba
Modulation of dendrodendritic inhibition by group II metabotropic glutamate receptors in the mouse accessory olfactory bulb
35th Annual Meeting of Society for Neuroscience, Washington, D.C., U.S.A. (11.12~11.16, 2005).
11. 梶 秀人
哺乳類における匂いの学習記憶の分子機構
日本農芸化学会 2006 年度大会, シンポジウム「植物化学因子の生態系多重効果: その生成機構と展望」, 京都 (3.25~3.28, 2006).
12. 奥谷文乃, 梶 秀人
匂いによる刷り込み: 新生仔の匂い学習の分子メカニズム
第83回日本生理学会大会, シンポジウム「行動パターンを決定する発達期の環境因子: 臨界期とその分子メカニズム」, 前橋 (3.28~3.30, 2006).
13. 村本和世, 橋本光広, 梶 秀人
副嗅球ニューロンとの共培養によって誘導される鋤鼻ニューロンの機能的成熟
第83回日本生理学会大会, 前橋 (3.28~3.30, 2006).
14. H. Kaba, G-Z. Huang
Noradrenergic modulation of synaptic transmission from mitral to granule cells in the accessory olfactory bulb
28th Annual Meeting of the Association for Chemoreception Sciences, Abstracts: p.81, Sarasota, FL, USA (4.26~4.30, 2006).

15. 谷口睦男, 梶秀人
マウス副嗅球僧帽細胞-顆粒細胞間相反性シナプス電流調節における代謝型グルタミン酸受容体 II 型の役割
第 10 回鋤鼻研究会, 北海道上天網町 (5.25~5.27, 2006).
16. 奥谷文乃, 張敬姫, 黄光哲, 川久保真衣, 梶秀人
オキシトシンによるにおいの学習および嗅球内シナプス可塑性の促進効果
日本味と匂学会第 40 回大会, 福岡 (7.11~7.13, 2006).
17. 村本和世, 橋本光広, 梶秀人
副嗅球との相互作用による鋤鼻ニューロンでの V2R ファミリー受容体の発現調節
日本味と匂学会第 40 回大会, 福岡 (7.11~7.13, 2006).
18. 奥谷文乃, 張敬姫, 黄光哲, 梶秀人
嗅球内シナプス可塑性および幼若ラットのにおいの学習に対するオキシトシンの促進効果
第 29 回日本神経科学大会, 京都 (7.19~7.21, 2006).
19. H. Kaba
Olfactory recognition memory
International Symposium on Social Cognition as Higher Brain Function, Tokyo (8.1~8.3, 2006).
20. F. Okutani, M. Kawakubo, H. Kaba
Intrabulbar infusion of sodium butyrate, a HDAC inhibitor facilitates olfactory learning in young rats
17th Congress of the European Chemoreception Research Organization, Granada, Spain (9.4~9.8, 2006).
21. H. Kaba, G.-Z. Huang, Y.-B. Zhou, M. Taniguchi
Olfactory learning and homeostatic plasticity
17th Congress of the European Chemoreception Research Organization, Granada, Spain (9.4~9.8, 2006).
22. K. Muramoto, M. Hashimoto, H. Kaba
Modulation of V2R receptor expression in cultured vomeronasal neurons by the interaction with co-cultured accessory olfactory bulb neurons
17th Congress of the European Chemoreception Research Organization, Granada, Spain (9.4~9.8, 2006).
23. 奥谷文乃, 張敬姫, 黄光哲, 川久保真衣, 梶秀人
嗅覚内オキシトシンは嗅覚学習の成立を促進する.
第 33 回日本神経内分泌学会学術集会, 横浜 (10.27~28, 2006).
24. 梶秀人
匂いの絆: その刷り込みのメカニズム
みどりの香りのノーブルフォーラム研究会第 10 回記念シンポジウム 2006「ヒトは何故にみどりの香りによってリフレッシュされるのか!-植物とヒトの不思議な関係の実証的基礎研究-」, 東京 (12.2, 2006).
25. 梶秀人
フェロモン記憶とホメオスタティックプラスティシティー
第 31 回日本比較内分泌学会シンポジウム「比較内分泌学の世紀」(セッション 3. フェロモンと生殖研究のフロンティア), 東京 (12.7, 2006).
26. 村本和世, 橋本光広, 権蓉丹, 梶秀人
培養鋤鼻ニューロンの V2R 発現と機能的な成熟に対する投射標的調節
第 11 回鋤鼻研究会, 岩手県岩手郡滝沢村 (5.31~6.2, 2007).
27. 梶秀人
医学系研究科の視点. シンポジウム 2「味覚・嗅覚研究領域における人材育成-大学院教育の実践」
日本味と匂学会第 41 回大会, 東京 (7.26~7.28, 2007).
28. 奥谷文乃, 川久保真衣, 村田和子, 中平光彦, 牛田享宏, 梶秀人
嫌いなにおいの情報処理過程
日本味と匂学会第 41 回大会シンポジウム「匂いのもつ生理機能発現への道筋」, 東京 (7.26~7.28, 2007).
29. 権蓉丹, 村本和世, 梶秀人
主要尿タンパク質(MUP)はマウス鋤鼻細胞培養系においてネスチン陽性細胞数を増加させる
日本味と匂学会第 41 回大会, 東京 (7.26~7.28, 2007).
30. 方龍雲, 梶秀人
フェロモン記憶を支える新たな分子: オキシトシン
日本味と匂学会第 41 回大会, 東京 (7.26~7.28, 2007).
31. 方龍雲, 梶秀人
副嗅球のシナプス可塑性に果たすオキシトシンの役割
第 7 回日本内分泌学会四国支部学術集会, 高知(9.1, 2007).
32. 権蓉丹, 村本和世, 梶秀人
マウス培養鋤鼻細胞中のネスチン陽性細胞増殖に対する主要尿タンパク質の効果
Neuro2007 (第 50 回日本神経化学学会大会・第 30 回日本神経科学大会・第 17 回日本神経回路学会 合同大会, 横浜 (9.10~9.12, 2007).
33. 方龍雲, 梶秀人
オキシトシンは副嗅球における長期増強の誘導を促進する
Neuro2007 (第 50 回日本神経化学学会大会・第 30 回日本神経科学大会・第 17 回日本神経回路学会 合同大会), 横浜 (9.10~9.12, 2007).
34. K. Muramoto, M. Hashimoto, H. Kaba
Target-induced maturation of the vomeronasal sensory neurons *in vitro*.
The 5th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception (YR Umami Forum 2007), 福岡 (11.2~11.3, 2007).
35. 権蓉丹, 村本和世, 梶秀人
主要尿タンパク質 (MUP) によるマウス培養鋤鼻細胞中のネスチン陽性神経幹細胞数の増加
第 59 回日本生理学会中四国地方会, 徳島 (11.10, 2007).
36. 方龍雲, 梶秀人
オキシトシンと副嗅球シナプス可塑性
第 59 回日本生理学会中四国地方会, 徳島 (11.10, 2007).
37. 奥谷文乃, 川久保真衣, 梶秀人
混合ハーブエキスの摂取は仔の記憶を促進する
第 59 回日本生理学会中国四国地方会, 徳島 (11.10, 2007).
38. 奥谷文乃, 難波利治, 川久保真衣, 梶秀人
においの嫌悪学習はヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の嗅球内注入により促進される
第 85 回日本生理学会大会, 東京 (3.25~3.27, 2008).
39. 村本和世, 梶秀人
投射標的によって誘導される培養鋤鼻ニューロンの機能的成熟
第 85 回日本生理学会大会, 東京 (3.25~3.27, 2008).
40. 谷口睦男, 村本和世, 稲垣秀晃, 森裕司, 梶秀人
ラット鋤鼻感覚細胞の揮発性化学物質プロピレングリコールに対する応答
第 85 回日本生理学会大会, 東京 (3.25~3.27, 2008).
41. 奥谷文乃, 難波利治, 川久保真衣, 梶秀人
においの嫌悪学習はヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の嗅球内注入により促進される.
第 85 回日本生理学会大会, 東京 (3.25~3.27, 2008).
42. 谷口睦男, 村本和世, 稲垣秀晃, 森裕司, 梶秀人
ラット鋤鼻感覚細胞の揮発性化学物質プロピレングリコールに対する応答.
第 85 回日本生理学会大会, 東京 (3.25~3.27, 2008).
43. H. Kaba, L.-Y. Fang, R.-D. Quan
Oxytocin-induced synaptic plasticity in the accessory olfactory bulb.
XV International Symposium on Olfaction and Taste, San Francisco (7.21~7.26, 2008).
44. H. Kaba
The neural basis of social recognition.
Japan/China symposium 2008, Strategies to Reduce Risks on the Brain Development Contingent to Urbanization, Tsukuba (10.23~10.25, 2008).
45. 谷口睦男, 梶秀人
代謝型グルタミン酸受容体 II 型によるマウス副嗅球

僧帽細胞-顆粒細胞間相反性シナプス電流の調節.
第 60 回日本生理学会中四国地方会, 松山 (11.15, 2008) .

46. 難波利治, 村本和世, 梶秀人
アデノウイルスベクターを用いた鋤鼻受容体の *in vitro* 発現・フェロモン応答評価系の確立.
第 60 回日本生理学会中四国地方会, 松山 (11.15, 2008) .

<吉田 勝平教授>

1. 吉田勝平
クラスレート形成蛍光色素の分子設計・合成・機能と応用; 繊維・高分子機能加工
第 120 委員会「第 106 回講演会」, 日本学術振興会, 愛媛 (9.30, 2005).
2. 岡本朋大, 林 晶子, 大山陽介, 吉田勝平
複素多環キノール系蛍光性色素の合成と固体光物性 (1)
2005 年日本化学会西日本大会, 日本化学会中国四国支部・同九州支部, 山口 (10.22, 2005).
3. 林 晶子, 岡本朋大, 大山陽介, 吉田勝平
複素多環キノール系蛍光性色素の合成と固体光物性 (2)
2005 年日本化学会西日本大会, 日本化学会中国四国支部・同九州支部, 山口 (10.22, 2005).
4. 間村俊樹, 鍋島沙織, 岡本朋大, 吉田勝平
複素多環キノール系蛍光性色素の合成と固体光物性 (3)
2005 年日本化学会西日本大会, 日本化学会中国四国支部・同九州支部, 山口 (10.22, 2005).
5. 吉田勝平
波長変換型フィルム用発光色素の開発と農業への応用研究
RSP 成果説明会 2005~2006「新技術との出会い」, 科学技術振興機構, 高知県産業振興センター, 高知 (2.28, 2006).
6. 吉田勝平, 林 晶子, 岡本朋大
3K2-38: 固体発光性ベンゾ[b]ナフト[1,2-d]フラン-6-オン系蛍光色素の合成, 光物性と結晶構造
日本化学会第 86 春季年会, 日本化学会, 千葉 (3.29, 2006).
7. 間村俊樹, 鍋島沙織, 吉田勝平
3K2-39: 固体発光性ベンゾ[c]カルバゾール-6-オン系蛍光色素の合成, 光物性と結晶構造
日本化学会第 86 春季年会, 日本化学会, 千葉 (3.29, 2006).
8. 林 晶子, 岡本朋大, 吉田勝平
3K2-40: 固体発光性ベンゾ[kl]キサンテン-2-オン系蛍光色素の合成, 光物性と結晶構造
日本化学会第86春季年会, 日本化学会, 千葉 (3.29, 2006) .
9. K. Yoshida, A. Hayashi
Synthesis, photophysical properties, and crystal structures of solid-emissive benzo[b]naphtho[1,2-d]furan-6-one-type fluorescent dyes
International Symposium on Dyeing and Finishing of Textiles (ISDF 2006), Kyoto (12.17~12.19, 2006).
10. A. Hayashi, K. Yoshida
Synthesis, photophysical properties, and crystal structures of solid-emissive benzo[kl]xanthene-2-one-type fluorescent dyes
International Symposium on Dyeing and Finishing of Textiles (ISDF 2006), Kyoto (12.17~12.19, 2006).
11. T. Mamura, K. Yoshida
Synthesis, photophysical properties, and crystal structures of solid-emissive benzo[c]carbazol-6-one-type fluorescent dyes
International Symposium on Dyeing and Finishing of Textiles (ISDF 2006), Kyoto (12.17~12.19, 2006).
12. 間村俊樹, 原田あすか, 渡辺 茂, 吉田勝平
縮合多環フェナジン系蛍光色素の合成と光物性 (1)
日本化学会第 87 春季年会, 大阪 (3.25, 2007).
13. 吉田勝平, 長濱有希, 間村俊樹, 渡辺 茂
縮合多環フェナジン系蛍光色素の合成と光物性 (2)
日本化学会第 87 春季年会, 大阪 (3.25, 2007).
14. 前田優子(JSTサテライト高知), 坂本武大, 日野利彦, 吉田勝平
複素多環オキサゾール系蛍光色素の溶液および固体光物性
日本化学会第 87 春季年会, 大阪 (3.25, 2007).
15. 井出孝史, 間村俊樹, 渡辺 茂, 吉田勝平
複素多環フェナジン系蛍光色素の合成と光物性
日本化学会第 87 春季年会, 大阪 (3.25, 2007).
16. 無川 郁一郎, 米村 俊昭, 吉田 勝平
1-ヒドロキシアントラキノン誘導体を含むアルミニウム, 亜鉛錯体の合成と光物性
日本化学会第 87 春季年会, 大阪 (3.26, 2007).
17. 間村俊樹, 井出孝史, 山崎博春, 吉田勝平
複素多環フェナジン系蛍光色素の合成と光物性
日本化学会西日本大会, 岡山 (11.11~11.12, 2007).
18. 上野友徳, 大沼大起, 吉田勝平
複素多環アントラキノイド系蛍光色素の合成と光物性
日本化学会西日本大会, 岡山 (11.11~11.12, 2007).
19. 日野利彦, 井出孝史, 吉田勝平
ベンゾフラノナフトオキサゾール系蛍光色素の溶液および固体光物性
日本化学会西日本大会, 岡山 (11.11~11.12, 2007).
20. 井出孝史, 林 晶子, 間村俊樹, 吉田勝平
複素多環フェナジン系蛍光色素の合成, 光物性および耐熱・耐光性
日本化学会第 88 春季年会, 立教大学 (3.26~3.30, 2008).
21. 日野利彦, 坂本武大, 吉田勝平
複素多環オキサゾール系蛍光色素の合成, 光物性および耐熱・耐光性
日本化学会第 88 春季年会, 立教大学 (3.26~3.30, 2008).
22. 上野友徳, 大沼大起, 吉田勝平
固体発光性アントラキノイド系蛍光色素の分子設計・合成・光物性評価
日本化学会第 88 春季年会, 立教大学 (3.26~3.30, 2008).
23. 日野利彦, 谷上拓也, 吉田勝平
2B07; 複素多環オキサゾール系蛍光色素の分子設計・合成・光物性評価
2008年光化学討論会, 大阪府立大学 (9.12, 2008).
24. 上野友徳, 米村俊昭, 吉田勝平
3B06; 発光性アントラキノイド系ホウ素錯体の分子設計・合成・光物性評価
2008年光化学討論会, 大阪府立大学 (9.13, 2008).
25. 中川安由, 江川晴香, 坂本武大, 吉田勝平
2P070; 新規アゾ-ヒドラゾン系蛍光色素の合成と光物性評価
2008年光化学討論会, 大阪府立大学 (9.12, 2008).
26. 井出孝史, 江川晴香, 吉田勝平
2P071; 新規複素多環フェナジン系蛍光色素の分子設計・合成・光物性評価
2008年光化学討論会, 大阪府立大学 (9.12, 2008).
27. 米村俊昭, 庭木美佳, 岩田一弥, 吉田勝平
2PF007; アントラキノイド系蛍光色素を含む亜鉛, バリウム錯体の合成と光物性, 機能評価
第58回錯体化学討論会, 金沢大学 (9.21, 2008).
28. 江川晴香, 前田優子, 坂本武大, 井出孝史, 吉田勝平, 渡瀬星児, 笹尾茂広, 松川公洋, 喜多泰夫
1H-09; 複素多環オキサゾール系蛍光色素の高分子フィルムにおける光安定性
2008年日本化学会西日本大会, 長崎大学 (11.15, 2008).
29. 江川晴香, 前田優子, 渡瀬星児, 笹尾茂広, 松川公洋,

- 喜多泰夫, 井出孝史, 吉田勝平
1H-10; 複素多環フェナジン系蛍光色素の高分子フィルム中における光安定性
 2008年日本化学会西日本大会, 長崎大学 (11.15, 2008).
30. 小林智広, 田中将雄, 吉田勝平
2H-02; 複素多環オキサゾール系蛍光色素: 類縁体の合成と光物性
 2008年日本化学会西日本大会, 長崎大学 (11.15, 2008).
31. 江川晴香, 中川安由, 坂本武大, 吉田勝平
1O-18; 新規アゾヒドラゾン系蛍光色素の合成と光物性第38回複素環化学討論会, 広島県民文化センター (11.21, 2008).
32. K. Hamada, K. Nakamura, K. Shimasaki, H. Egawa, K. Yoshida
S3-P-30; Effect of spectral composition conversion film on proliferation and shoot formation of *Cymbidium* PLB cultured in vitro
 The first Asia Horticultural Congress. 韓国, (12.11 ~ 12.13, 2008).
33. K. Hamada, K. Shimasaki, H. Egawa, K. Yoshida
S6-P-15; Effect of red fluorescent films on proliferation of *Cymbidium finlaysonianum* Lindl. PLB cultured in vitro, The first Asia Horticultural Congress., 韓国 (12.11 ~ 12.13, 2008).
34. 浜田和俊, 島崎一彦, 西村安代, 江川晴香, 吉田勝平
 赤色波長変換フィルムがシンビジウム (*Cymbidium finlaysonianum* Lindl.) のプロトコーム様球体 (PLB) の増殖および器官形成に及ぼす影響
 第21年度園芸学会春季大会 (農業生産技術管理学会), 明治大学駿河台キャンパス (3.19~3.20, 2009).
35. 上野友徳, 板倉章博, 吉田勝平
1PB-148; 複素多環アントロキノイド系蛍光色素の結晶構造と固体蛍光性の相関性
 日本化学会第89春季年会, 日本大学 (3.27, 2009).
36. 扇好信, 坂本武大, 吉田勝平
1PB-149; 複素多環フェナジン系蛍光色素: 類縁体の分子設計・合成と光物性評価(2)
 日本化学会第89春季年会, 日本大学 (3.27, 2009).
37. 坂本武大, 江川晴香, 井出孝史, 吉田勝平
3L2-20; 高分子フィルム中における複素多環オキサゾール系蛍光色素の光物性と光安定性
 日本化学会第89春季年会, 日本大学 (3.29, 2009).
38. 江川晴香, 井出孝史, 坂本武大, 吉田勝平
3L2-21; 高分子フィルム中における複素多環フェナジン系蛍光色素の光物性と光安定性
 日本化学会第89春季年会, 日本大学 (3.29, 2009).
39. 中川安由, 江川晴香, 坂本武大, 吉田勝平
3L2-49; 新規アゾ-ヒドラゾン系蛍光色素の結晶構造と固体光物性
 日本化学会第89春季年会, 日本大学 (3.29, 2009).
40. 田中将雄, 日野利彦, 小野愛弓, 吉田勝平
3L2-50; 複素多環フェナジン系蛍光色素: 類縁体の分子設計・合成と光物性(1)
 日本化学会第89春季年会, 日本大学 (3.29, 2009).
- <渡辺 茂准教授>
1. 渡辺 茂, 藤原隆太郎, 羽田正紀, 吉田勝平, 小川慶子, 時盛ひとみ, 彌田智一
 両親媒性ブロック共重合体薄膜のナノ相分離構造を利用した金ナノ粒子の二次元配列制御
 高分子学会, 第 54 回高分子年次大会, パシフィコ横浜会議センター (5.23~5.25, 2005).
2. 羽田正紀, 藤原隆太郎, 吉田勝平, 吉田博久, 彌田智一, 渡辺 茂
 LB 法を用いた両親媒性ブロック共重合体修飾金ナノ粒子単層膜の作製
 日本化学会, 第 58 回コロイドおよび界面化学討論会, 宇都宮大学 (9.8~9.10, 2005).
3. 藤原隆太郎, 羽田正紀, 吉田勝平, 彌田智一, 渡辺 茂
 両親媒性ブロック共重合体薄膜のナノシリンドラー相分離構造を利用した金ナノ粒子の二次元配列
 日本化学会, 第 58 回コロイドおよび界面化学討論会, 宇都宮大学 (9.8~9.10, 2005).
4. 岩本千紘, S. Boyer, 吉田博久, 渡辺 茂, 彌田智一
 両親媒性ブロック共重合体の超臨界 CO₂ によるナノスケールモディフィケーション
 高分子学会, 第 54 回高分子討論会, 山形大学小白川キャンパス (9.20~9.22, 2005).
5. 羽田正紀, 藤原隆太郎, 吉田勝平, 吉田博久, 彌田智一, 渡辺 茂
 LB 法を用いた両親媒性ブロック共重合体修飾金ナノ粒子単層膜の作製
 高分子学会, 第 54 回高分子討論会, 山形大学小白川キャンパス (9.20~9.22, 2005).
6. 藤原隆太郎, 羽田正紀, 吉田勝平, 彌田智一, 渡辺 茂
 両親媒性ブロック共重合体薄膜のナノシリンドラー相分離構造を利用した金ナノ粒子の二次元配列
 高分子学会, 第 54 回高分子討論会, 山形大学小白川キャンパス (9.20~9.22, 2005).
7. 瀬口英輝, 吉田勝平, 木船弘一, 唯木次男, 日置亜也子, 汐崎久芳, 渡辺 茂
 Colorimetric Detection of Fluoride Ion Using a Glucose-Caped Gold Nanoparticle
 日本化学会, 2005 環太平洋国際化学会議, ハワイ (12.15~12.20, 2005).
8. 藤原隆太郎, 羽田正紀, 吉田勝平, 渡辺 茂, 彌田智一
 Fabrication of two-dimensional arrays of gold nanoparticles using a phase-separated thin film of amphiphilic liquid crystalline diblock copolymers as a template
 日本化学会, 2005 環太平洋国際化学会議, ハワイ (12.15~12.20, 2005).
9. 羽田正紀, 藤原隆太郎, 吉田勝平, 彌田智一, 渡辺 茂
 Preparation and Langmuir-Blodgett Assembly of Gold Nanoparticles Modified with Amphiphilic Liquid Crystalline Diblock Copolymers
 日本化学会, 2005 環太平洋国際化学会議, ハワイ (12.15~12.20, 2005).
10. 渡辺 茂, 藤原隆太郎, 羽田正紀, 岡崎由佳, 彌田智一
24-a-N-6: 両親媒性ブロック共重合体のナノ相分離構造を利用した金ナノ粒子の指向性自己組織化
 第 53 回応用物理学関係連合講演会, 武蔵工業大学, (3.22~3.26, 2006).
11. 藤原隆太郎, 羽田正紀, 吉田勝平, 彌田智一, 渡辺 茂
1K5-12: 両親媒性ブロック共重合体のナノ相分離構造を利用した金ナノ粒子の組織化条件の検討
 第 86 回日本化学会春季年会, 日本大学船橋キャンパス, 船橋 (3.27~3.30, 2006).
12. 羽田正紀, 藤原隆太郎, 吉田勝平, 彌田智一, 渡辺 茂
1K5-13: 高分子保護金ナノ粒子の Langmuir-Blodgett 集積化と真空紫外光照射による金ナノドットの作成
 第 86 回日本化学会春季年会, 日本大学船橋キャンパス, 船橋 (3.27~3.30, 2006).
13. 福井千春, 羽田正紀, 藤原隆太郎, 吉田勝平, 吉田博久, 彌田智一, 渡辺 茂
2PB-047: 両親媒性ブロックコポリマー修飾金ナノ粒子の合成と LB 集積膜の作製
 第 86 回日本化学会春季年会, 日本大学船橋キャンパス, 船橋 (3.27~3.30, 2006).
14. 渡辺 茂, 藤原隆太郎, 羽田正紀, 吉田勝平, 岡崎由佳, 彌田智一
3Pd048: 両親媒性ブロック共重合体薄膜のナノ相分離構造を利用した金ナノ粒子の自己組織化
 第 55 回高分子学会年次大会, 名古屋国際会議場, 名古屋 (9.8~9.10, 2005).

- 屋 (5.24~5.26, 2006).
15. 渡辺 茂, 福井千春, 藤原隆太郎, 岡崎由佳, 李 晶澤, 彌田智一
3N01: 高分子ナノ構造テンプレートを利用した金属ナノドットの組織化 Part 1
 第 55 回高分子討論会, 富山大学, 富山 (9.19~9.22, 2006).
 16. 藤原隆太郎, 福井千春, 岡崎由佳, 彌田智一, 渡辺 茂
3N02: 高分子ナノ構造テンプレートを利用した金属ナノドットの組織化 Part 2
 第 55 回高分子討論会, 富山大学, 富山 (9.19~9.22, 2006).
 17. 岩本千紘, S. Boyer, 吉田博久, 渡辺 茂, 彌田智一
1L13: 超臨界 CO₂ を利用した両親媒性ブロック共重合体-金ナノ粒子の複合体形成
 第 55 回高分子討論会, 富山大学, 富山 (9.19~9.22, 2006).
 18. 渡辺 茂, 藤原隆太郎, 羽田正紀, 福井千春, 岡崎由佳, 李 晶澤, 彌田智一
 アクセサブルナノ構造テンプレートを利用した金属ナノ粒子の組織化
JOEM-M&BE 共催研究会「新規有機薄膜作製技術とその展開」(応用物理学会), 情報通信研究機構未来 ICT 研究センター, 神戸 (9.29, 2006).
 19. 渡辺 茂, 藤原隆太郎, 彌田智一
1PC61: アクセサブルナノ構造テンプレートを利用した金属ナノ粒子の組織化
 第 15 回ポリマー材料フォーラム, 千里ライフサイエンスセンター, 千里 (11.16~11.17, 2006).
 20. I. R. Laskar, 藤原隆太郎, 吉田博久, 彌田智一, 渡辺 茂
3PA-126: 液晶性ブロック共重合体で保護した新規金ナノ粒子の合成と組織化
 第 87 回日本化学会春季年会, 関西大学千里山キャンパス (3.25~3.28, 2007).
 21. 福井千春, 藤原隆太郎, I. R. Laskar, 彌田智一, 渡辺 茂
3G5-28: 両親媒性ブロック共重合体のナノ相分離構造を利用した金ナノドットの作製
 第 87 回日本化学会春季年会, 関西大学千里山キャンパス (3.25~3.28, 2007).
 22. 渡辺 茂, 藤原隆太郎, 福井千春, 岡崎由佳, 彌田智一
2Pa127: アドレスラブル高分子ナノ構造テンプレートを利用した金ナノ粒子の精密配列
 第 56 回高分子学会年次大会, 国立京都国際会館 (5.29~5.31, 2007).
 23. 岩本 千紘, 高橋 孝太郎, 渡辺 茂, 彌田 智一, 吉田博久
3Pb078: ナノサイズで規則構造を有する両親媒性ブロック共重合体と金ナノ粒子複合膜の作製
 第 56 回高分子学会年次大会, 国立京都国際会館 (5.29~5.31, 2007).
 24. 渡辺 茂, 福井 千春, I. R. Laskar, 岡崎由佳, 李 晶澤, 彌田 智一
3Pc105: 高分子ナノ相分離構造を鋳型として用いる金ナノドットアレイの作製
 第 56 回高分子討論会, 名古屋工業大学 (9.19~9.21, 2007).
 25. (招待講演) S. Watanabe, R. Fujiwara, C. Fukui, I. R. Laskar, T. Iyoda
 Directed Self-Assembly of Gold Nanoparticles using Addressable Diblock Copolymer Template
 2th International Symposium on Integrated Molecular and Macromolecular Materials, Beijing (10.25~10.28, 2007).
 26. 渡辺 茂, 福井千春, 岡崎由佳, 李 晶澤, 彌田智一
2H1-18: アドレスラブル高分子ナノ構造テンプレートを利用した金ナノ粒子の精密配列
 2007 年日本化学会西日本大会, 岡山大学津島キャンパス (11.10~11.11, 2007).
 27. S. Watanabe, R. Fujiwara, C. Fukui, I. R. Laskar, T. Iyoda
 Directed Self-Assembly of Gold Nanoparticles using Addressable Diblock Copolymer Template
 International Symposium on Engineering Micro-/Nano-Materials based on Self-Assembling and Self-Organization (ISEM), Tokyo (3.3~3.5, 2008).
 28. R. Laskar, S. Watanabe, T. Iyoda
 Self-assembly of Fluorinated Substrate Mediated Spherical Block Copolymer led to Hexagonal Close-pack Gold Nanostructure
 International Symposium on Engineering Micro-/Nano-Materials based on Self-Assembling and Self-Organization (ISEM), Tokyo (3.3~3.5, 2008).
 29. (招待講演) S. Watanabe, I. R. Laskar, T. Iyoda,
 Fabrication of Ordered 2D Arrays of Nanoparticles Using Self-Assembled Diblock Copolymer Template
 Particle 2008, Orland (USA) (5.10~5.13, 2008).
 30. (招待講演) S. Watanabe
 Diblock Copolymer Template Directed Self-Assembly of Gold Nanoparticle Arrays
 International Conference on Nanotechnology 2008 Jeddah (Saudi Arabia), IT-4 (6.17~6.19, 2008).
 31. 渡辺 茂, I. R. Laskar, 彌田 智一
3M10: 高分子ミセルの自己組織化テンプレートを利用した金ナノドットアレイの作製
 第 57 回高分子討論会, 大阪市立大学 (9.24~9.26, 2008).

環境共生／生命環境研究部門

<今井 章介教授／松崎 茂展准教授>

1. 氏原隆子, 松崎茂展, 黒田正幸, M. Rashel, 明智和愛, 内山淳平, 桜井慎吾, 邑岡麻子, 今井章介
 ヒト細胞で機能する黄色ブドウ球菌ファージ φMR11 由来部位特異的組換えシステム
 第 78 回日本細菌学会総会 ワークショップ「細菌の分類、生態に関する話題」, 東京 (4.4~4.6, 2005).
2. 氏原隆子, 松崎茂展, 黒田正幸, M. Rashel, 明智和愛, 内山淳平, 桜井慎吾, 邑岡麻子, 今井章介
 ヒト細胞で機能する黄色ブドウ球菌ファージ φMR11 由来部位特異的組換えシステム
 第 78 回日本細菌学会総会 ポスター「分類学、遺伝学」, 東京 (4.4~4.6, 2005).
3. 前田明彦, 堂野純孝, 佐藤哲也, 石浦嘉人, 今井章介, 脇口 宏
 初診時に Epstein-Barr virus (EBV) ゲノム陽性・抗体陰性で伝染性単核症 (IM) と診断された 3 例
 第 4 回高知県ウイルス感染症研究会, 高知 (4.8, 2005).
4. 今井章介
 天然抗菌リソースの医用活用 - バクテリオファージ療法
 高知皮膚科医会 特別講演, 高知 (5.10, 2005).
5. 今井章介, 黒田正幸, 堂野純孝
 EB ウイルス (EBV) 陽性腫瘍性疾患に対する新しい特異的遺伝子治療の開発
 平成 17 年度中四国乳酸菌研究会総会 指定発表, 岡山 (5.13, 2005).
6. 今井章介 (代理発表 松崎茂展)
 天然抗菌リソースの医用活用 - バクテリオファージ療法
 第 1 回グリーンサイエンス特別研究プロジェクト公開シンポジウム, 高知 (5.13, 2005).
7. 今井章介
 難治性 EB ウイルス関連疾患の治療 - 基礎から -
 第 46 回日本臨床ウイルス学会 ワークショップ「難治性 EB ウイルス関連疾患の病態と治療」, 福岡 (6.3~6.4, 2005).
8. M. Nasimuzzaman, M. Kuroda, S. Dohno, T. Yamamoto, K. Iwatsuki, H. Mizuguchi, T. Hayakawa, M. Rashel, W. Kumita, S. Matsuzaki, H. Nakamura, H. Wakiguchi, S. Imai

- Eradication of Epstein-Barr virus (EBV) episome and suppression of infected tumor cell growth in vitro and in vivo by dominant-negative mutant of EBV nuclear antigen 1.
The 105th General Meeting of American Society for Microbiology (ASM), Atlanta, U.S.A. (6.8~6.12, 2005).
9. 堂野純孝, 黒田正幸, 石浦嘉人, 山下竜右, 脇口 宏, 松崎茂展, 笠原善仁, 今井章介
EB ウイルス陽性 T, NK 細胞増殖に対する dominant-negative EBNA1 の抑制効果
第 21 回中国四国ウイルス研究会, 倉敷 (6.18~6.19, 2005).
 10. M. Rashel, S. Matsuzaki, M. Kuroda, J. Uchiyama, S. Sakurai, Y. Uehara, S. Kuramoto, K. Yagyu, S. Imai
MV-L, a lysin derived from phage ϕ MR11, rapidly kills multidrug-resistant *Staphylococcus aureus*
16th Evergreen International Phage Biology Meeting 2005, The Evergreen State College, Olympia, WA, U.S.A. (8.7~8.12, 2005).
 11. 今井章介
EB ウイルスの多様性 - Latency I と II -
第 12 回 Japan Herpesvirus Infection Forum (JHIF) シンポジウム, 小樽 (8.19~8.20, 2005).
 12. 邑岡麻子, 竹村伊代, 宮地秀典, 松崎茂展, 今井章介, 佐藤之紀
高知県産ユズ果皮ペクチンにおける抗菌性の菌種特異性の検討
社団法人日本食品科学工学会第52回大会, 札幌 (8.29~8.31, 2005).
 13. 今井章介
EBウイルス抗体判定法指導及び抗体測定法
ウイルス検査技術連絡会「EBウイルス抗体サーベイ研修会」特別講演, 東京 (9.9, 2005).
 14. Rashel M, 松崎茂展, 内山淳平, 櫻井慎吾, 黒田正幸, 氏原隆子, 上原良雄, 倉本 秋, 邑岡麻子, 今井章介
黄色ブドウ球菌ファージ ϕ MR11 保有ライシンの MRSA/VISA/VRSA に対する溶菌活性の検討
第50回日本ブドウ球菌研究会 ワークショップ, 岡山 (9.15~9.16, 2005).
 15. 今井章介
第 58 回日本細菌学会中国・四国支部総会, 学術集会
高知市文化プラザ「かるぽーと」, ホテル日航高知旭ロイヤル (10.6~10.7, 2005).
 16. 池内昌彦, 松崎茂展, 高橋敏明, 氏原隆子, 明智和愛, 今井章介, 谷 俊一
黄色ブドウ球菌による化膿性関節炎に対する抗生物質非依存療法の開発 - バクテリオファージ療法の実験的研究 -
日本整形外科学会基礎学術集会, 三重 (10.20~10.21, 2005).
 17. 山下竜右, 黒田正幸, 堂野純孝, 石浦嘉人, 脇口 宏, 松崎茂展, 今井章介
Dominant-negative EBNA1 による EBV 感染細胞増殖阻害機構の解析
第 53 回日本ウイルス学会学術集会・総会, 横浜 (11.20~11.22, 2005).
 18. 松崎茂展
食中毒をおこす細菌
第 58 期高知市民の大学 教育講演, 総合コース「食・生活習慣と健康」ウイルス感染症, 高知 (12.20, 2005).
 19. M. Rashel, S. Matsuzaki, M. Kuroda, N. Kotani, T. Ujihara, J. Uchiyama, S. Sakurai, Y. Maeda, S. Imai
Control of multidrug-resistant *Staphylococcus aureus* infections by bacteriophage ϕ MR11 lysin
第5回 Kochi Medical School (KMS) Research Meeting
学部長裁量経費採択演題(ポスター), 高知 (2.15~2.17, 2006).
 20. 前田明彦, 佐藤哲也, 石浦嘉人, 藤枝幹也, 服部元史, 今井章介, 脇口 宏
小児移植患者のEBウイルス(EBV)負荷量と抗体価の推移
第5回 Kochi Medical School (KMS) Research Meeting
学部長裁量経費採択演題(ポスター), 高知 (2.15~2.17, 2006).
 21. 氏原隆子, M. Rashel, 松崎茂展, 黒田正幸, 小谷典弘, 内山淳平, 櫻井慎吾, 前田良浩, 今井章介
ヒト細胞で機能する新規黄色ブドウ球菌ファージ ϕ MR11由来部位特異的遺伝子組換えシステム
第5回 Kochi Medical School (KMS) Research Meeting (ポスター), 高知 (2.15~2.17, 2006).
 22. 鎌倉真紀, 齋藤史路, 森澤啓子, 小西裕子, 黒田正幸, 今井章介, 水口裕之, 谷口武利
IL-27p28 遺伝子調節機構の解析
第5回 Kochi Medical School (KMS) Research Meeting (ポスター), 高知 (2.15~2.17, 2006).
 23. 松崎茂展
バクテリオファージ由来溶菌酵素を利用する多剤耐性黄色ブドウ球菌除菌法の開発
独立行政法人科学技術振興機構 地域研究開発促進拠点支援 (RSP) 事業 (研究成果育成型) 成果説明会 2005~2006 新技術との出会い, 高知 (2.28, 2006).
 24. 内山淳平, 明智和愛, 松崎茂展, ラッセルモハンマド, 黒田正幸, 小谷典弘, 上原良雄, 杉原重喜, 杉浦哲朗, 今井章介
腸球菌感染症に対するファージ療法の検討 (1) 新規腸球菌ファージの分離と性状解析
第79回日本細菌学会総会, 金沢 (3.29~3.31, 2006).
 25. 明智和愛, 内山淳平, 松崎茂展, ラッセルモハンマド, 干場 浩, 櫻井慎吾, 前田良浩, 氏原隆子, 邑岡麻子, 今井章介
腸球菌感染症に対するファージ療法の検討 (2) 実験的腸球菌感染マウスに対するファージ投与効果
第79回日本細菌学会総会, 金沢 (3.29~3.31, 2006).
 26. 前田明彦, 堂野純孝, 石浦嘉人, 佐藤哲也, 島崎真弓, 新井淳一, 林 晶子, 高杉尚志, 細川卓利, 藤枝幹也, 脇口 宏
ウイルス感染回復期に肝障害再発を繰り返す乳児期の肝炎
第 5 回高知県ウイルス感染症研究会, 高知 (3.31, 2006).
 27. 今井章介
EB ウイルス関連疾患に対する新たな治療戦略
第 80 回日本感染症学会総会・学術講演会 シンポジウム, 東京 (4.20, 2006).
 28. M. Rashel, 松崎茂展, 今井章介
難治性ヒト感染症に対する新制御法の開発
第 3 回グリーンサイエンス特別研究プロジェクト公開シンポジウム, 高知 (5.19, 2006).
 29. 今井章介
EB ウイルス関連腫瘍性疾患に対する新たな治療戦略
第 18 回 Young Oncologist Conference, 和歌山 (6.16, 2006).
 30. 今井章介
EB ウイルス関連腫瘍性疾患に対する新たな治療戦略
第 40 回日本ウイルス学会北海道支部会夏期シンポジウム, 北海道有珠郡大滝村 大滝セミナーハウス (8.18, 2006).
 31. 黒田正幸, 堂野純孝, 山下竜右, 石浦嘉人, 小谷典弘, 脇口 宏, 松崎茂展, 今井章介
EB ウイルス (EBV) のゲノム複製機構を標的とした EBV 陽性悪性腫瘍に対する新規遺伝子治療の開発研究
第 18 回微生物シンポジウム, 岡山 (9.1~9.2, 2006).
 32. 松崎茂展, M. Rashel, 内山淳平, 干場 浩, 黒田正幸, 池内昌彦, 谷 俊一, 上原良雄, 前田良浩, 櫻井慎吾, 竹村伊代, 邑岡麻子, 今井章介
グラム陽性細菌感染症に対するバクテリオファージ療法
第 18 回微生物シンポジウム, 岡山 (9.1~9.2, 2006).
 33. 松崎茂展, 今井章介
多剤耐性細菌感染症に対するバクテリオファージ療法
大阪大学蛋白質研究所セミナー, 大阪大学 (9.14~15,

- 2006).
34. 今井章介
多剤耐性菌に対する抗生物質に依存しない治療法の可能性
ひまわり会講演, 高知 (9.20, 2006).
 35. M. Rashel, 松崎茂展, 内山淳平, 前田良浩, 竹村伊代, 今井章介
Functional Analysis of the Tail-associated Component GP61 of Phage ϕ MR11: Another Possible ϕ MR11-derived Staphylytic Agent
第81回日本感染症学会, 京都 (4.10~4.11, 2007).
 36. 内山淳平, 松崎茂展, M. Rashel, 前田良浩, 竹村伊代, 邑岡麻子, 今井章介
腸球菌感染症に対する治療用バクテリオファージ ϕ EF24Cの性状とゲノム解析
第 81 回日本感染症学会, ワークショップ 21 薬剤耐性と対策-GPC, 京都 (4.10~4.11, 2007).
 37. 松崎茂展, 内山淳平, M. Rashel, 竹村伊代
シンポジウム S8 Revival of Bacteriophage ファージ療法: 現状と展望
第 81 回日本細菌学会総会, 京都 (3.24~3.26, 2008).

<中村 裕之教授>

1. 中村裕之, 秋丸国広, 遠藤朝彦, 今井透, 本橋豊, 松崎一葉, 笹原信一朗, 荻野景規, 小笹晃太郎, 八田耕太郎, 鳥帽子田彰
気管支喘息症の有症率と環境因子の関与についての地域間の相違
第17回日本アレルギー学会春季臨床大会, 岡山 (6.2~6.4, 2005).
2. 大矢幸弘, 斎藤曉美, 青田明子, 小嶋なみ子, 明石真幸, 二村昌樹, 秋山一男, 高橋清, 中川武正, 西間三肇, 小田嶋博, 小林章雄, 三宅吉博, 鳥帽子田彰, 中村裕之, 足立雄一, 赤澤晃
全国全年齢階級喘息有症率調査 (第1報) 全年齢用調査用紙の作成
第17回日本アレルギー学会春季臨床大会, 岡山 (6.2~6.4, 2005).
3. 斎藤曉美, 青田明子, 小嶋なみ子, 明石真幸, 二村昌樹, 大矢幸弘, 秋山一男, 高橋清, 中川武正, 小林章雄, 鳥帽子田彰, 中村裕之, 小田嶋博, 足立雄一, 赤澤晃
全国全年齢階級喘息有症率調査 (第2報) 電話・郵送調査方法の検討
第17回日本アレルギー学会春季臨床大会, 岡山 (6.2~6.4, 2005).
4. 青田明子, 斎藤曉美, 小嶋なみ子, 二村昌樹, 明石真幸, 大矢幸弘, 秋山一男, 高橋清, 中川武正, 小林章雄, 鳥帽子田彰, 中村裕之, 小田嶋博, 足立雄一, 赤澤晃
全国全年齢階級別気管支喘息有症率調査 (第3報) 電話・郵送法による調査結果
第17回日本アレルギー学会春季臨床大会, 岡山 (6.2~6.4, 2005).
5. 中村裕之, 秋丸国広, 大下喜子, 長瀬博文, 松崎一葉, 笹原信一朗, 荻野景規
高齢労働者の精神的健康度に関する労働態様および心理社会的因子の解析
第15回体力・栄養免疫学会, 宇部 (8.20~8.21, 2005).
6. 中村裕之, 秋丸国広, 山崎千春, 東川史子, 信国好俊, 宮川清, 本橋豊, 松崎一葉, 笹原信一朗, 荻野景規, 遠藤朝彦, 今井透, 小笹晃太郎, 八田耕太郎, 鳥帽子田彰
スギ花粉症と CCR 遺伝子および CCL 遺伝子の相関に関する患者対照研究
日本人類遺伝学会第 50 回大会, 倉敷 (9.19~9.22, 2005).
7. 秋丸国広, 宮崎直人, 山崎一郎, 蘆田真吾, 山崎千春, 中村裕之, 執印太郎
非家系腎細胞癌における薬物トランスポーター遺伝子の解析
日本人類遺伝学会第50回大会, 倉敷 (9.19~9.22, 2005).
8. 山本要, 中村裕之, 秋丸国広, 遠藤朝彦, 今井透, 本橋豊, 松崎一葉, 笹原信一朗, 荻野景規, 小笹晃太郎, 八田耕太郎, 鳥帽子田彰
スギ花粉症における NKT 細胞の測定とその免疫学的意義についての考察
第 64 回日本公衆衛生学会, 札幌 (9.14~9.16, 2005).
9. 中村裕之, 秋丸国広, 田口徹也, 上原健敬, 越智礼子, 近藤庸夫, 園延尚子, 富安玲子, 宮崎涼平, 北川隆夫
禁煙外来における禁煙成功をもたらす要因は何か? 一高知県の禁煙外来における患者研究
第64回日本公衆衛生学会, 札幌 (9.14~9.16, 2005).
10. 二村昌樹, 小嶋なみ子, 明石真幸, 青田明子, 斎藤曉美, 大矢幸弘, 秋山一男, 高橋清, 中川武正, 小田嶋博, 小林章雄, 鳥帽子田彰, 中村裕之, 足立雄一, 赤澤晃
ISAAC調査票による東京都小中学生のアレルギー疾患有症率
第55回日本アレルギー学会秋季学術大会, 盛岡 (10.20~10.22, 2005).
11. 中村裕之, 山本要, 秋丸国広, 遠藤朝彦, 今井透, 本橋豊, 松崎一葉, 笹原信一朗, 荻野景規, 小笹晃太郎, 八田耕太郎, 鳥帽子田彰
スギ花粉症とNKT細胞の関連に関する患者対照研究
第55回日本アレルギー学会秋季学術大会, 盛岡 (10.20~10.22, 2005).
12. 秋丸国広, 中村裕之, 山崎千春, 田中武司, 東川史子, 信国好俊, 宮川清, 本橋豊, 松崎一葉, 笹原信一朗, 荻野景規, 遠藤朝彦, 今井透, 小笹晃太郎, 八田耕太郎, 鳥帽子田彰
スギ花粉症とEotaxinファミリー遺伝子の相関に関する患者対照研究
第55回日本アレルギー学会秋季学術大会, 盛岡 (10.20~10.22, 2005).
13. 中村裕之, 秋丸国広, 山崎千春, 東川史子, 信国好俊, 宮川清, 本橋豊, 松崎一葉, 笹原信一朗, 荻野景規, 遠藤朝彦, 今井透, 小笹晃太郎, 八田耕太郎, 鳥帽子田彰
スギ花粉症におけるCCR遺伝子およびCCL遺伝子とその遺伝子相互作用
第5回分子予防環境医学研究会, 東京 (11.25~11.26, 2005).
14. 中村裕之, 山本要, 秋丸国広, 遠藤朝彦, 今井透, 本橋豊, 松崎一葉, 笹原信一朗, 荻野景規, 小笹晃太郎, 八田耕太郎, 鳥帽子田彰
予防医学的見地からスギ花粉症におけるNKT細胞の減少を考える
第3回日本予防医学会, 宇部 (12.10~12.11, 2005).
15. 秋丸国広, 宮崎直人, 山崎一郎, 蘆田真吾, 中村裕之, 執印太郎
癌予防を目的とした非家系腎細胞癌におけるOCT1遺伝子の多型解析
第3回日本予防医学会学術総会, 宇部 (12.10~12.11, 2005).
16. 山崎千春, 秋丸国広, 中村裕之, 東川史子, 信国好俊, 宮川清, 本橋豊, 松崎一葉, 笹原信一朗, 荻野景規, 遠藤朝彦, 今井透, 小笹晃太郎, 八田耕太郎, 鳥帽子田彰
スギ花粉症とEotaxin family遺伝子に関する症例対照研究
第3回日本予防医学会, 宇部 (12.10~12.11, 2005).
17. 中村裕之, 秋丸国広, 弘田量二, 大下喜子, 江間宏樹, 亀井麻依子, 小林健太郎, 土居麻悠, 中嶋安曜, 渡部敬之, 笹原信一朗, 松崎一葉
アレルギー性疾患における代替医療に関するメタアナリシス
第 16 回体力・栄養・免疫学会大会, 東京 (8.26~8.27, 2006).
18. 秋丸国広, 弘田量二, 中村剛, 張達川, 中村裕之
O-12: 環境中化学物質による IL-1 誘導 MCP-1 産生の

抑制

第 13 回日本免疫毒性学会学術大会, 倉敷 (9.14~9.15, 2006).

19. 秋丸国広, 弘田量二, 中村剛, 張達川, 中村裕之
404: 水道中化学物質による IL-1 誘導 MCP-1 産生抑制
第 56 回日本アレルギー学会総会, 東京 (11.2~11.4, 2006).
20. 弘田量二, 秋丸国広, 中村剛, 張達川, 中村裕之
IL-1 誘導 MCP-1 産生を指標とした環境化学物質の影響評価
第 6 回分子予防環境医学研究会, 京都 (12.1~12.2, 2006).
21. 中村裕之, 秋丸国広, 張達川, 弘田量二, 中村剛, 遠藤朝彦, 今井透, 本橋豊, 松崎一葉, 笹原信一朗, 荻野景規, 小笹晃太郎, 八田耕太郎, 烏帽子田彰
スギ花粉症における MCP-1(monocyte chemoattractant protein 1, CCL2)の遺伝子多型ハプロタイプに関する相関解析
第 4 回日本予防医学会, 大宮 (12.1~12.2, 2006).

<津田 正史教授>

1. 津田正史, 小口慶子, 岩本理恵, 岡本由美子, 富士江里, 小澤知子, 増田篤稔
D-10: 渦鞭毛藻由来抗腫瘍性マクロリドの迅速探索法および Iriomoteolide 類の分離
第 10 回マリンバイオテクノロジー学会大会, 山形 (5.26~5.27, 2007).
2. M. Tsuda, R. Iwamoto, K. Oguchi, Y. Okamoto
PC-5: Discovery of Cytotoxic Macrolides Using Genomics and Metabolomics Analyses: Isolation of Iriomoteolides from Amphidinium dinoflagellate
6th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium, Istanbul (7.8~7.11, 2007).
3. 津田正史, 小口慶子, 岩本理恵, 岡本由美子, 小林淳一, 富士江里, 川端潤, 小澤知子, 増田篤稔
P-39: ゲノム・メタボローム解析を活用したマクロリド産生渦鞭毛藻の探索と新規腫瘍性マクロリド Iriomoteolide 類の構造
第 49 回天然有機化合物討論会, 札幌 (9.19~9.21, 2007).
4. 津田正史 (口頭招待講演)
オーガナイズドセッション 04: 微細藻類由来化学物質の創薬素材としてのポテンシャル
2008 年生態工学会年次大会, 東京 (6.19~6.20, 2008).
5. M. Tsuda (oral)
Genomics and Metabonomics Analyses on Marine Dinoflagellate to Discover Antitumor Macrolides
11th International Conference on Applied Phycology, Galway, Ireland (6.21~6.27, 2008).
6. M. Tsuda, K. Oguchi (oral)
Iriomotelides, a series of cytotoxic macrolides from marine benthic *Amphidinium* dinoflagellate
International Conference on Biodiversity and Natural Products (ICOB-6 & ISCNP-26), Charlottetown, Canada (7.13~7.18, 2008).
7. M. Tsuda, K. Oguchi (Oral)
Cytotoxic macrolides from benthic *Amphidinium* dinoflagellate
7th Joint Meeting of AFERP, ASP, GA, PSE & SIF, Athene, Greece (8.3~8.8, 2008).
8. M. Tsuda, K. Oguchi, R. Iwamoto (Poster)
Discovery of Cytotoxic Macrolides from Marine Dinoflagellate
XXth International Symposium on Medicinal Chemistry, Vienna, Austria (8.31~9.4, 2008).
9. 熊谷慶子, 津田正史, 岩本理恵, 岡本由美子, 富士江里, 川端潤 (Poster)
P-45: 底棲性渦鞭毛藻より単離した新規奇数員環マクロリド Iriomoteolide-2a と 3a の構造

第 50 回天然有機化合物討論会, 福岡 (9.30~10.2, 2008).

10. K. Oguchi, M. Tsuda (Oral)
Iriomoteolides-4a and 5a, Unique Macrolides from Benthic Dinoflagellate *Amphidinium* Species
IUPAC, International Biotechnology Symposium 2008, Dalian, China (10.12~10.17, 2008).
11. M. Tsuda (oral, Invited)
Genomics and Metabonomics Analyses on Marine Dinoflagellate to Discover Antitumor Macrolides
1st Euro-Mediterranean Conference on Marine Natural Products, Sharm El Sheikh, Egypt (10.31~11.4, 2008).
12. K. Kumagai, M. Tsuda
Iriomoteolides-4a and 5a, New Macrolides from Dinoflagellate *Amphidinium* Species
1st Euro-Mediterranean Conference on Marine Natural Products, Sharm El Sheikh, Egypt (10.31~11.4, 2008).
13. M. Tsuda, K. Kumagai (oral)
Cytotoxic Macrolides from Symbiotic Dinoflagellate *Amphidinium* Species Living in Flatworm Lake in Palau
8th Asia-Pacific Marine Biotechnology Conference, Busan South Korea (11.12~11.15, 2008).
14. K. Kumagai, M. Tsuda (Poster)
Genomics and metabonomics analyses on marine dinoflagellate to discover new antitumor metabolites 8th Asia-Pacific Marine Biotechnology Conference, Busan South Korea (11.12~11.15, 2008).

<大嶋 俊一郎准教授>

1. I. A. Kadariah, 川合研児, 大嶋俊一郎
Studies on the bacterial count of *Flavobacterium psychrophilum* and its application for the epizootiological survey of cold water disease.
日本魚病学会学術集会, 津 (9.29.~10.1, 2005).
2. 今城雅之, 藤井宏美, 平野琢也, 大嶋 俊一郎
サケ科魚類を宿主とするラブドおよびビルナウイルスの混合感染におけるウイルス複製の制限
第 53 回日本ウイルス学会学術集会, パシフィコ横浜 (11.20~11.22, 2005).
3. 今城雅之, 井川拓也, 大嶋俊一郎
マダイイリドウイルス感受性のマダイ由来細胞株樹立の試み
第 53 回日本ウイルス学会学術集会, パシフィコ横浜 (11.20~11.22, 2005).
4. 今城雅之, 安東明美, 大嶋俊一郎
マリンビルナウイルスのウイルス粒子構築における VP2 の形態学的特性
第 53 回日本ウイルス学会学術集会, パシフィコ横浜 (11.20~11.22, 2005).
5. 平山健史, 斎藤照生, 福田穎穂, 大嶋俊一郎
Koi herpesvirus(KHV)感染細胞の形態的特徴および感染阻害剤の検討
第 53 回日本ウイルス学会学術集会, パシフィコ横浜 (11.20~11.22, 2005).
6. 新元 一, 川合研児, 大嶋俊一郎
近年国内で分離されたマダイイリドウイルスのゲノム DNA の解析
日本水産学会学術集会, 高知大学 (3.29~4.2, 2006).
7. 今城雅之, 安東明美, 井川拓也, 川合研児, 大嶋俊一郎
マリンビルナウイルスのポリプロテイン preVP2-NS-VP3 の切断部位の決定
日本水産学会学術集会, 高知大学 (3.29~4.2, 2006).
8. 青木雅俊, 中塚義春, 暁 和也, 川合研児, 大嶋俊一郎
ニジマス冷水病の自然感染の症状を再現できる感染実験系の確立
日本水産学会学術集会, 高知大学 (3.29~4.2, 2006).
9. 青木雅俊, 中塚義春, 暁 和也, 川合研児, 大嶋俊一郎

ニジマス冷水病ワクチンの感染防御効果

日本水産学会学術集会, 高知大学 (3.29~4.2, 2006).

10. 大嶋俊一郎
魚類ウイルス感染の概要と予防の意義
第 54 回日本ウイルス学会学術集会, 名古屋国際会議場 (11.19~11.21, 2006).
11. 今城雅之, 大嶋俊一郎
伝染性腭臓壊死症ウイルスならびに伝染性造血器壊死症ウイルスの混合感染におけるウイルス複製の制限
第 54 回日本ウイルス学会学術集会, 名古屋国際会議場 (11.19~11.21, 2006).
12. 今城雅之, 大嶋俊一郎
長野県のニジマスから分離された伝染性造血器壊死症ウイルスの系統解析と組換えウイルスタンパク質に対するポリクローナル抗体の作製
第 54 回日本ウイルス学会学術集会, 名古屋国際会議場 (11.19~11.21, 2006).
13. 平山健史, 大嶋俊一郎
アクアビルナウイルス感染細胞内における VP1 の動態および VP1-VP3-RNA 複合体に関する研究
第 54 回日本ウイルス学会学術集会, 名古屋国際会議場 (11.19~11.21, 2006).
14. 新元一, 大嶋俊一郎
マダイイリドウイルス流行感染の現状と新型ワクチン開発に関する研究
第 54 回日本ウイルス学会学術集会, 名古屋国際会議場 (11.19~11.21, 2006).
15. 井川拓也, 今城雅之, 新元一, 大嶋俊一郎
マダイ鱭由来の線維芽細胞の性状および高知県で分離されたマダイイリドウイルスの系統解析
第 54 回日本ウイルス学会学術集会, 名古屋国際会議場 (11.19~11.21, 2006).
16. 新元一, 井川拓也, 今城雅之, 大嶋俊一郎
魚類イリドウイルスのワクチン開発に関する研究
第55回日本ウイルス学会, 札幌市(10.21~10.23, 2007).
17. 今城雅之, 井川拓也, 大嶋俊一郎
マダイイリドウイルスのゼブラフィッシュ感染モデルについて
第55回日本ウイルス学会, 札幌市(10.21~10.23, 2007).
18. 大嶋俊一郎
魚類冷水病に対する実用的なワクチンの開発
日本水産学会(公開シンポジウム), 東広島(12.8~12.9, 2007).
19. 永野一郎, 井上靖子, 川合研児, 大嶋俊一郎
ブリ類結節症原因細菌を用いた実験感染
日本水産学会, 静岡市 (3.27~3.31, 2008).
20. 井川拓也, 今城雅之, 大嶋俊一郎
ゼブラフィッシュ初代培養細胞のマダイイリドウイルス感受性について
日本ウイルス学会, 岡山 (10.26~10.28, 2008).
21. 今城雅之, 平山健史, 大嶋俊一郎
2006 年に高知県の養殖ブリから分離された病原性アクアビルナウイルスについて
日本ウイルス学会, 岡山 (10.26~10.28, 2008).
22. 新元一, 井川拓也, 大嶋俊一郎
感染性魚類イリドウイルスの多様性—海面養殖における罹患魚から分離した魚類イリドウイルスの特性
日本ウイルス学会, 岡山 (10.26~10.28, 2008).
23. 井上靖子, 川合研児, 永野一郎, 大嶋俊一郎
ブリ類結節症の感染成立に関わる原因菌の性状
日本水産学会, 東京 (3.27~3.31, 2009).
24. 山本剛, 川合研児, 大嶋俊一郎
ヒラメ滑走細菌症の実験感染法の確立
日本水産学会, 東京 (3.27~3.31, 2009).

